

府 中 市

福祉計画（地域福祉）
調査報告書

平成20年3月

府 中 市

目 次

第1章 調査の概要	1
1 地域福祉調査	3
2 分析にあたって	5
第2章 まとめと課題	7
1 調査結果のまとめ	9
2 調査からみえた課題	11
第3章 調査の結果	17
1 地域福祉調査	19
(1) 基本属性	19
(2) 地域活動・ボランティア活動	26
(3) 相談・情報	47
(4) まちと心のバリアフリー	60
(5) 満足度	74
(6) 福祉に対する考え方	78
(7) 施策の方向	82
(8) 市への要望	90
2 共通質問	94
(1) 地域活動への参加	94
(2) 地域住民の協力関係、近所づきあい	102
(3) 災害時のための個人情報提供への考え方	109
資料編 調査票及び調査結果	111

第 1 章 調査の概要

1 地域福祉調査

(1) 調査の目的

府中市が今後策定する地域福祉計画などに役立てるため、市民の地域福祉に関する意見、要望を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

府中市内に居住する20歳以上の市民 3,000人
平成19年9月30日現在で住民基本台帳より無作為抽出

(3) 調査方法

郵送配布 - 郵送回収（督促礼状1回送付）

(4) 調査時期

平成19年10月9日～10月26日

(5) 回収率

発送・配布数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
3,000	1,638 (54.6%)	1,638 (54.6%)

(6) 調査項目

調査項目	問番号	設問
A 基本属性	F 1	性別
	F 2	年齢
	F 3	職業
	F 4	家族構成（同居家族と人数）
	F 5	介助・介護が必要な同居・近居の家族
	F 6	居住地域
	F 7	居住歴
	F 8	住宅の所有形態・種類・居住階
B 地域活動・ボランティア活動	問 1	地域活動の経験 （付問：参加している活動の種類、参加しているボランティア活動の分野）
	問 2	今後参加したい活動
	問 3	子育て家庭・高齢者・障害者に行いたい手助け
	問 4	地域活動を行う上で必要な環境・条件
	問 5	地域住民の協力関係の必要性 （付問：地域住民の協力関係を築くために必要なこと）
	問 6	地域住民による協力を受けることへの希望 （付問：受けたくない理由）
C 相談・情報	問 7	日常生活の悩みや不安
	問 8	災害時について不安に思うこと
	問 9	地域の相談相手
	問 10	相談事業の認知度
	問 11	福祉サービスの情報入手方法と今後の希望
D まちと 心のバリアフリー	問 12	近所づきあいの現状（付問：つきあいのない理由）
	問 13	住民が助け合う「地域」と感じる範囲
	問 14	建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況
	問 15	外出先での手助けの経験（付問：手助けしなかった理由）
	問 16	心のバリアフリーを進めるために必要なこと
E 満足度	問 17	理想とする地域像
	問 18	地域の暮らしの満足度
F 福祉に対する考え方	問 19	「福祉」に対する考え方
	問 20	ソーシャルインクルージョンに関する考え方
G 施策の方向	問 21	定年退職後の地域活動支援への要望（*）
	問 22	介護保険サービスと保険料についての考え方
	問 23	福祉を充実するための住民参加（参画）の方法
	問 24	健康管理（介護予防）事業への参加希望
	問 25	市が優先的に取り組むべき地域福祉サービス
	問 26	市への要望＜自由回答＞

* 問 21 は 40 歳代以上への質問

2 分析にあたって

(1) 地域別の分析

地域福祉計画を推進するにあたり、地域別の集計分析を行っている。

地域別の分析に用いたのは、府中市の福祉エリアである第一地区～第六地区である。府中市にはさまざまなエリア分けがあるが、本エリアは民生委員・児童委員地区として、また介護保険事業計画の日常生活圏域として位置づけられ、市民や関係者、事業者等にもなじみのある地区分けとなっている。

第一地区～第六地区までの該当町名は次のとおりである。なお、実際の調査は、回答者にお住まいの町名を記入いただき、あとで振り分ける形式をとった。

第一地区：	多磨町、朝日町、紅葉丘、白糸台(1～3丁目)、若松町、浅間町、緑町
第二地区：	白糸台(4～6丁目)、押立町、小柳町、八幡町、清水が丘、是政
第三地区：	天神町、幸町、府中町、寿町、晴見町、栄町、新町
第四地区：	宮町、日吉町、矢崎町、南町、本町、片町、宮西町
第五地区：	日鋼町、武蔵台、北山町、西原町、美好町(1～2丁目)、本宿町(3～4丁目)、 西府町(3～4丁目)、東芝町
第六地区：	美好町(3丁目)、分梅町、住吉町、四谷、日新町、本宿町(1～2丁目)、 西府町(1～2、5丁目)

(2) 共通質問の設定

地域福祉計画を考えていくにあたっては、すべての市民が年齢や要介護状態、障害のあるなしにかかわらず、安心していきいきと暮らし続けることができ、支え合い、社会参加できるようにしていくため、各福祉分野の結果についても地域福祉分野で分析し、計画に反映していく必要がある。

本調査は20歳以上の市民を対象とした調査であるが、調査結果を補足し、比較を行う必要があるため、設計にあたっては高齢者一般、障害のある人、難病患者にも一部共通質問のお願いをし、それらと比較しながら分析を進めることとした。

これらの結果については、第3章 - 2 で各調査結果を比較し、課題の整理に役立てている。

共通質問の一覧

調査により選択肢が異なる

	地域福祉 調査	高齢者一般 調査	障害のある 人への調査	難病患者 調査
地域活動への参加程度	問 1	問 6	問 11	問 8
参加している地域活動の種類	問 1 - 1	問 6 - 1	問 11 - 1	問 8 - 1
今後参加したい活動	問 2	問 7		-
地域活動を行う上で必要な環境・条件	問 4	問 8	問 12	問 9
地域住民の協力関係の必要性	問 5	問 9		-
地域住民の協力関係を築くために必要なこと	問 5 - 1	問 9 - 1		-
近所づきあいの現状	問 12	問 12	問 10	問 7
近所づきあいのない理由	問 12 - 1	問 12 - 1		-
防災のための個人情報提供への考え方		問 14 (利用者、未利用者も)	問 15	問 12

第2章 まとめと課題

1 調査結果のまとめ

第3章調査の結果の「1 地域福祉調査」と、「2 共通質問」の分析から、それぞれの調査結果を以下にまとめる。

(1) 地域福祉調査の結果のまとめ

- ・ 基本属性から、およそ4分の1が「65歳以上の方」と、約2割が「乳児を除く小学校入学前の幼児」と同居・近居であることから、いざという時の手助けを必要とする住民は少ないことが予想される。
- ・ 地域活動については、まったく参加していない割合が約半数を占め、前回調査に比べ地域活動の参加は進んでいない様子である。
- ・ 地域の相談相手としては、「行政の窓口」が最も多くあげられ、高齢になるほど「行政の窓口」を相談先としている割合が高い。また、相談事業の認知度についても「市役所の相談窓口」の認知度は約3分の2で最も多い。
- ・ まちのバリアフリーについては、公共施設をはじめハード面では整備が進んでいるとの実感が広がっている様子であるが、案内やサインなどのソフト面では整備が実感されていない。
- ・ 近所づきあいは、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が4割と最も多く、前回調査に比べて「ほとんど近所づきあいをしない」で増加の傾向がみられる。
- ・ 理想とする地域像は、「子どもがいきいきと育つまち」、「高齢者が暮らしやすいまち」が上位にあげられている。
- ・ 地域の暮らしの満足度は、買い物や交通の面では高い満足度が示されているが、サークルやボランティアの活動、地域の交流などについては満足度が低い。
- ・ 福祉に対する考え方としては、「高齢者、障害者、児童などのために、国、都、あるいは市が必要な施設を整備して支援すること」が約4割で最も多い。
- ・ 定年退職後の地域活動支援としては、「地域住民と協働できる機会の提供」、「生涯学習活動への支援」、「子どもの安全や子育てに貢献できる活動への支援」が上位にあげられている。
- ・ 市が優先的に取り組むべき地域福祉サービスとしては、「福祉サービスに関する情報提供を提供すること」、「的確な相談が受けられるようにすること」、「団塊世代など退職後の人々が地域活動で力を生かせる機会を増やすこと」が上位にあげられている。
- ・ 性年代別にみて特徴的なことは、地域活動を行う上で必要な環境・条件として、男女共に20歳代は「身近なところや便利なところに活動の場があること」が最も多く、30歳代以上の男性と30歳代、40歳代の女性は「夜間や休日または平日昼間など、自分にあつた時間帯に参加できること」が最も多くなっている。また、日ごろの福祉サービスの情報入手方法で、性年代別では20歳代の男女と40歳代の男性では「市のホームページ」、50歳代以上の男女は「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」と、明確に分かれている。
- ・ 地域別にみて特徴的なことは、地域活動・ボランティア活動の参加率が最も高い第五地区

では、近所づきあいにおいて「個人的なことを相談し合える人がいる」の割合が他地区に比べて高くなっている。

- ・ 自由回答においても、「情報の入手に関すること」や「バリアフリー、ユニバーサルデザインに関すること」が数多くあげられ、関心の高さがうかがえる。

(2) 共通質問の分析結果のまとめ

- ・ 地域活動への参加状況を見ると、男女若年層、障害のある人、難病患者などで参加率が低くなっている。参加している地域活動の種類を見ると、性・年齢別、障害の有無別などで大きな違いが見られる。これらの違いは主としてライフステージによるものと身体の利用自由度によるものと言える。
- ・ 今後参加したい活動では、「興味のある知識や教養が得られる活動」、「自分の楽しみが得られる活動」が全体的に希望が高くなっている。他方で「隣近所の人と協力し合える活動」は高齢者で高く、「地域や社会に役立つ活動」は50歳代を中心としてより若い層で希望が高かった。
- ・ 地域活動を行う上で必要な条件については、地域福祉調査（市民）の回答が「身近なところや便利なところに活動の場があること」が多かったのに対し、障害のある人、難病患者ではこの割合が5割を下回った。これらの人々では「地域の人々の理解・協力が得られること」、「参加したくない」、「無回答」の割合が比較的高く、ハンディキャップのある人にとっては参加しにくいのが現状と推察される。
- ・ 地域住民の協力関係の必要性については高齢者のほうが強く感じている。しかし、協力関係を構築するために必要なこととして、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりを持つよう心がけること」、「地域の人々が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること」などについては女性20歳代の回答が高く高齢者を上回っている。
- ・ 男女20歳代、知的障害のある人、精神障害のある人の3割以上が「ほとんど近所づきあいをしない」と回答している。
- ・ 防災のための個人情報提供については、どの層からも否定的な回答は少なかった。

2 調査からみえた課題

地域福祉分野の調査結果と共通質問の調査結果のまとめから、地域福祉計画の施策の方向を踏まえ、大きく5つの柱に沿って課題を整理する。

(1) 誰もが質の高いサービスを利用できるように

新しい情報提供のあり方の必要性

日ごろの福祉サービスの情報入手方法(問11-1)については、「広報ふちゅうや市のパンフレット」が全体の6割と最も多く、「町内の回覧板」、「家族や親族」が続いている。性年代別では20歳代の男女と40歳代の男性では「市のホームページ」、50歳代以上の男女は「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」が情報源として上位にあげられている。

市では、市の総合的な情報提供として「広報ふちゅう」や「市のホームページ」などの充実に努めているところであるが、さまざまな障害への配慮や多国語への対応なども含めた、新しい情報提供のあり方を検討し、アクセスを確保していく必要がある。

地域に密着した相談体制の整備

地域の相談相手(問9)によると、「行政の相談窓口」が最も多く、年代が上がるほど高くなっている。また、相談事業の認知度(問10)についても、「市役所の相談窓口」が最も多くなっている。こうしたことから「行政の窓口」の果たす役割が非常に大きいことがうかがえる。一方、地域の相談相手(問9)で「相談できる相手がいない」が特に若年層で多くなっている。

現在、市では「市役所の相談窓口」のほかに、高齢者の介護や介護予防に関することは在宅介護支援センターや地域包括支援センター、子育てに関することは子ども家庭支援センターなどで、相談内容に応じて各種の相談事業を行っている。

今後は行政窓口が地域の身近な相談先となるよう、平日の日中に相談窓口に足を運びにくい若い世代や子育て世代も地域で相談できる体制を整備するなどさらなる充実が求められる。

(2) いきいきと暮らせるまちづくりのために

地域活動のきっかけづくり

地域活動の経験(問1)は、「まったく参加していない」が最も多く約半数を占める。また前回調査に比べどの性年代別にみても参加していない割合が高くなるなど、地域活動への参加が進んでいる状況とは言えない。

地域活動を行う上で必要な環境・条件(問4)は、性年代別にみると、男女共20歳代は「身近なところや便利なところに活動の場があること」が最も多くなっている。また、30歳代以上の男性と30歳代、40歳代の女性は「夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること」が最も多い。地域活動に求められるものは主に『場所』と『時間帯』

であり、ライフスタイルと密接に関係していると考えられる。共通質問の分析から、男女若年層、障害のある人、難病患者などで参加率が低いことから、男女、年齢、障害や病気の有無に関係なく、参加したい活動には参加できるような仕組みを整備していく必要があると思われる。特にハンディキャップのある人でも、参加にあたっての障害を取り除いていく工夫をすることが求められる。

市内では11の文化センターで地域の様々な活動を支援しているが、さらに活動のすそ野が広がるよう、各種講習会や講演会などの開催など、地域活動のきっかけづくりを行うことが求められる。また、地域活動・ボランティア活動の参加率が高く、近所づきあいにおいて「個人的なことを相談し合える人がいる」の割合が高い地区等をモデルとして、地域で学びあう機会を提供することも考えられる。

団塊の世代の健康、生きがいづくり

現在50歳代後半の団塊の世代は、平成25年頃には定年退職者が多くなると想定され、地域での時間を多く過ごす市民が増えることが予想される。

調査結果においても、これからの市の「利用者本位の福祉」を実現するために取り組むべき施策（問25）についての質問で3位に「団塊世代など退職後の人々が地域活動で力を生かせる機会を増やすこと（39.7%）」があげられ、団塊世代などの退職後の人々の地域活動には注目が集まっている様子がうかがえる。

40歳以上を対象とした定年退職後の地域活動支援への要望（問21）では、「地域住民と協働できる機会の提供」が最も多く、「生涯学習活動への支援」、「子どもの安全や子育てに貢献できる活動への支援」が上位にあげられている。また、共通質問のうち、今後参加したい活動として、「地域や社会に役立つ活動」は50歳代を中心としてより若い層で希望が高かった。

こうした結果をふまえ、健康づくりや生きがいづくりに役立つ活動が提供できるよう、様々なメニューを用意しておく必要がある。

新しい人材育成のしくみづくり

ボランティア活動の参加（問1-1）では、参加している割合が高いとは言えない状況。また、サークルやボランティア活動についての満足度も低い（問18）。

市ではNPOとの協働推進事業などを展開しているところであるが、継続的な地域活動の展開のためには人材育成が不可欠であるため、さらに活動のすそ野を広げる人材育成のしくみづくりが必要と考えられる。

（3）身近な地域での支えあいのまちづくりに向けて

地域での助け合いのネットワークづくり

地域住民の協力関係（問5）では、「ある程度必要だと思う」と「必要だと思う」と合わせると『必要があると思う人』は9割を超える。

地域住民の協力を受けることへの希望（問6）は、「どちらかといえば受けたい」、「受けた

い」を合わせて4割程度。受けたくない理由としては、「地域の人に気をつかうことが嫌だから」や「プライバシーが守られるかどうか不安だから」が上位にあげられている。

これらの結果から、地域での助け合いについては、多くの人が必要性を感じながらも、自分が協力を受けることには抵抗がある様子が見える。

一方、地域住民の協力関係を築くために必要なこととして、「地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること」が上位にあげられている。また、共通質問の分析によると、地域住民の協力関係の必要性については高齢者のほうが強く感じているが、協力関係を構築するために必要なこととして、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりを持つよう心がけること」、「地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること」などについては女性20歳代の回答が高く高齢者を上回っていることから、年齢階層別のニーズに合わせた地域住民の協力関係の仕組みづくりの方策を模索すべきと思われる。

また、このような各層のニーズとその背後にある住民の抵抗感に配慮した、地域住民のネットワークづくりに重点を置いた地域活動拠点の整備などが望まれる。

地域での新たな関係づくりの機会創出

住民が助け合う「地域」と感じる範囲（問13）は、「隣近所」、「町内会・自治会」で7割を超え、「顔見知りがある範囲」を地域と考えている市民が多い。また、近所づきあいの程度（問12）については、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が4割と最も多く、「ほとんど近所づきあいをしない」が前回調査より増加の傾向が見られるなど、近所づきあいの希薄化が危惧される。

つきあいのない理由は、「普段つきあう機会がないから」、「仕事や家事・育児などで忙しく時間がないから」が主な理由であることから、町内会・自治会と協働した若年層が参加しやすい地域イベントの開催など、地域で趣味や話題を共有できる機会の創出が求められる。

また、共通質問の分析によると男女20歳代、知的障害のある人、精神障害のある人の3割以上が「ほとんど近所づきあいをしない」と回答している。行政や市民団体などから地域でのつきあいのきっかけ作りやサポートの方策を検討する必要もあると考えられる。

また、自由回答では、古くから住んでいる人と、新しく移り住んできている人の2層のギャップを指摘する意見が見られている。さまざまな住民同士の交流も必要である。

(4) 安心して、安全に、誰もが暮らせるまちづくりのために

ソーシャルインクルージョンの普及啓発

ソーシャルインクルージョンに関する質問（問20）では、「障害のある人となない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である」、「児童や高齢者の虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である」については意識が高かったが、ひきこもりやニート、生活保護受給者、ホームレスなどについては支持が低く、地域社会全体での取組みに消極的な態度が見える。このように徐々に市民に浸透しつつあるソーシャルインクルージョンに関する理解であるが、さらに地域から深める啓発活動を展開することが求められる。

人権の尊重（権利擁護）

理想とする地域像（問 17）は、「子どもがいきいきと育つまち」が最も多く、「高齢者が暮らしやすいまち」、「困ったときに隣近所で助け合えるまち」が続いている。

理想とする地域像を実現するためには、人権を尊重した活動が基盤となることから、児童の権利に関する条約、成年後見制度など、人権の尊重を重視した権利擁護体制を充実することが必要と考えられる。

（5）みんなで進める人にやさしいまちづくりのために

福祉のまちづくりの啓発・教育、仕組みづくり

「福祉」に対する考え方（問 19）は、「高齢者、障害者、児童などのために、国、都、あるいは市が施設を整備して支援すること」が最も多く、約4割を占めている。

福祉を充実するための住民参加（参画）の方法（問 23）については、「町内会・自治会や子ども会など地域単位の組織活動を活発にし、地域住民同士が横のつながりを保つこと」、「行政と住民の意見交換の機会を設けること」が上位にあげられた。このような市民の意識をさらに高める機会の提供として、ワークショップや懇談会など、地域住民同士が集まり直接参加できる仕組みを検討していくことが望まれる。

ユニバーサルデザインの促進

公共施設のバリアフリーについて（問 14）は、整備が進んでいると市民が実感している様子であるが、案内やサインなども含めたまち全体の特にソフト面でのユニバーサルデザインの整備については途上であると認識されていることが明らかになった。また、意識のバリアフリーもまだ十分でなく（問 15）、市民同士が手助けし合う機会も少ない様子である。

市の取り組みとして、ユニバーサルデザインガイドライン（平成 19 年）が示されたところである。今後、これに沿った施設等の整備が進められていくことになるが、一方「情報のバリアフリー」については、今回の調査で整備が途上であると感じられている部分であり、こうしたことから案内やサインなども含めたまちづくり展開を重点的に行うことが必要だと考えられる。また、ユニバーサルデザインを面的に実現するために、ハード、ソフトの個々のバリアフリーがネットワーク化されることが必要である。

学校教育との連携

心のバリアフリーを進めるために必要なこと（問 16）は、「学校で障害者とともに学習すること等により、子どものころから自然に接する環境で過ごすこと」が最も多く6割を超えている。

また、この質問の回答として「学校で、車いす体験をしたり、手話等を覚える授業が活発に行われるようになること」も上位にあげられていることから、学校生活を通じた青少年期からの取り組みが地域福祉に生かされるプログラムづくりなどが期待される。

災害時の不安への対応、早急なしくみづくり

介助・介護が必要な同居・近居の家族（F5）は、「いずれもない」が4割であることから6割が介助・介護が必要な家族と同居または近居していることがわかる。災害時に不安に思うこと（問8）は、「所在、安否の確認」が約7割を占め最も多く、「避難生活」、「正確な情報の入手」が続いている。

市では、安全安心なまちづくりを目指して緊急情報提供サービス「府中市安全安心メール」の配信を開始し、情報の提供を図っている。

防災のための個人情報提供については、どの層からも否定的な回答は少なかったことから、今後はプライバシー保護に配慮しながらも、不安がある家庭に対し、市の福祉分野と消防との連携など災害時には手助けが行き届くような地域の協力体制の整備が必要である。

第3章 調査の結果

< 図表のみかた >

- 1 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN（Number of case）、それ以外の場合にはnと表記しています。
- 2 %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合（例えば99.9%、100.1%）があります。
- 3 年代別、要介護度別などは、未回答の方がいたため、合計が全体とは一致しません。
- 4 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、%の合計は100%にならないことがあります。
- 5 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されています。

1 地域福祉調査

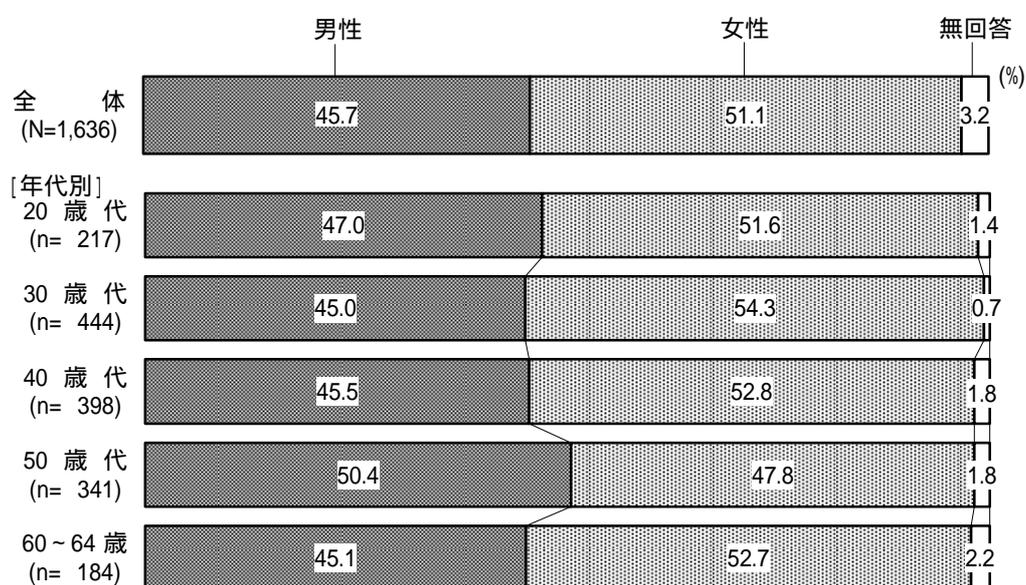
(1) 基本属性

性別 (F1)

性別は、「男性 (45.7%)」、「女性 (51.1%)」であった。

年代別にみると、「50歳代」は「男性 (50.4%)」が「女性 (47.8%)」を上回っているが、他の年代は「女性」が「男性」をわずかに上回っている (図表1-1-1)。

図表1-1-1 性別 (全体、年代別)

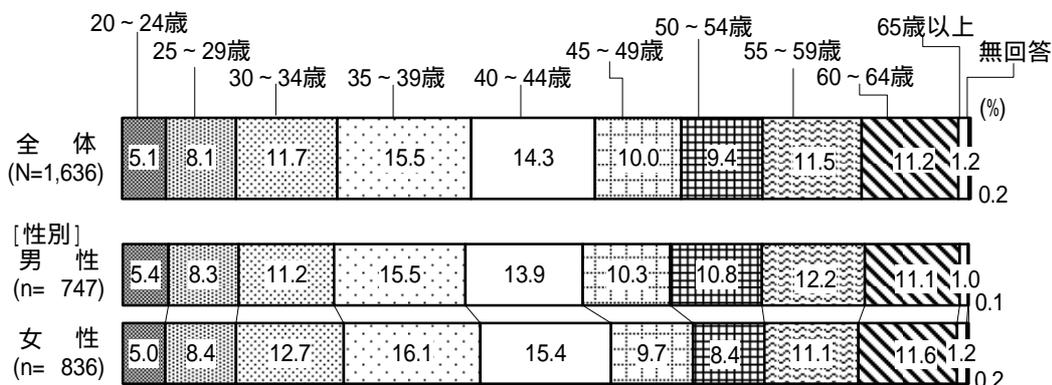


年齢 (F 2)

年齢は、「35～39歳(15.5%)」が最も多く、「40～44歳(14.3%)」、「30～34歳(11.7%)」が続いている。

性別にみると、ほぼ全体と同じ傾向であるが、「30～34歳」、「35～39歳」、「40～44歳」の《子育て世代》は女性が男性を上回っており、「45～49歳」、「50～54歳」、「55～59歳」は男性が女性を上回っている(図表1-1-2)。

図表1-1-2 年齢(全体、性別)



職業 (F 3)

職業は、「企業の社員・役員(従業員50人以上)(27.6%)」が最も多く、「専業主婦(夫)(16.4%)」、「パート・内職などの仕事(14.5%)」が続いている(図表1-1-3)。

図表1-1-3 職業(全体)

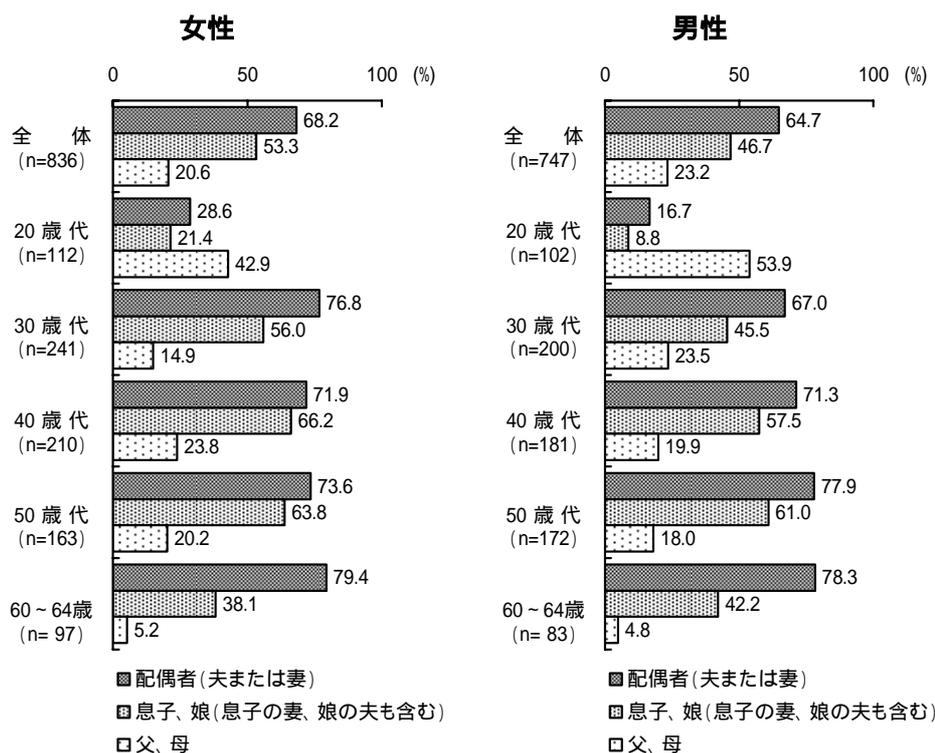
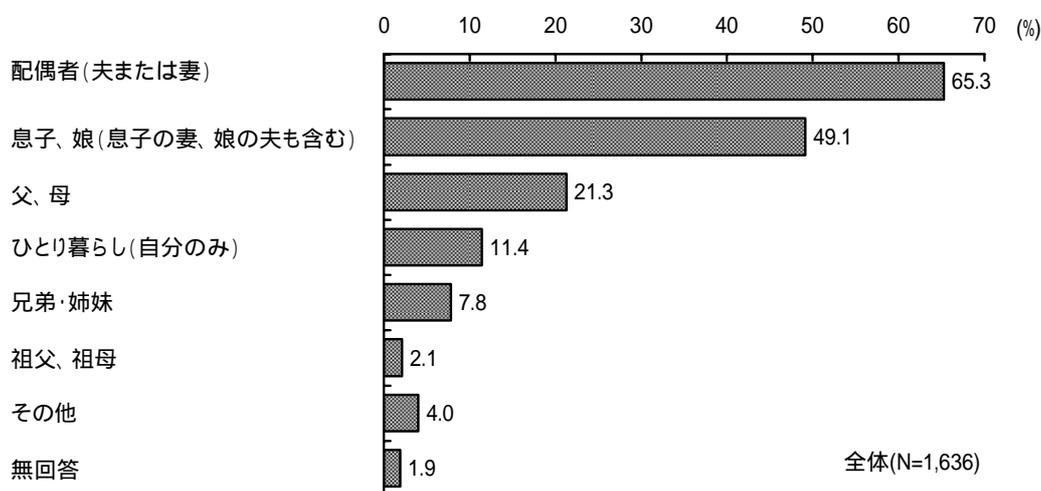


家族構成 (F 4)

家族構成(同居している家族)は、「配偶者(夫または妻)(65.3%)」が最も多く、「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)(49.1%)」、「父、母(21.3%)」が続いている。

性・年代別にみると、20歳代では男女共「父、母」の割合が最も高く、20歳代男性では「父、母(53.9%)」が半数以上となっている。30歳代以上は男女共「配偶者(夫または妻)」と同居する割合が60~80%を占めている。また、30歳代から50歳代は「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)」と同居する割合が50~65%を占めているが、60~64歳ではその割合は低くなり、女性では38.1%、男性では42.2%となっている(図表1-1-4)。

図表1-1-4 家族構成(全体、性・年代別：複数回答)

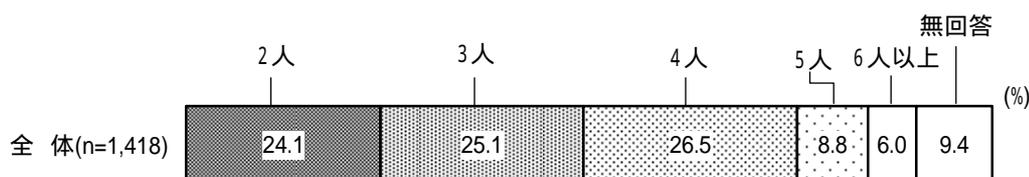


家族の人数 (F 4 - 1)

家族構成で「ひとり暮らし(自分のみ)」以外と回答した人に家族の人数(自分を含む)をたずねた。家族の人数は「4人(26.5%)」が最も多く、「3人(25.1%)」、「2人(24.1%)」が続いている(図表1-1-5)。

図表1-1-5 家族の人数

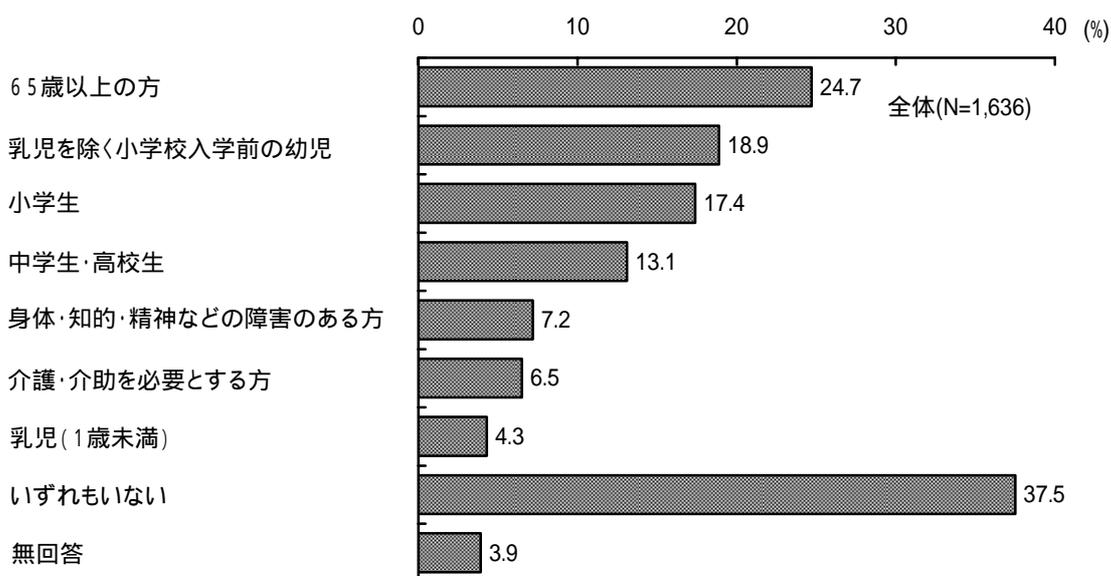
<家族構成で「ひとり暮らし(自分のみ)」以外と回答した人> (全体)



介助・介護が必要な同居・近居の家族 (F 5)

介助・介護が必要な同居・近居の家族は、「65歳以上の方(24.7%)」が最も多く、「乳児を除く小学校入学前の幼児(18.9%)」、「小学生(17.4%)」が続いている。「いずれもない」は37.5%となっている(図表1-1-6)。

図表1-1-6 介助・介護が必要な同居・近居の家族 (全体：複数回答)



居住地域 (F 6)

居住地域は、「第一地区(20.5%)」が最も多く、「第二地区(19.8%)」と「第六地区(18.5%)」が続いている(図表 1 - 1 - 7)。

図表 1 - 1 - 7 居住地域 (全体)

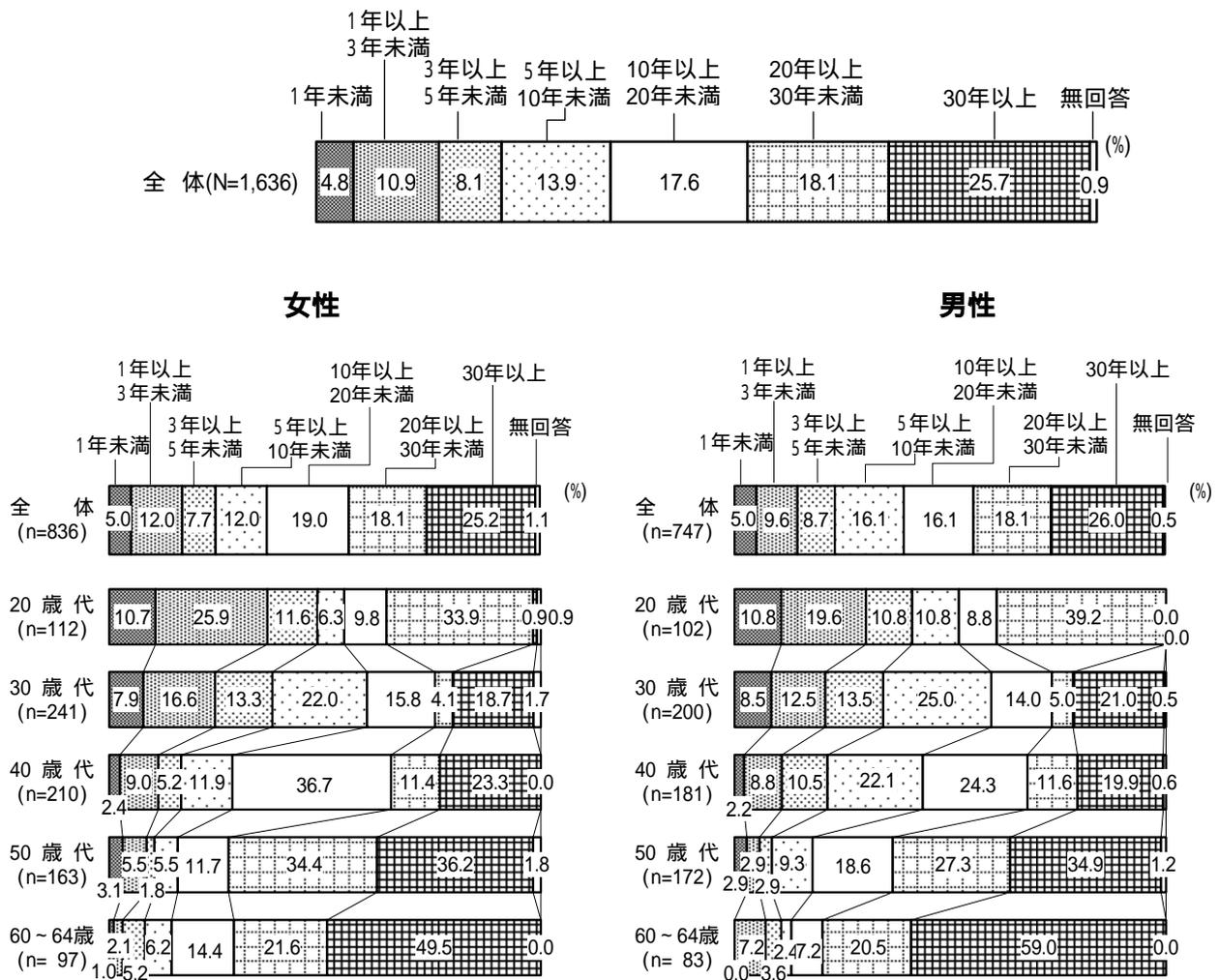


居住歴 (F 7)

居住歴は、「30年以上 (25.7%)」が最も多く、「20年以上 30年未満 (18.1%)」、「10年以上 20年未満 (17.6%)」が続いている。

性・年代別で見ると、20歳代は男女共「20年以上 30年未満」が最も多いが、30歳代では男女共「5年以上 10年未満」が最も多く 20%を超える。年代が上がるにつれ居住年数が長くなる傾向が見られ、60～64歳男性では「30年以上」が 59.0%となっている (図表 1 - 1 - 8)

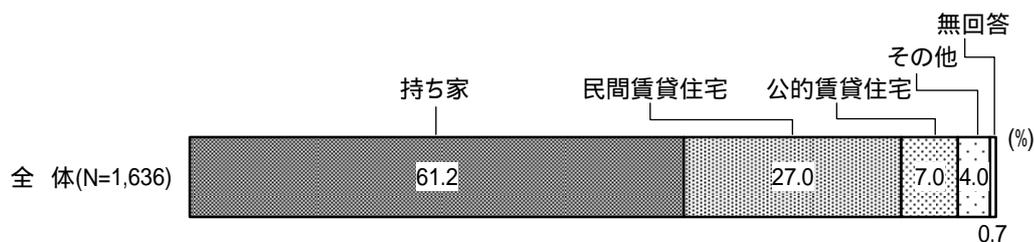
図表 1 - 1 - 8 居住歴 (全体、性・年代別)



住宅の所有形態 (F 8 - 1)

住宅の所有形態は、「持ち家 (61.2%) 」が最も多く、「民間賃貸住宅 (27.0%) 」、「公的賃貸住宅 (7.0%) 」が続いている (図表 1 - 1 - 9) 。

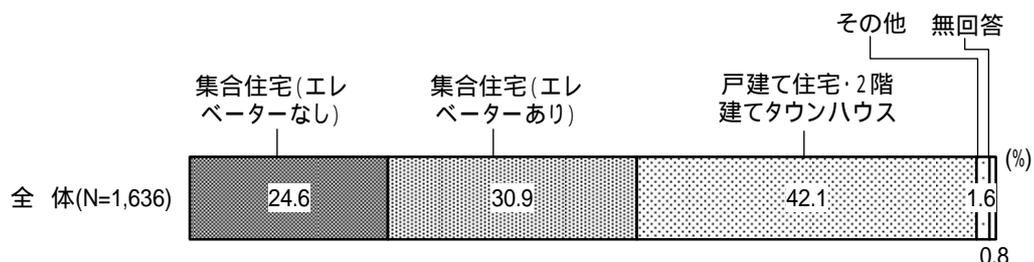
図表 1 - 1 - 9 住宅の所有形態 (全体)



住宅の種類 (F 8 - 2)

住宅の種類は、「戸建て住宅・2階建てタウンハウス (42.1%) 」が最も多く、「集合住宅 (エレベーターあり) (30.9%) 」、「集合住宅 (エレベーターなし) (24.6%) 」が続いている (図表 1 - 1 - 10) 。

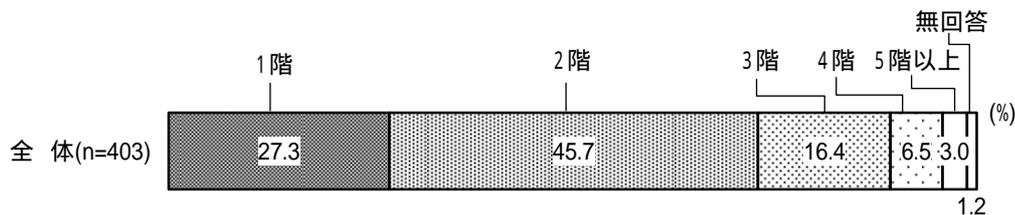
図表 1 - 1 - 10 住宅の種類 (全体)



居住階 (F 8 - 3)

住宅の種類で「集合住宅 (エレベーターなし) 」と答えた人に居住階をたずねた。居住階は、「2階 (45.7%) 」が最も多く、「1階 (27.3%) 」、「3階 (16.4%) 」が続いている (図表 1 - 1 - 11) 。

図表 1 - 1 - 11 居住階 (全体)



(2) 地域活動・ボランティア活動

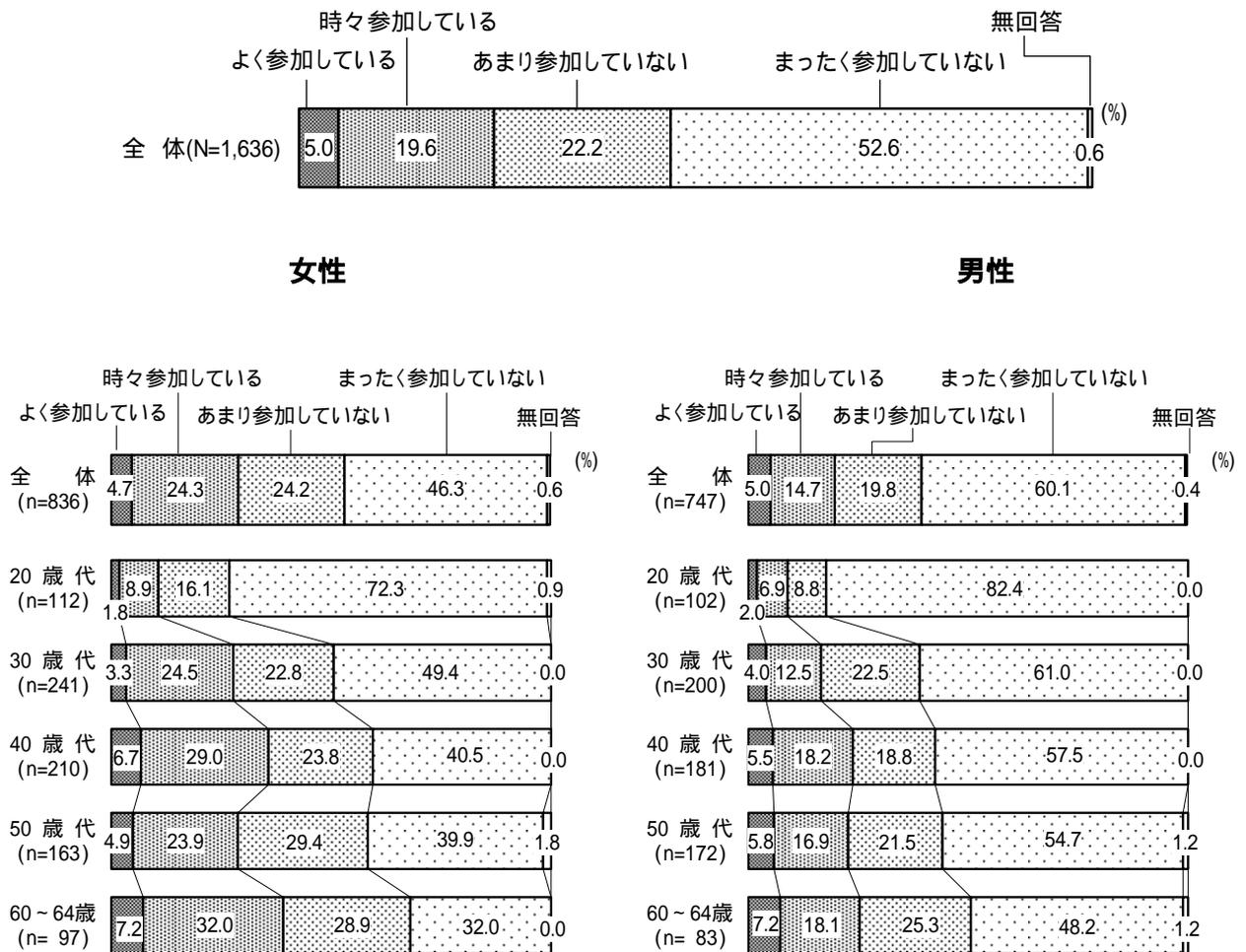
地域活動への参加程度(問1)

地域活動への参加程度は、「まったく参加していない(52.6%)」が最も多く、「あまり参加していない(22.2%)」、「時々参加している(19.6%)」が続いている。

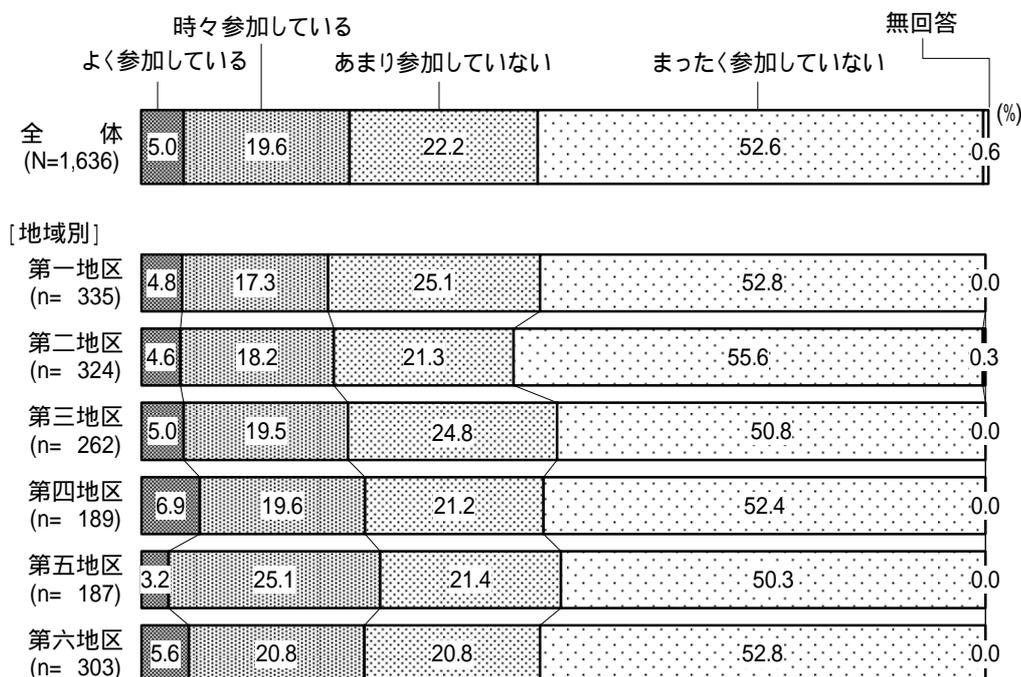
性・年代別にみると、男女共20歳代は「まったく参加していない」の割合が他の年代に比べ非常に多く、女性で72.3%、男性で82.4%となっている。年代が上がるにつれて「よく参加している」、「時々参加している」との回答が多くなる傾向があるが、男性に比べ女性の方がより顕著で、60～64歳女性では「時々参加している(32.0%)」が約3分の1を占めている(図表1-2-1-)。

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られず、どの地域も「まったく参加していない」が50～56%を占めている(図表1-2-1-)。

図表1-2-1- 地域活動への参加程度(全体、性・年代別)



図表 1 - 2 - 1 - 地域活動への参加程度（全体、地域別）



地域活動

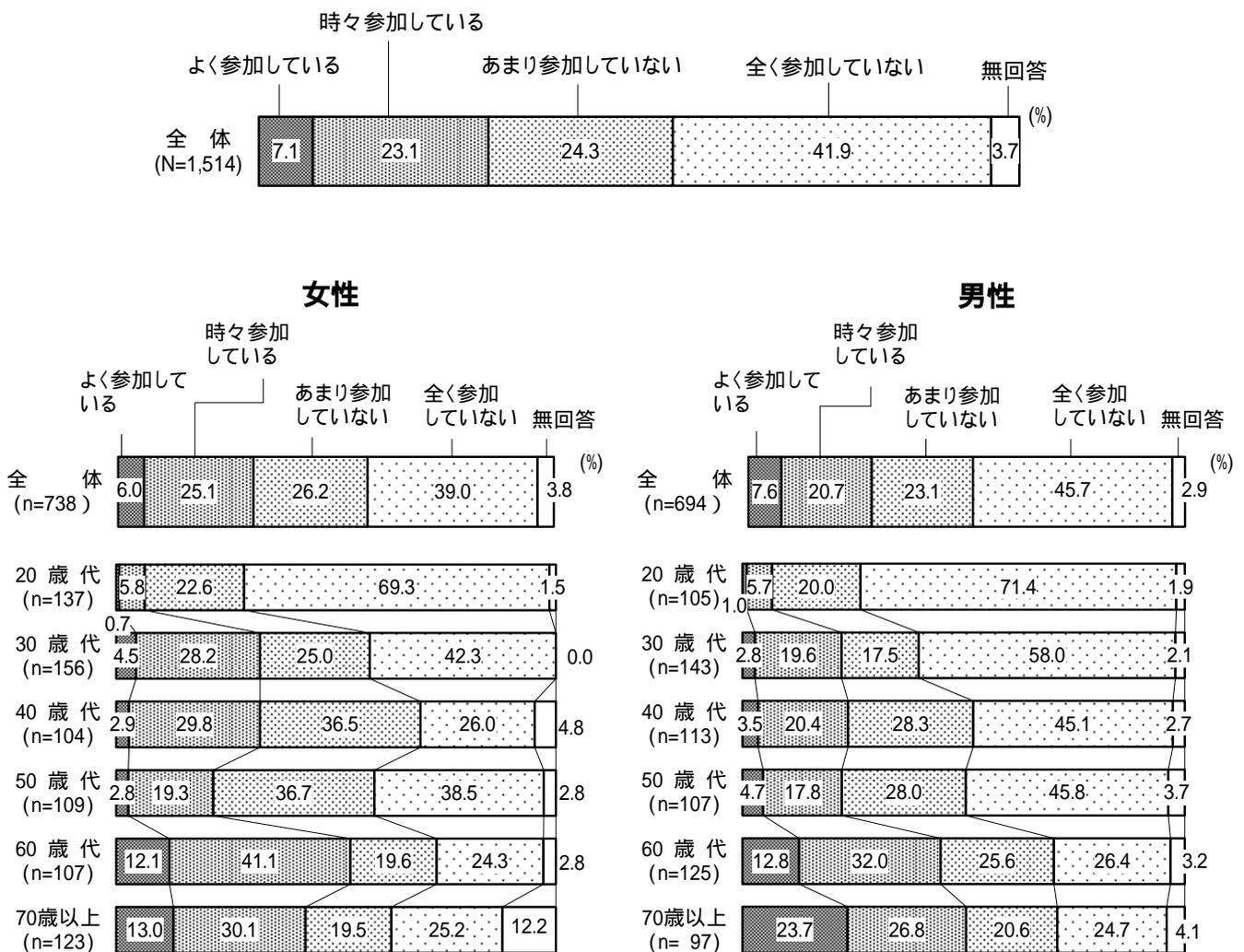
地域の社会的諸問題の解決や福祉向上のために、住民が主体となって地域を拠点として行われる活動。

ボランティア活動

自発的に、他者や社会のために行い、金銭的な利益を第一に求めない活動。また、誰もが暮らしやすい豊かな社会をめざして、人や団体とつながり、社会の課題の解決に取り組む活動。「自発性・主体性」「社会性・連帯性」「無給性・無償性」「創造性・先駆性・開拓性」がボランティアの4原則といわれる。

前回調査では、「よく参加している（7.1%）」、「時々参加している（23.1%）」、「あまり参加していない（24.3%）」、「全く参加していない（41.9%）」となっている。全体結果に70歳以上も入っているため単純な比較ができないが、性・年代別にみると「全く参加していない」の割合がどの性・年代別でも前回調査に比べて高くなっており、地域活動離れが進んでいる様子うかがえる（図表1-2-1- ）。

図表1-2-1- 地域活動への参加程度（全体、性・年代別）【平成14年度調査】



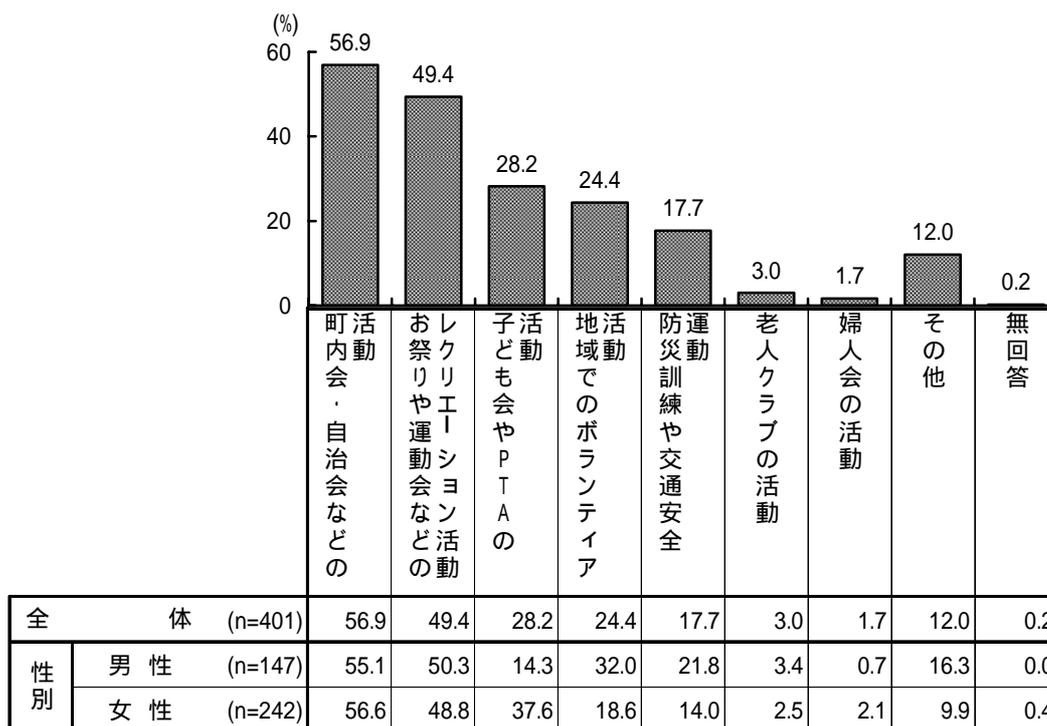
参加している地域活動の種類（問1-1）

地域活動の経験について「よく参加している」、「時々参加している」と答えた人に、参加している活動の種類をたずねた。参加している活動の種類は、「町内会・自治会などの活動（56.9%）」が最も多く、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動（49.4%）」、「子ども会やPTAの活動（28.2%）」が続いている。

性別にみると、男女とも「町内会・自治会などの活動」が最も多く、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」が続いているが、男性では3位に「地域でのボランティア活動（32.0%）」、女性では3位に「子ども会やPTAの活動（37.6%）」があげられており、男女差があらわれている（図表1-2-2）。

図表1-2-2 参加している地域活動の種類

<地域活動の経験について「よく参加している」、「時々参加している」と答えた人>
(全体、性別：複数回答)

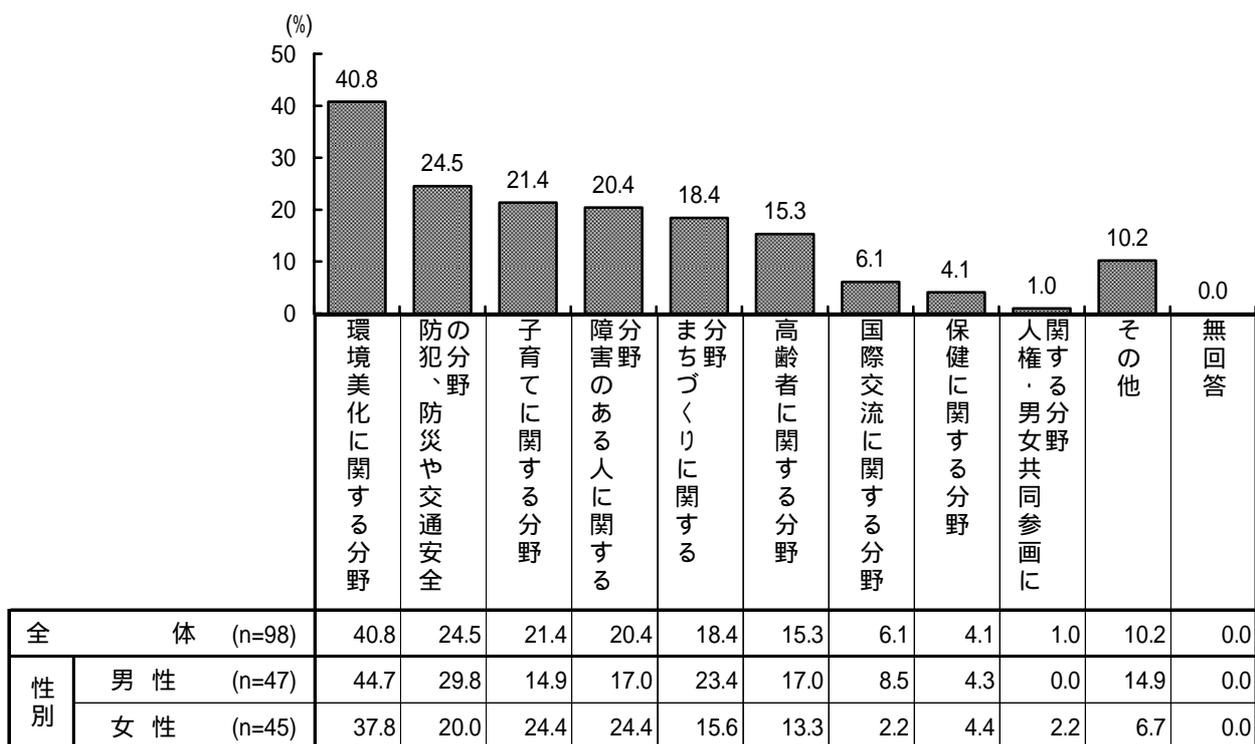


参加しているボランティア活動の分野（問1 - 2）

参加している活動の種類で「地域でのボランティア活動」と答えた人に、参加しているボランティア活動の分野をたずねた。参加しているボランティア活動の分野は、「環境美化に関する分野（40.8%）」が最も多く、「防犯、防災や交通安全の分野（24.5%）」、「子育てに関する分野（21.4%）」が続いている。

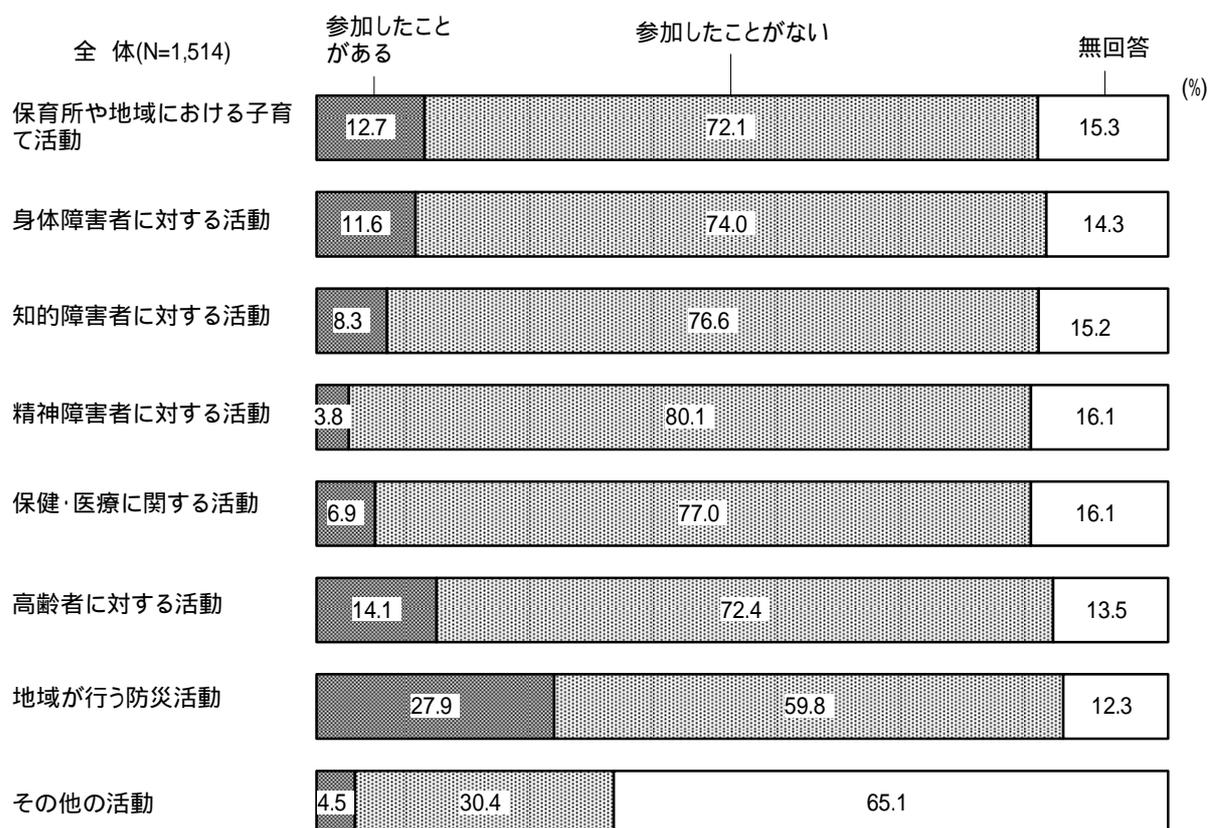
性別でみると男女共「環境美化に関する分野」が最も多いが、男性では「防犯、防災や交通安全の分野（29.8%）」、「まちづくりに関する分野（23.4%）」が続いているが、女性では「子育てに関する分野（24.4%）」、「障害のある人に関する分野（24.4%）」があげられ、男女で参加しているボランティア活動の分野に違いがみられる（図表1 - 2 - 3 - ）。

図表1 - 2 - 3 - 参加しているボランティア活動の分野
 <参加している活動の種類で「地域でのボランティア活動」と答えた人>
 （全体、性別：複数回答）



前回調査では、「地域が行う防災活動（27.9%）」が最も多く、「高齢者に対する活動（14.1%）」、「保育所や地域における子育て活動（12.7%）」が続いている。選択肢が異なるため比較が難しい（図表1-2-3- ）。

図表1-2-3- ボランティア活動の参加状況（全体）【平成14年度調査】

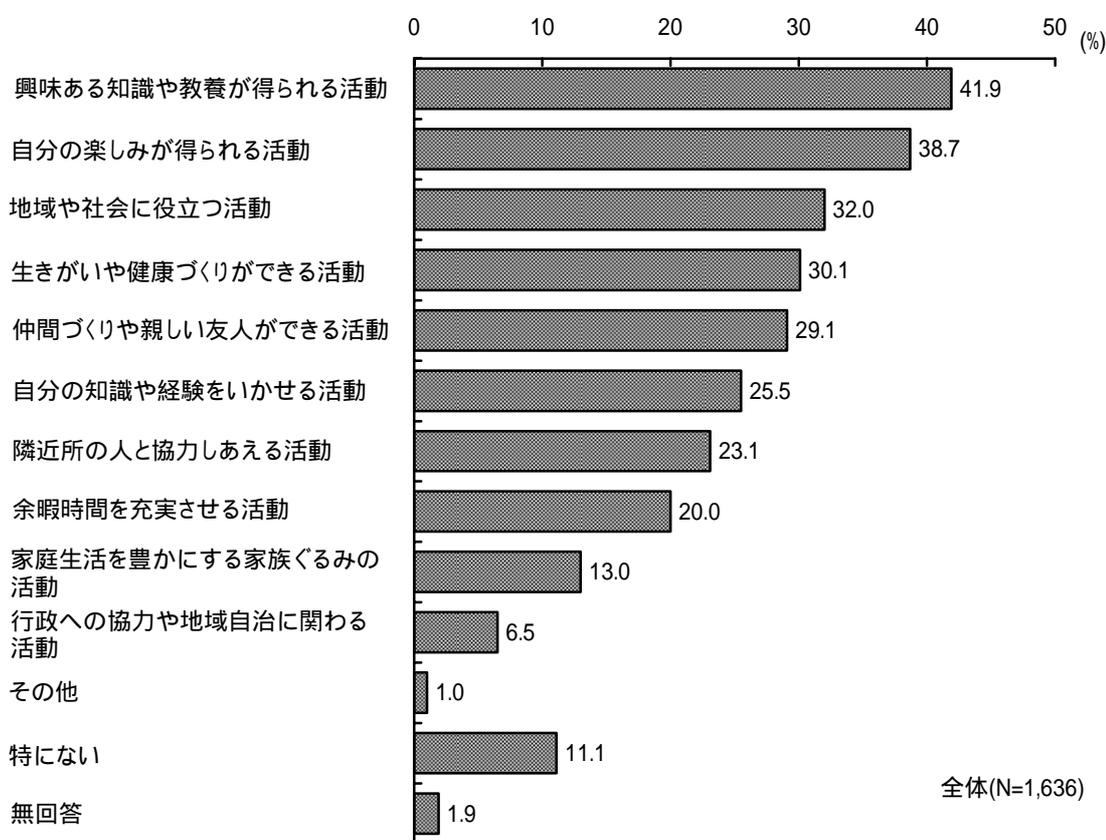


今後参加したい地域活動（問2）

今後参加したい地域活動は、「興味ある知識や教養が得られる活動(41.9%)」が最も多く、「自分の楽しみが得られる活動(38.7%)」、「地域や社会に役立つ活動(32.0%)」が続いている(図表1-2-4-)。

性・年代別にみると、男女共60～64歳で「生きがいや健康づくりができる活動」が1位にあげられるなど、今後参加したい活動は、性・年代で異なる傾向がみられる(図表1-2-4-)。

図表1-2-4- 今後参加したい地域活動（全体：複数回答）

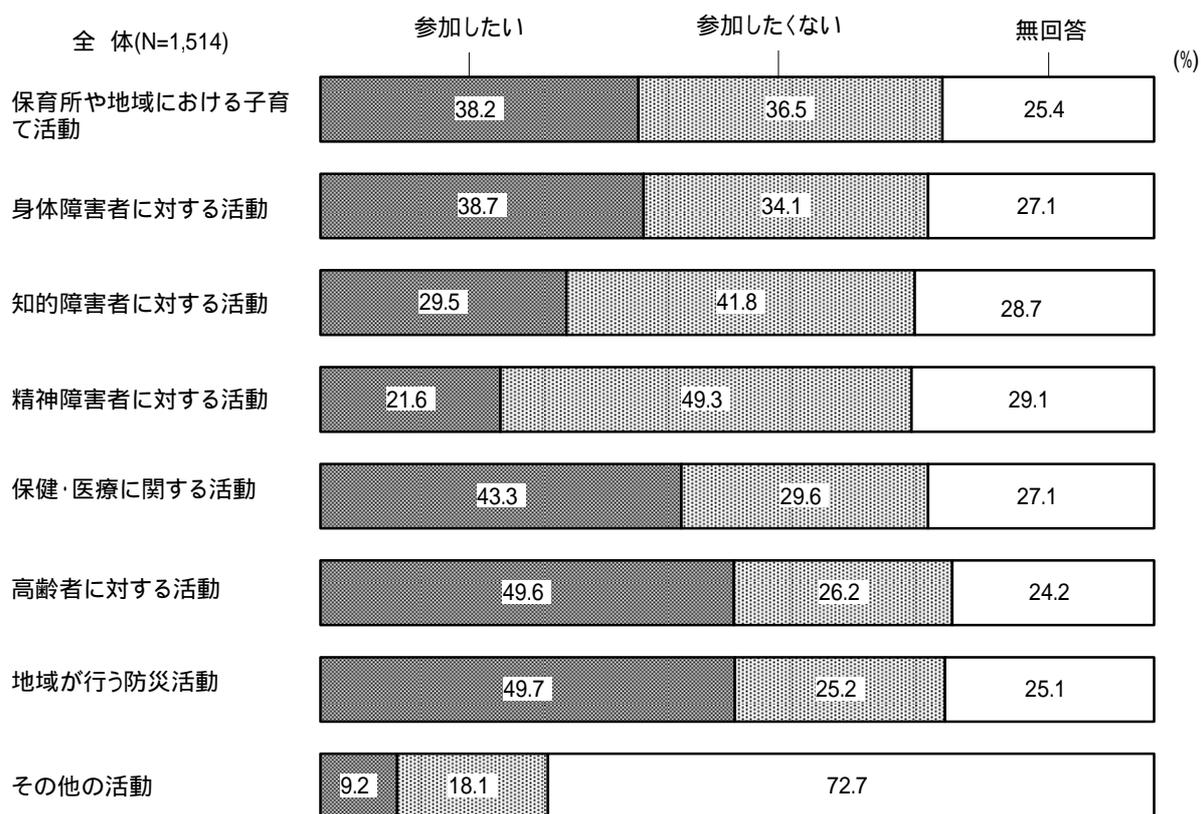


図表 1 - 2 - 4 - 今後参加したい地域活動（性・年代別、上位3位：複数回答）

		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	自分の楽しみが得られる活動 39.0	興味ある知識や教養が得られる活動 35.7	仲間づくりや親しい友人ができる活動 26.6
	20歳代 (n=102)	自分の楽しみが得られる活動 47.1	興味ある知識や教養が得られる活動 47.1	仲間づくりや親しい友人ができる活動 34.3
	30歳代 (n=200)	興味ある知識や教養が得られる活動 37.0	自分の楽しみが得られる活動 34.0	仲間づくりや親しい友人ができる活動 28.5
	40歳代 (n=181)	興味ある知識や教養が得られる活動 39.2	自分の楽しみが得られる活動 36.5	自分の知識や経験をいかせる活動 29.8
	50歳代 (n=172)	自分の楽しみが得られる活動 43.0	地域や社会に役立つ活動 40.7	生きがいや健康づくりができる活動 33.1
	60～64歳 (n= 83)	生きがいや健康づくりができる活動 43.4	自分の楽しみが得られる活動 38.6	地域や社会に役立つ活動 37.3
	女性	全体 (n=836)	興味ある知識や教養が得られる活動 48.0	自分の楽しみが得られる活動 39.1
20歳代 (n=112)	興味ある知識や教養が得られる活動 60.7	自分の楽しみが得られる活動 49.1	仲間づくりや親しい友人ができる活動 38.4	
30歳代 (n=241)	興味ある知識や教養が得られる活動 47.3	仲間づくりや親しい友人ができる活動 39.0	自分の楽しみが得られる活動 36.9	
40歳代 (n=210)	興味ある知識や教養が得られる活動 50.0	自分の楽しみが得られる活動 40.0	生きがいや健康づくりができる活動 38.1	
50歳代 (n=163)	興味ある知識や教養が得られる活動 46.0	生きがいや健康づくりができる活動 44.8	地域や社会に役立つ活動 38.7	
60～64歳 (n= 97)	生きがいや健康づくりができる活動 45.4	自分の楽しみが得られる活動 43.3	隣近所の人と協力しあえる活動 37.1	

前回調査では、「地域が行う防災活動（49.7%）」が最も多く、「高齢者に対する活動（49.6%）」、「保健・医療に関する活動（43.3%）」が続いている。選択肢が異なるため比較が難しい（図表1-2-4- ）。

図表1-2-4- ボランティア活動への参加意向（全体）【平成14年度調査】

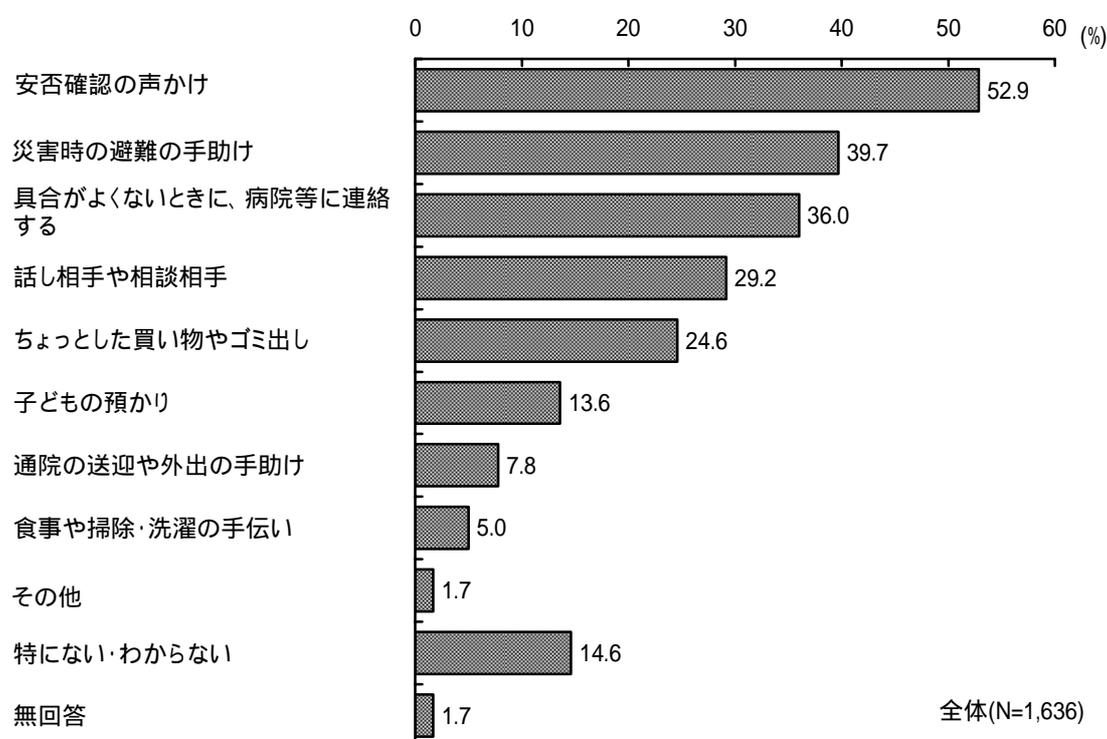


子育て家庭・高齢者・障害者に行いたい手助け（問3）

子育て家庭・高齢者・障害者に行いたい手助けは、「安否確認の声かけ（52.9%）」が最も多く、「災害時の避難の手助け（39.7%）」、「具合がよくないときに、病院等に連絡する（36.0%）」が続いている（図表1-2-5- ）。

性・年代別にみると、男性ではどの年代も「災害時の避難の手助け」が最も多く、女性ではどの年代も「安否確認の声かけ」が最も多くなっている（図表1-2-5- ）。

図表1-2-5- 子育て家庭・高齢者・障害者に行いたい手助け（全体：複数回答）



図表1 - 2 - 5 - 子育て家庭・高齢者・障害者に行いたい手助け
(性・年代別、上位3位：複数回答)

		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	災害時の避難の手助け 49.7	安否確認の声かけ 46.7	具合がよくないときに、病院等に連絡する 35.2
	20歳代 (n=102)	災害時の避難の手助け 51.0	具合がよくないときに、病院等に連絡する 43.1	安否確認の声かけ 41.2
	30歳代 (n=200)	災害時の避難の手助け 51.5	安否確認の声かけ 47.0	具合がよくないときに、病院等に連絡する 34.0
	40歳代 (n=181)	災害時の避難の手助け 51.9	安否確認の声かけ 50.8	具合がよくないときに、病院等に連絡する 32.6
	50歳代 (n=172)	災害時の避難の手助け 49.4	安否確認の声かけ 47.7	具合がよくないときに、病院等に連絡する 33.1
	60～64歳 (n=83)	災害時の避難の手助け 44.6	安否確認の声かけ 42.2	具合がよくないときに、病院等に連絡する 39.8
	女性	全体 (n=836)	安否確認の声かけ 58.5	具合がよくないときに、病院等に連絡する 37.1
20歳代 (n=112)		安否確認の声かけ 47.3	具合がよくないときに、病院等に連絡する 42.0	災害時の避難の手助け 41.1
30歳代 (n=241)		安否確認の声かけ 53.9	具合がよくないときに、病院等に連絡する 39.8	話し相手や相談相手 33.2
40歳代 (n=210)		安否確認の声かけ 62.4	具合がよくないときに、病院等に連絡する 38.1	話し相手や相談相手 35.7
50歳代 (n=163)		安否確認の声かけ 64.4	ちょっとした買い物やゴミ出し 36.2	話し相手や相談相手 31.3
60～64歳 (n=97)		安否確認の声かけ 68.0	ちょっとした買い物やゴミ出し 42.3	話し相手や相談相手 40.2

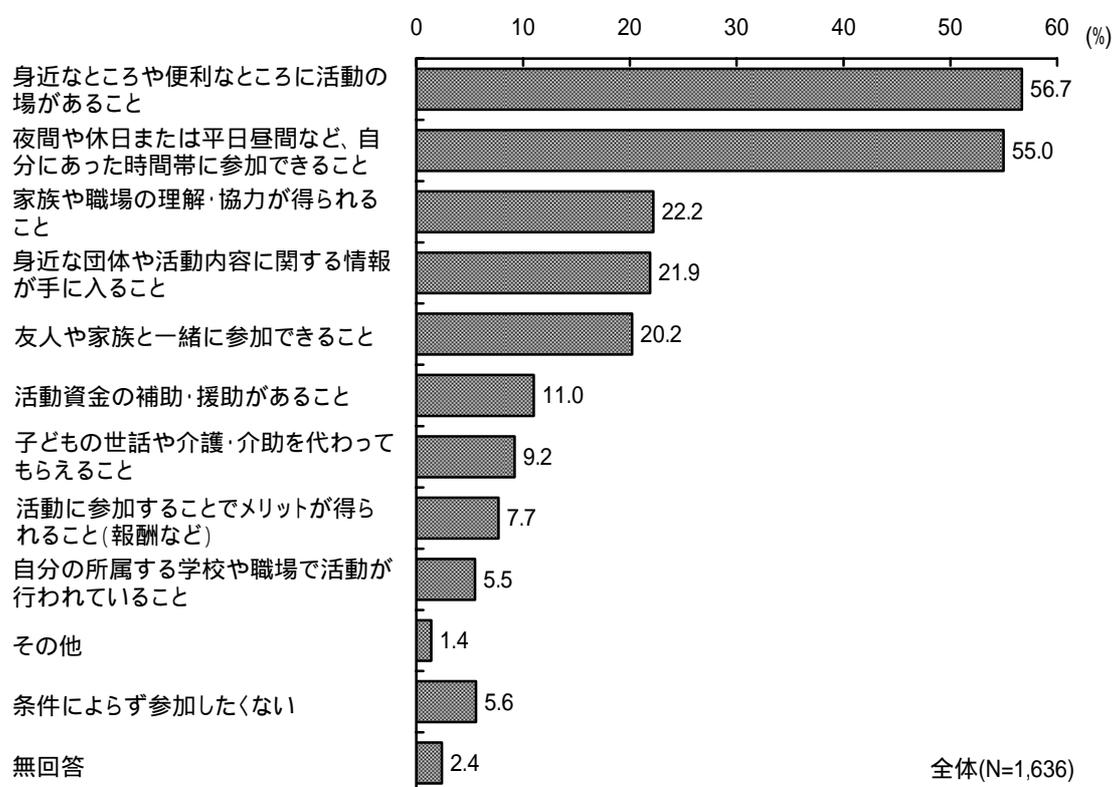
地域活動を行う上で必要な環境・条件（問４）

地域活動を行う上で必要な環境・条件は、「身近なところや便利なところに活動の場があること（56.7%）」が最も多く、「夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること（55.0%）」、「家族や職場の理解・協力が得られること（22.2%）」が続いている（図表1-2-6- ）。

性・年代別にみると、男女共20歳代は「身近なところや便利なところに活動の場があること」が最も多くなっている。また、30歳代以上の男性と30歳代、40歳代の女性は「夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること」が最も多く、地域活動に求められる《場所》と《時間帯》はライフスタイルと密接な関係があることがうかがえる（図表1-2-6- ）。

地域別にみると、全体的な傾向は共通しているが、第一地区では「身近なところや便利なところに活動の場があること（61.5%）」が4.8ポイント高く、第二地区では「身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること（27.2%）」が全体よりも5.3ポイント高いなど、地区によって求められる環境や条件が異なると考えられる（図表1-2-6- ）。

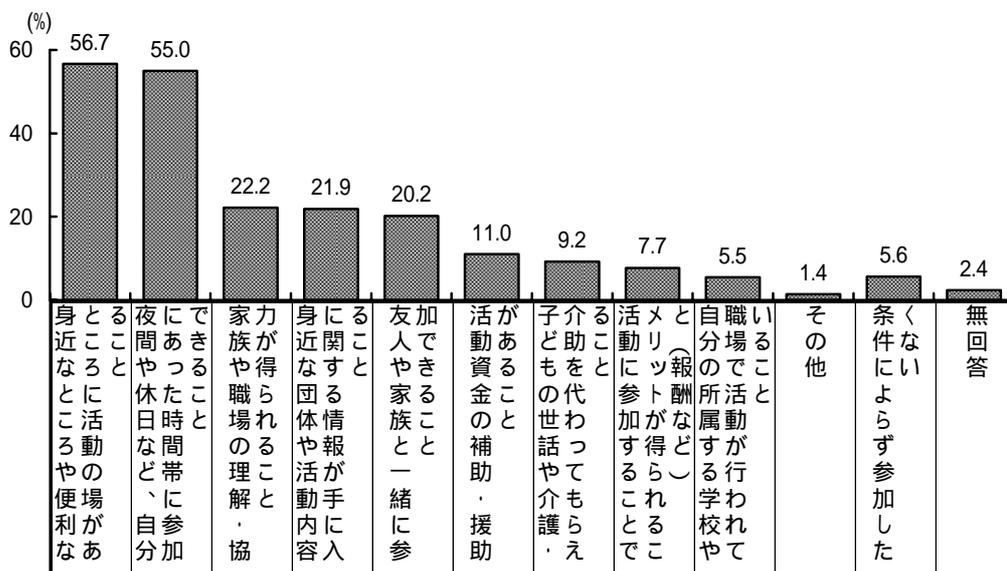
図表1-2-6- 地域活動を行う上で必要な環境・条件（全体：複数回答（3つまで））



図表1 - 2 - 6 - 地域活動を行う上で必要な環境・条件（性・年代別：複数回答（3つまで））

		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 54.6	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 53.1	家族や職場の理解・協力が得られること 23.4
	20歳代 (n=102)	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 55.9	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 49.0	友人や家族と一緒に参加できること 32.4
	30歳代 (n=200)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 59.5	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 50.5	家族や職場の理解・協力が得られること 29.5
	40歳代 (n=181)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 59.7	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 51.9	家族や職場の理解・協力が得られること 30.4
	50歳代 (n=172)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 51.7	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 50.6	身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること 29.1
	60～64歳 (n= 83)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 66.3	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 48.2	身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること 27.7
	女性	全体 (n=836)	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 59.8	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 55.9
20歳代 (n=112)	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 51.8	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 51.8	身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること 24.1	
30歳代 (n=241)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 58.1	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 54.8	友人や家族と一緒に参加できること 27.4	
40歳代 (n=210)	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 62.4	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 60.5	家族や職場の理解・協力が得られること 26.2	
50歳代 (n=163)	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 66.9	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 51.5	身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること 25.8	
60～64歳 (n= 97)	身近なところや便利なおとろに活動の場があること 72.2	夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること 53.6	身近な団体や活動内容に関する情報が手に入ること 35.1	

図表 1 - 2 - 6 - 地域活動を行う上で必要な環境・条件（地域別：複数回答（3つまで））



全体 (n=1,636)		56.7	55.0	22.2	21.9	20.2	11.0	9.2	7.7	5.5	1.4	5.6	2.4
地域別	第一地区 (n= 335)	61.5	54.6	22.4	21.2	20.6	10.4	9.6	7.5	5.7	1.5	4.5	2.7
	第二地区 (n= 324)	54.6	57.1	21.9	27.2	18.5	10.8	9.6	8.0	6.2	1.2	4.3	2.2
	第三地区 (n= 262)	55.3	56.9	23.3	24.8	16.8	10.7	6.1	7.3	6.5	2.3	5.7	2.7
	第四地区 (n= 189)	54.5	52.9	19.6	19.6	23.8	13.2	7.4	9.0	5.3	0.5	7.4	2.1
	第五地区 (n= 187)	59.9	56.7	24.1	17.6	21.4	10.7	10.2	9.6	4.3	2.7	5.9	1.6
	第六地区 (n= 303)	55.1	53.1	22.8	19.1	23.4	10.6	11.6	6.6	5.0	0.7	6.3	2.0

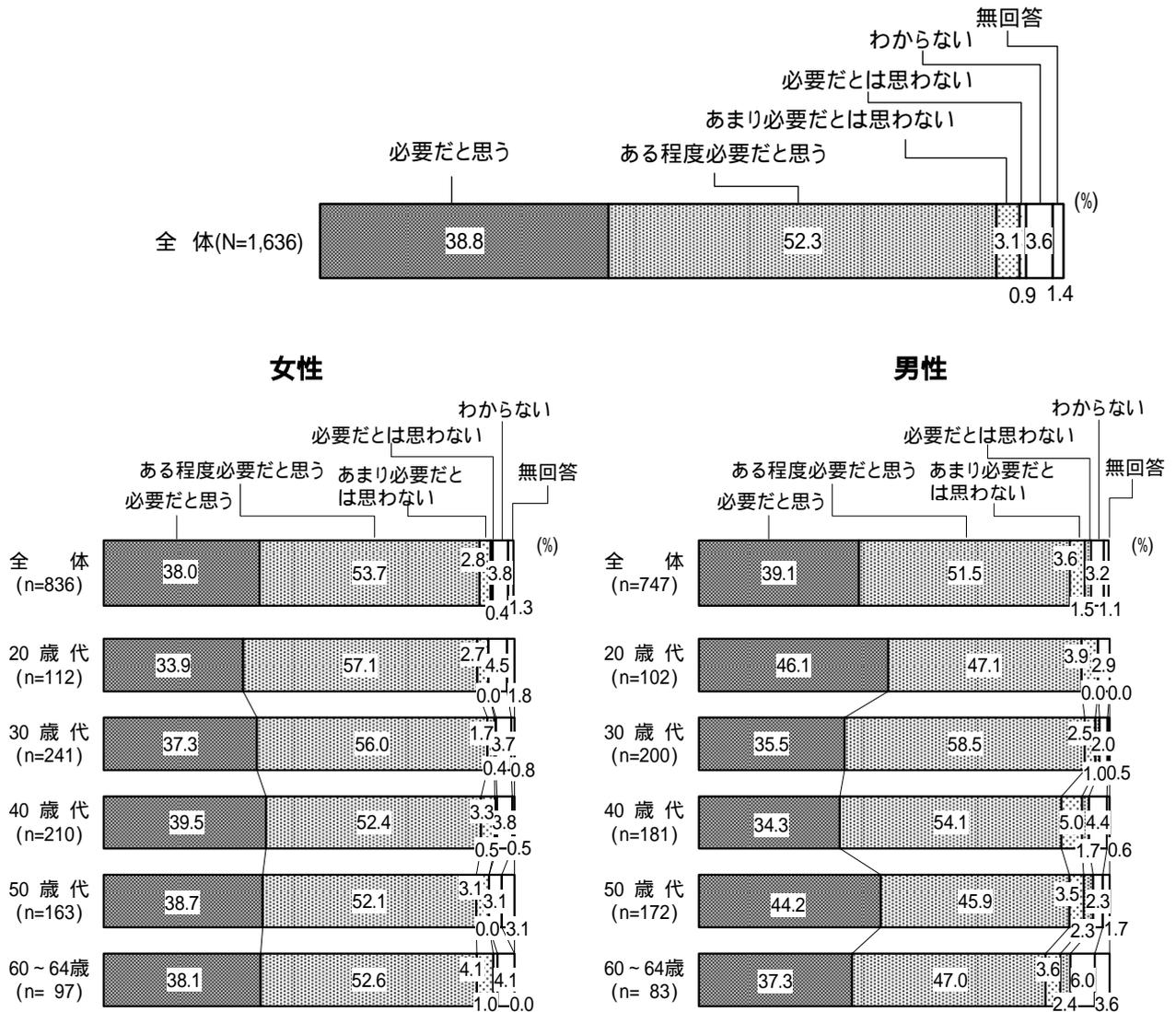
地域住民の協力関係の必要性（問5）

地域住民の協力関係は、「ある程度必要だと思う（52.3%）」が最も多く、続く「必要だと思う（38.8%）」と合わせると『必要だと思う人』は9割を超えている。

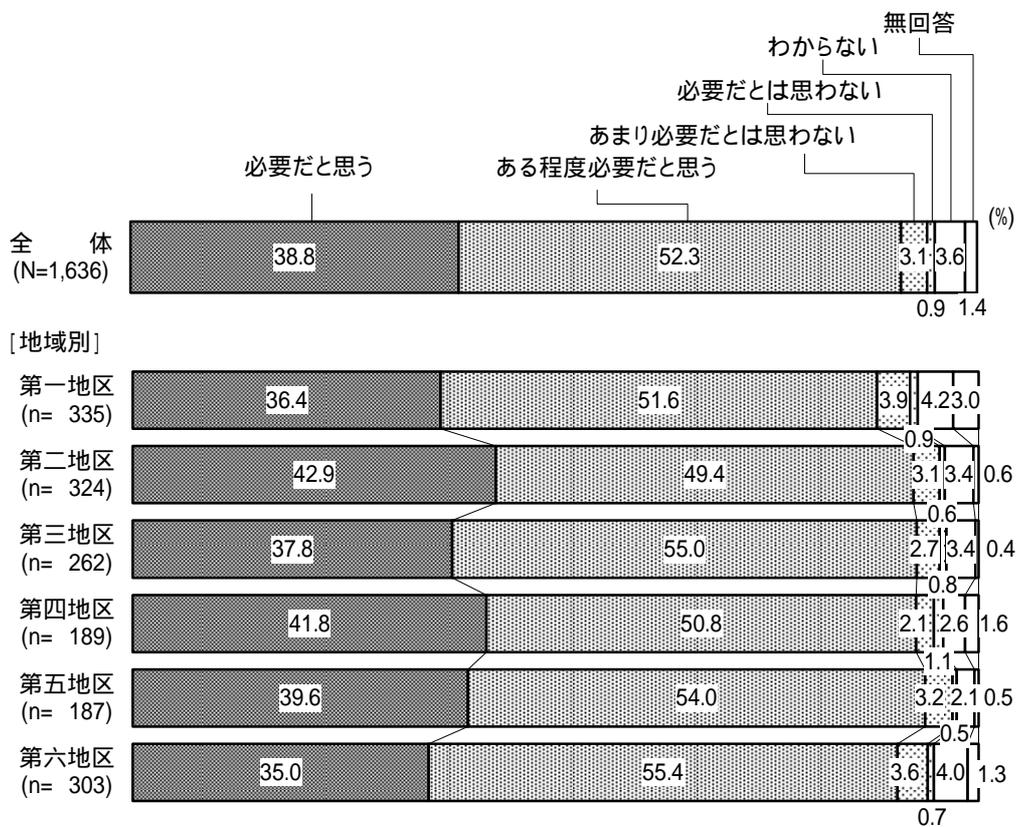
性・年代別にみると、女性は20歳代で「必要だと思う（33.9%）」が全体よりも4.9ポイント低いですが、30歳代以上は全体とほぼ同様の傾向である。一方、男性は20歳代と50歳代で「必要だと思う」が5ポイント以上高くなっており地域住民の協力関係を重視している様子が見え、40歳代では「あまり必要だとは思わない（5.0%）」がどの性・年代よりも高く、男性は考え方が多様であると考えられる（図表1-2-7- ）。

地域別にみると、第二地区、第四地区で「必要だと思う」が40%を超え、地域住民の協力関係の必要性を重視している様子が見え（図表1-2-7- ）。

図表1-2-7- 地域住民の協力関係の必要性（全体、性・年代別）



図表 1 - 2 - 7 - 地域住民の協力関係の必要性（全体、地域別）



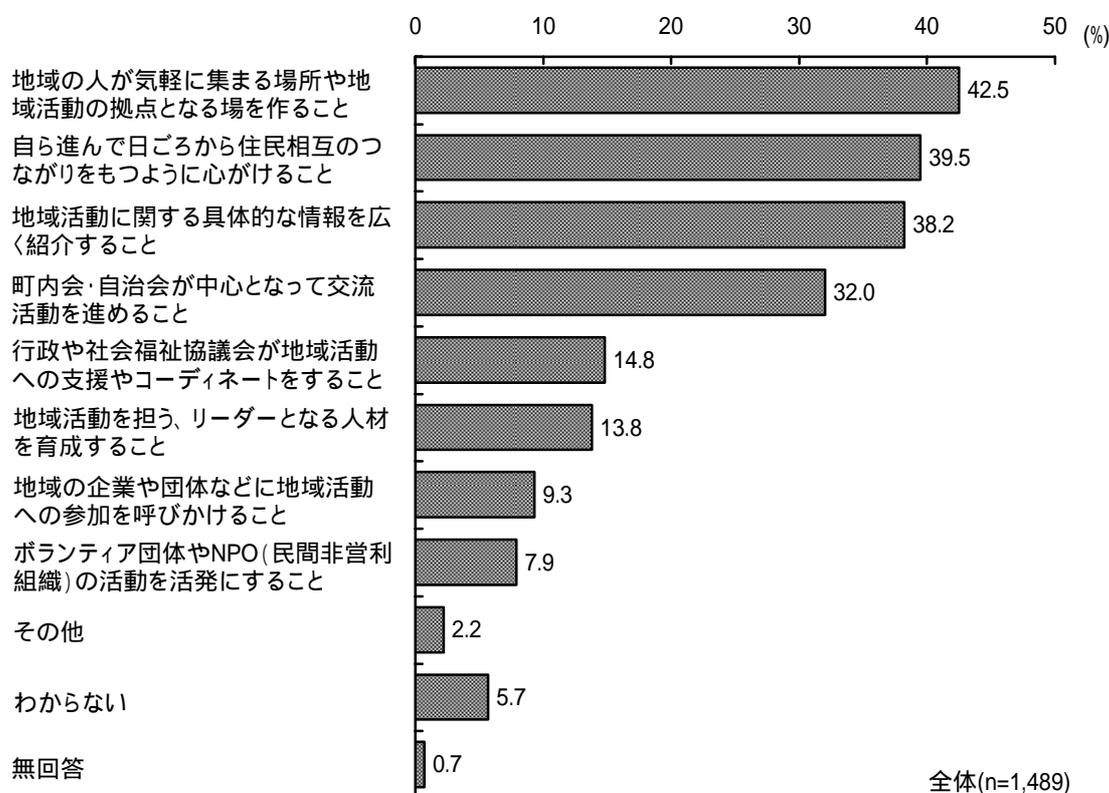
地域住民の協力関係を築くために必要なこと（問5 - 1）

地域住民の協力関係が「必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」と答えた人に、協力関係を築くために必要なことをたずねた。地域住民の協力関係を築くために必要なことは、「地域の人々が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること(42.5%)」が最も多く、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること(39.5%)」、「地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること(38.2%)」が続いている(図表1 - 2 - 8 -)。

性・年代別にみると、40歳代、50歳代の男性と50歳代の女性は「地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること」を1位にあげており、情報を重視する傾向が見られる(図表1 - 2 - 8 -)。

地域別にみると、第一地区、第四地区では、1位に「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること」があげられており、自主性が重視されている様子が見える(図表1 - 2 - 8 -)。

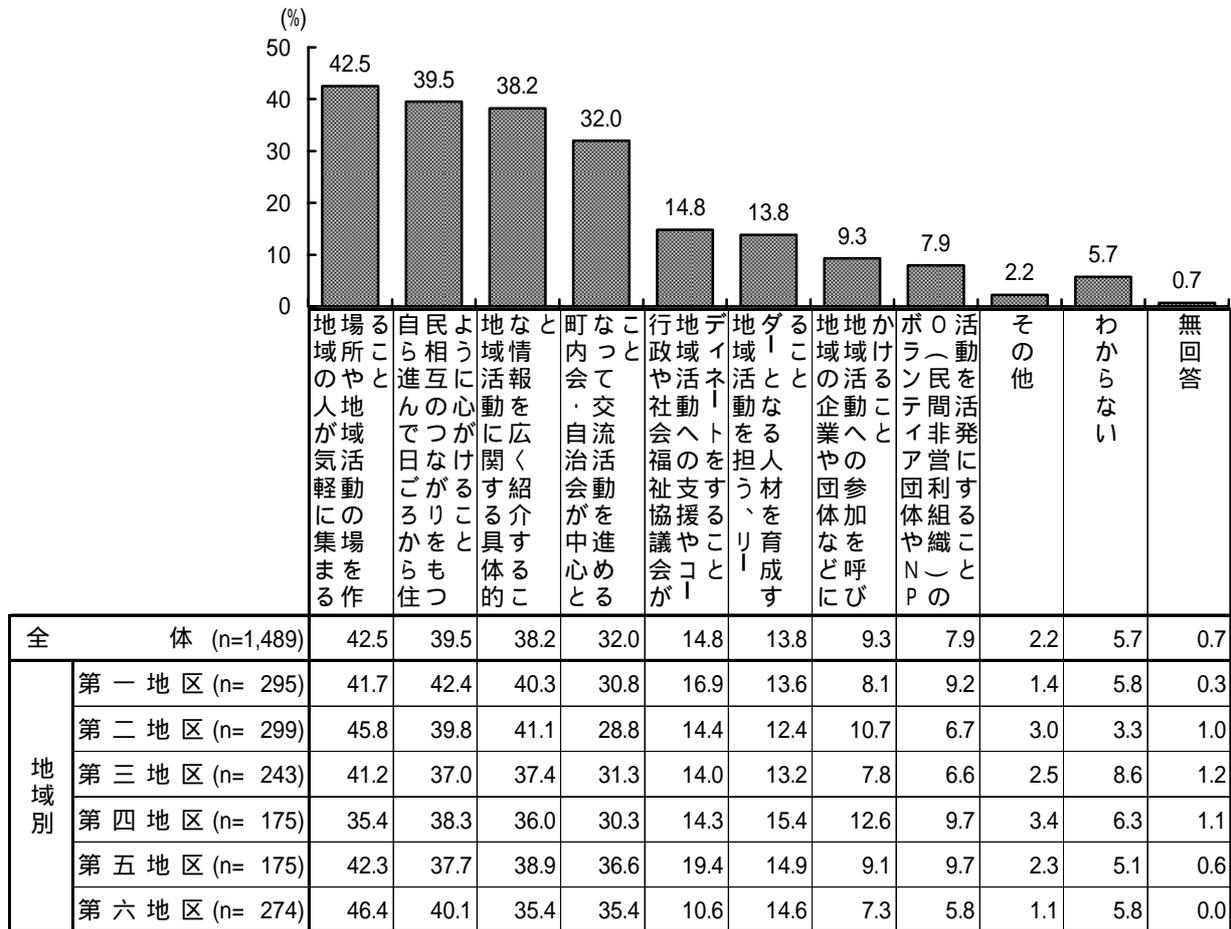
図表1 - 2 - 8 - 地域住民の協力関係を築くために必要なこと
 <地域住民の協力関係が「必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」と答えた人>
 (全体：複数回答(3つまで))



図表 1 - 2 - 8 - 地域住民の協力関係を築くために必要なこと
 < 地域住民の協力関係が「必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」と答えた人 >
 (性・年代別：複数回答 (3 つまで))

		1位	2位	3位
男性	全体 (n=677)	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 41.4	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 36.5	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 35.7
	20歳代 (n=95)	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 50.5	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 36.8	町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること 35.8
	30歳代 (n=188)	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 41.5	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 34.6	町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること 29.3
	40歳代 (n=160)	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 39.4	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 38.1	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 36.9
	50歳代 (n=155)	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 42.6	町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること 38.7	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 37.4
	60～64歳 (n=70)	町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること 50.0	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 47.1	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 41.4
	女性	全体 (n=767)	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 44.1	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 43.0
20歳代 (n=102)	日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 50.0	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 46.1	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 29.4	
30歳代 (n=225)	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 42.7	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 42.2	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 40.9	
40歳代 (n=193)	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 44.0	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 43.5	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 37.3	
50歳代 (n=148)	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 45.9	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 43.9	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 37.8	
60～64歳 (n=88)	自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること 46.6	地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること 46.6	地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること 45.5	

図表1-2-8- 地域住民の協力関係を築くために必要なこと
 <地域住民の協力関係が「必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」と答えた人>
 (地域別：複数回答(3つまで))

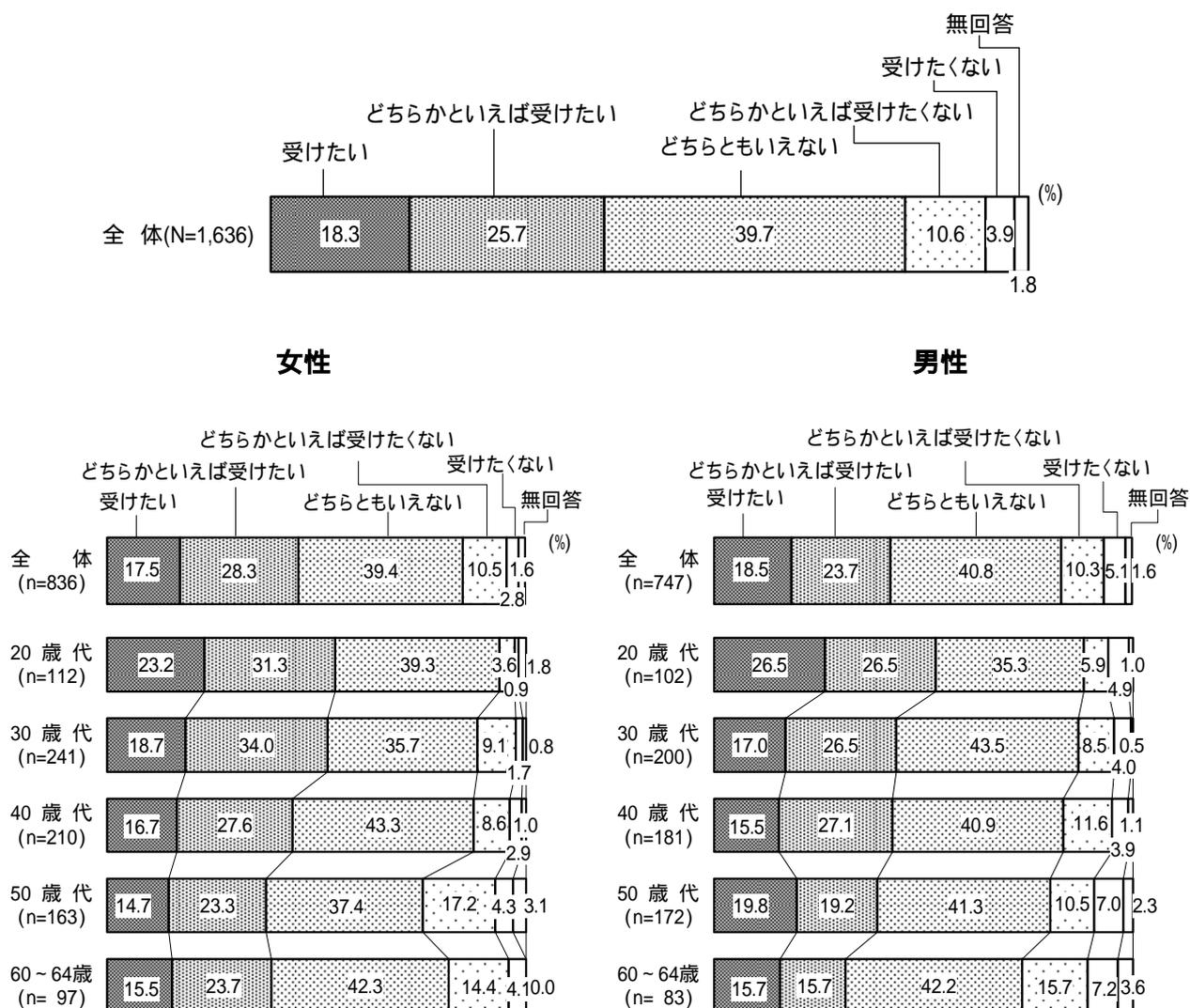


地域住民の協力を受けることへの希望（問6）

地域住民の協力を受けることへの希望は、「どちらともいえない（39.7%）」が最も多く、「どちらかといえば受けたい（25.7%）」、「受けたい（18.3%）」が続いている。

性・年代別にみると、男女共年代が上がるにつれて「受けたい」、「どちらかといえば受けたい」の割合が低くなる傾向がみられ、60～64歳男性では「受けたい」、「どちらかといえば受けたい」の合計が31.4%と、全体の44%に比べ12.6ポイント低くなっている（図表1-2-9）。

図表1-2-9 地域住民の協力を受けることへの希望（全体、性・年代別）

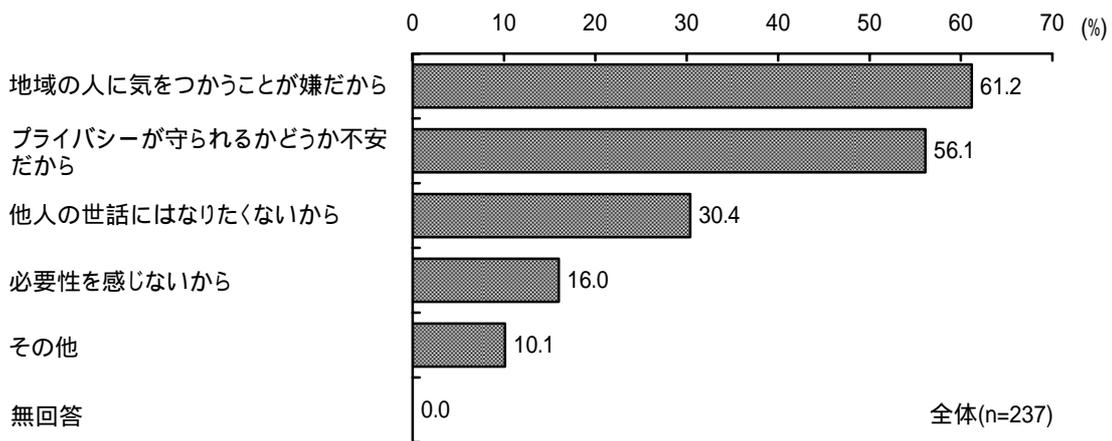


受けたくない理由：複数回答（問6 - 1）

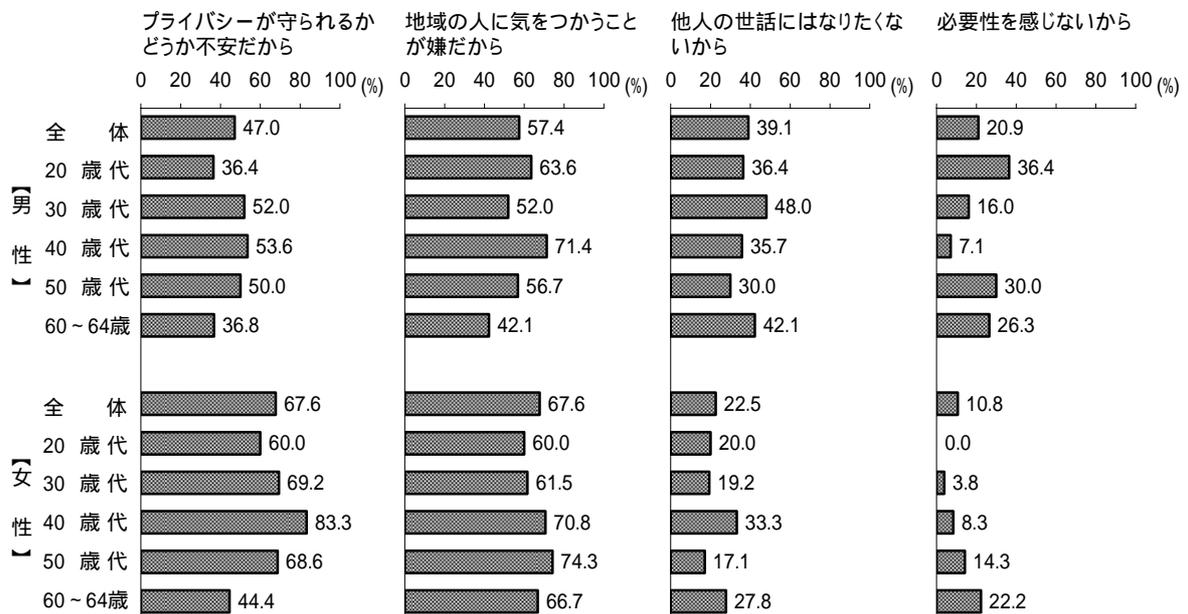
地域住民の協力を受けることへの希望について、「どちらかといえば受けたくない」、「受けたくない」と答えた人に、その理由をたずねた。受けたくない理由は、「地域の人に気がつくことが嫌だから（61.2%）」が最も多く、「プライバシーが守られるかどうか不安だから（56.1%）」、「他人の世話にはなりたくないから（30.4%）」が続いている（図表1 - 2 - 10 - ）。

性・年代別にみると、男性はどの年代も「地域の人に気がつくことが嫌だから」が最も多く、特に40歳代男性では71.4%と全体より10.2ポイント高くなっている。一方、女性は30歳代、40歳代で「プライバシーが守られるかどうか不安」が1位にあげられており、40歳代女性では83.3%と全体よりも27.2ポイント上回っている（図表1 - 2 - 10 - ）。

図表1 - 2 - 10 - 受けたくない理由
 <地域住民の協力を受けたくないと答えた人>（全体：複数回答）



図表1 - 2 - 10 - 受けたくない理由
 <地域住民の協力を受けたくないと答えた人>（性・年代別：複数回答）



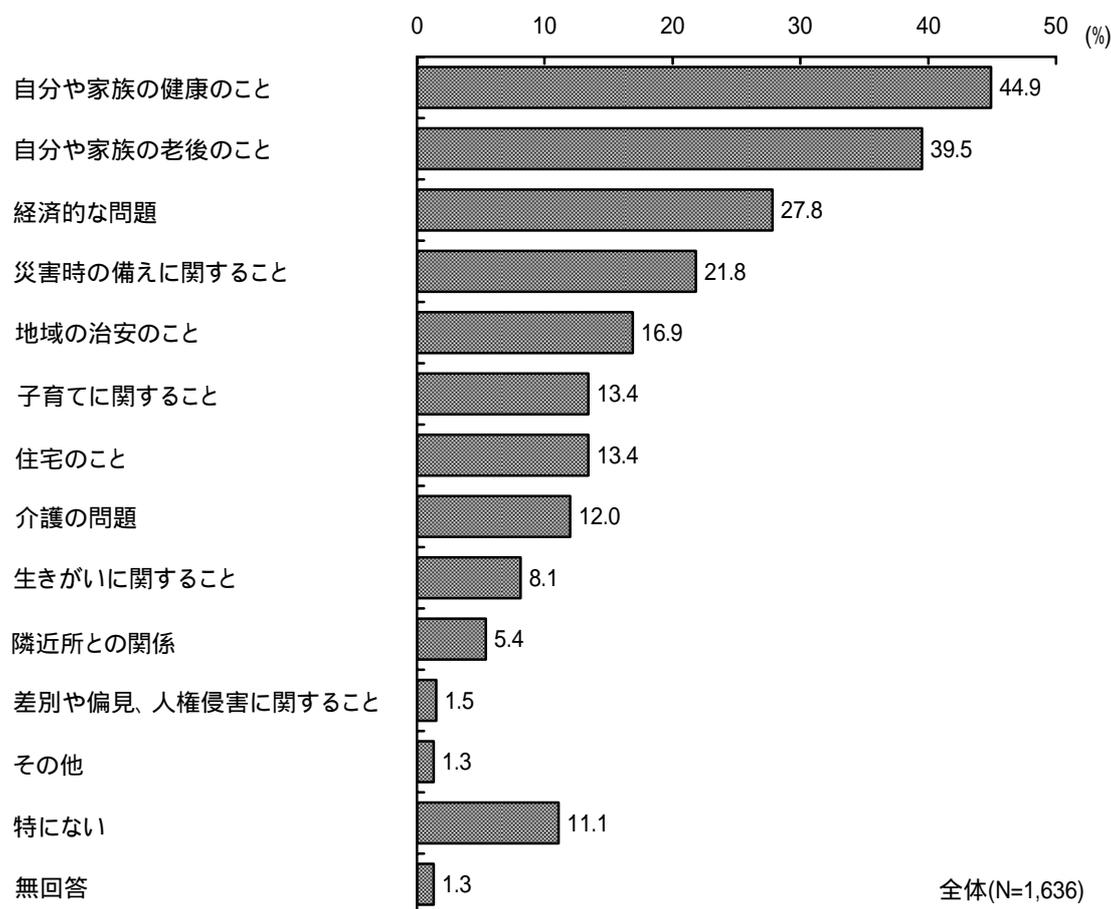
(3) 相談・情報

日常生活の悩みや不安(問7)

日常生活の悩みや不安は、「自分や家族の健康のこと(44.9%)」が最も多く、「自分や家族の老後のこと(39.5%)」、「経済的な問題(27.8%)」が続いている(図表1-3-1-)。

性・年代別にみると、男女共どの年代でも1位に「自分や家族の健康のこと」があげられているが、年代が上がるほど割合が高くなっており、60~64歳の女性では61.9%と全体を17.0ポイント上回っている。男女共20歳代では「経済的な問題」が、30歳代の女性では「子育てに関すること」が、それぞれ2位にあげられており、性・年代で悩みや不安が異なる様子がうかがえる(図表1-3-1-)。

図表1-3-1- 日常生活の悩みや不安(全体:複数回答(3つまで))



図表1 - 3 - 1 - 日常生活の悩みや不安（性・年代別：複数回答（3つまで））

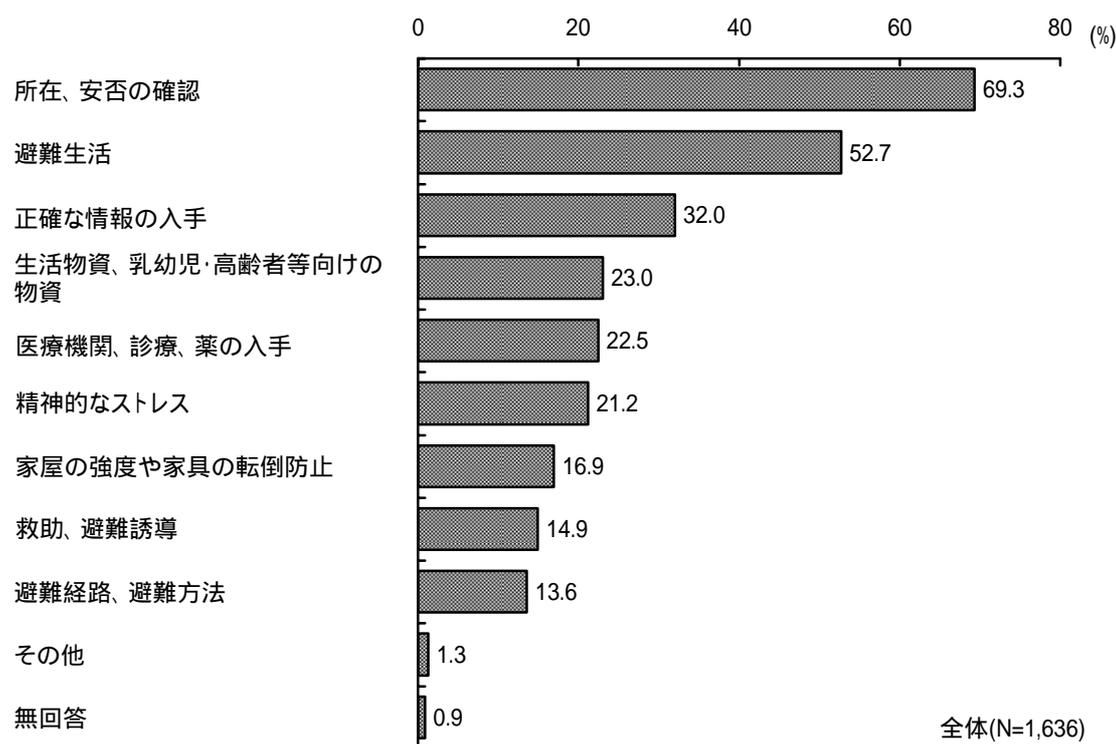
		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	自分や家族の健康のこと 44.7	自分や家族の老後のこと 36.8	経済的な問題 28.8
	20歳代 (n=102)	自分や家族の健康のこと 42.2	経済的な問題 39.2	自分や家族の老後のこと 31.4
	30歳代 (n=200)	自分や家族の健康のこと 46.5	経済的な問題 34.0	自分や家族の老後のこと 27.5
	40歳代 (n=181)	自分や家族の健康のこと 46.4	自分や家族の老後のこと 32.0	経済的な問題 27.6
	50歳代 (n=172)	自分や家族の老後のこと 47.7	自分や家族の健康のこと 41.3	災害時の備えに関する こと 20.9
	60～64歳 (n= 83)	自分や家族の老後のこと 51.8	自分や家族の健康のこと 44.6	経済的な問題 26.5
	女性	全体 (n=836)	自分や家族の健康のこと 45.5	自分や家族の老後のこと 41.6
20歳代 (n=112)	自分や家族の健康のこと 42.9	経済的な問題 31.3	自分や家族の老後のこと / 災害時の備えに関する こと 28.6	
30歳代 (n=241)	自分や家族の健康のこと 42.3	子育てに関する こと 33.2	自分や家族の老後の こと 30.7	
40歳代 (n=210)	自分や家族の健康のこと 43.3	自分や家族の老後の こと 41.0	経済的な問題 32.9	
50歳代 (n=163)	自分や家族の老後の こと 58.9	自分や家族の健康の こと 46.0	経済的な問題 25.2	
60～64歳 (n= 97)	自分や家族の健康の こと 61.9	自分や家族の老後の こと 60.8	経済的な問題 / 災害時の 備えに関する こと 20.6	

災害時に不安に思うこと（問 8）

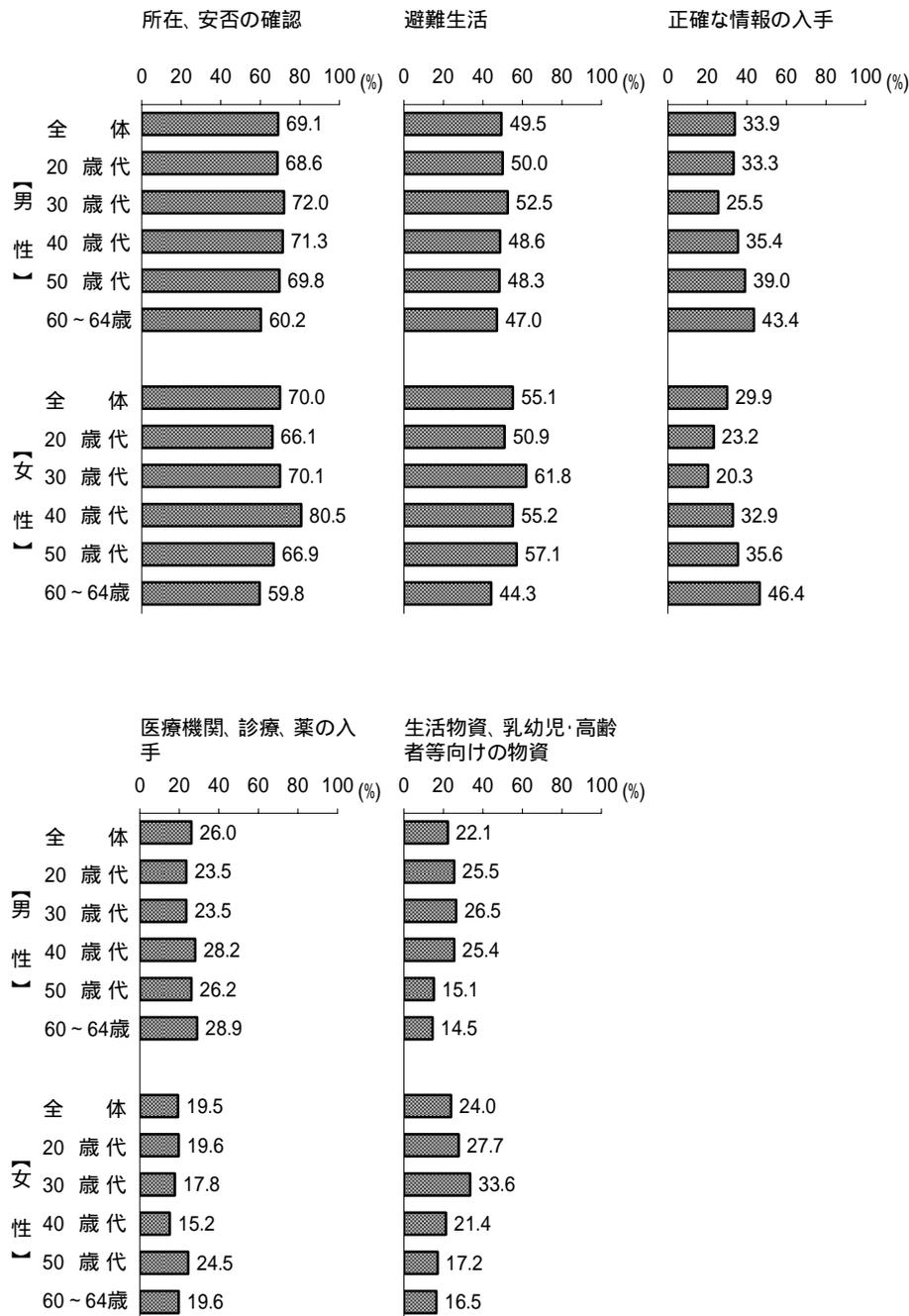
災害時に不安に思うことは、「所在、安否の確認（69.3%）」が最も多く、「避難生活（52.7%）」、「正確な情報の入手（32.0%）」が続いている（図表 1 - 3 - 2 - ）。

性・年代別にみると、「所在、安否の確認」では男性では30歳代、女性では40歳代が最も高く、男女共60～64歳で低くなっている。また、男女共「正確な情報の入手」が年代によって異なる傾向がみられ、30歳代が最も少なく、年代が上がるにつれ不安に思う割合が高くなっている。より年代の差が顕著な女性では、最も低い30歳代（20.3%）と最も高い60～64歳（46.4%）では26.1ポイントの差がある。「生活物資、乳幼児・高齢者等向けの物資」についても性・年代で差がみられ、男女共30歳代で不安に思う割合が高く、年代が上がるにつれて不安に思う割合が低くなっている。女性の方が差が大きく、最も高い30歳代（33.6%）と最も低い60～64歳（16.5%）では17.1ポイントの差がある（図表 1 - 3 - 2 - ）。

図表 1 - 3 - 2 - 災害時に不安に思うこと（全体：複数回答）



図表1 - 3 - 2 - 災害時に不安に思うこと（性・年代別：複数回答）

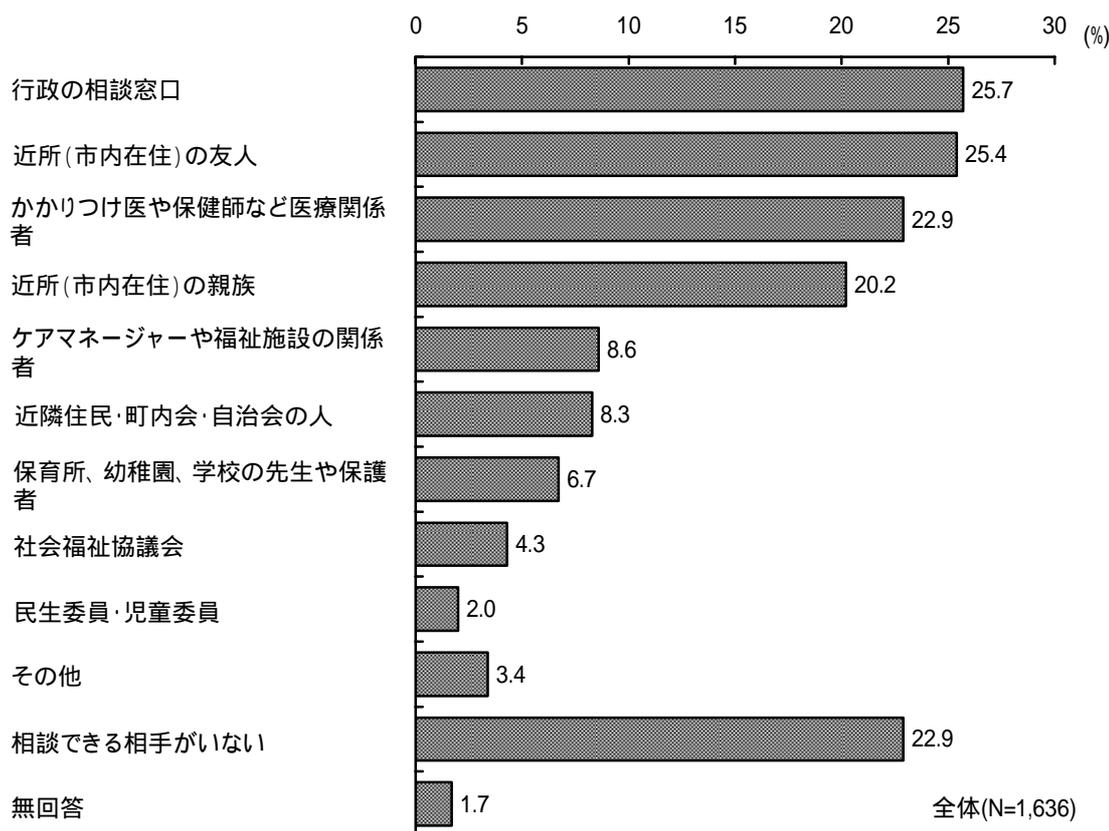


地域の相談相手（問9）

地域の相談相手は、「行政の窓口(25.7%)」が最も多く、「近所(市内在住)の友人(25.4%)」、「かかりつけ医や保健師など医療関係者(22.9%)」が続いている。また、「相談できる相手がない(22.9%)」も2割程度となっている(図表1-3-3-)。

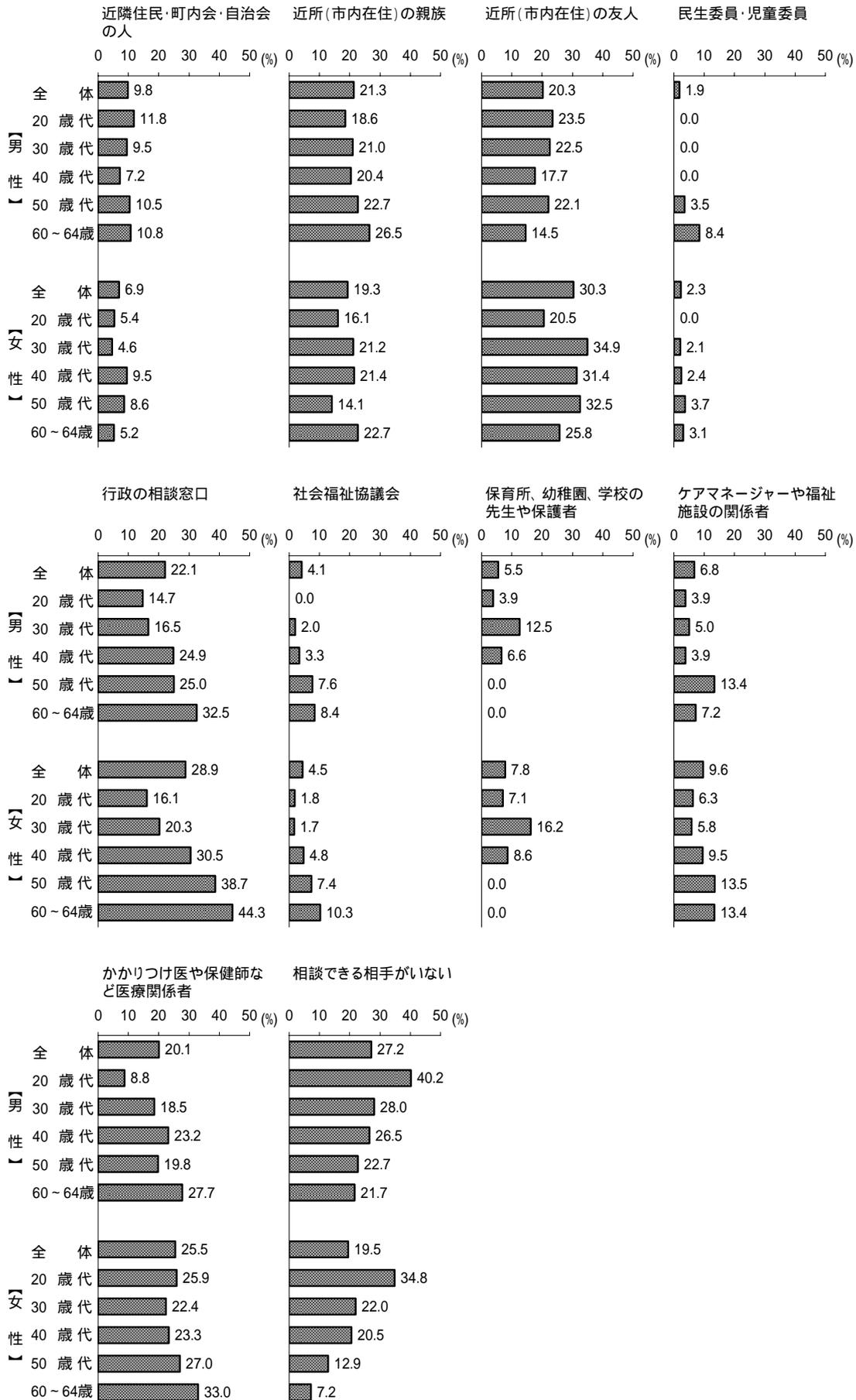
性・年代別にみると、20歳代男性、男女共30歳代では、「近所(市内在住)の友人」が最も多くなっている。「行政の相談窓口」を地域の相談相手と答えた割合は男女共年代が上がるにつれて多くなる傾向がみられ、女性の方が差が大きく、最も少ない20歳代(16.1%)と最も多い60～64歳(44.3%)では28.2ポイントの差がある。「相談できる相手がない」については、男女共20歳代が最も多く、年代が上がるにつれて割合が少なくなっている。最も多い20歳代男性では40.2%、最も少ない60～64歳女性では7.2%となっており、地域の相談できる相手の有無は性・年代で大きく異なることがわかる(図表1-3-3-)。

図表1-3-3- 地域の相談相手（全体：複数回答）



* 行政の相談窓口は、市役所、保健センター、女性センター、児童相談所、保健所等の窓口を示します。

図表1-3-3 - 地域の相談相手（性・年代別：複数回答）



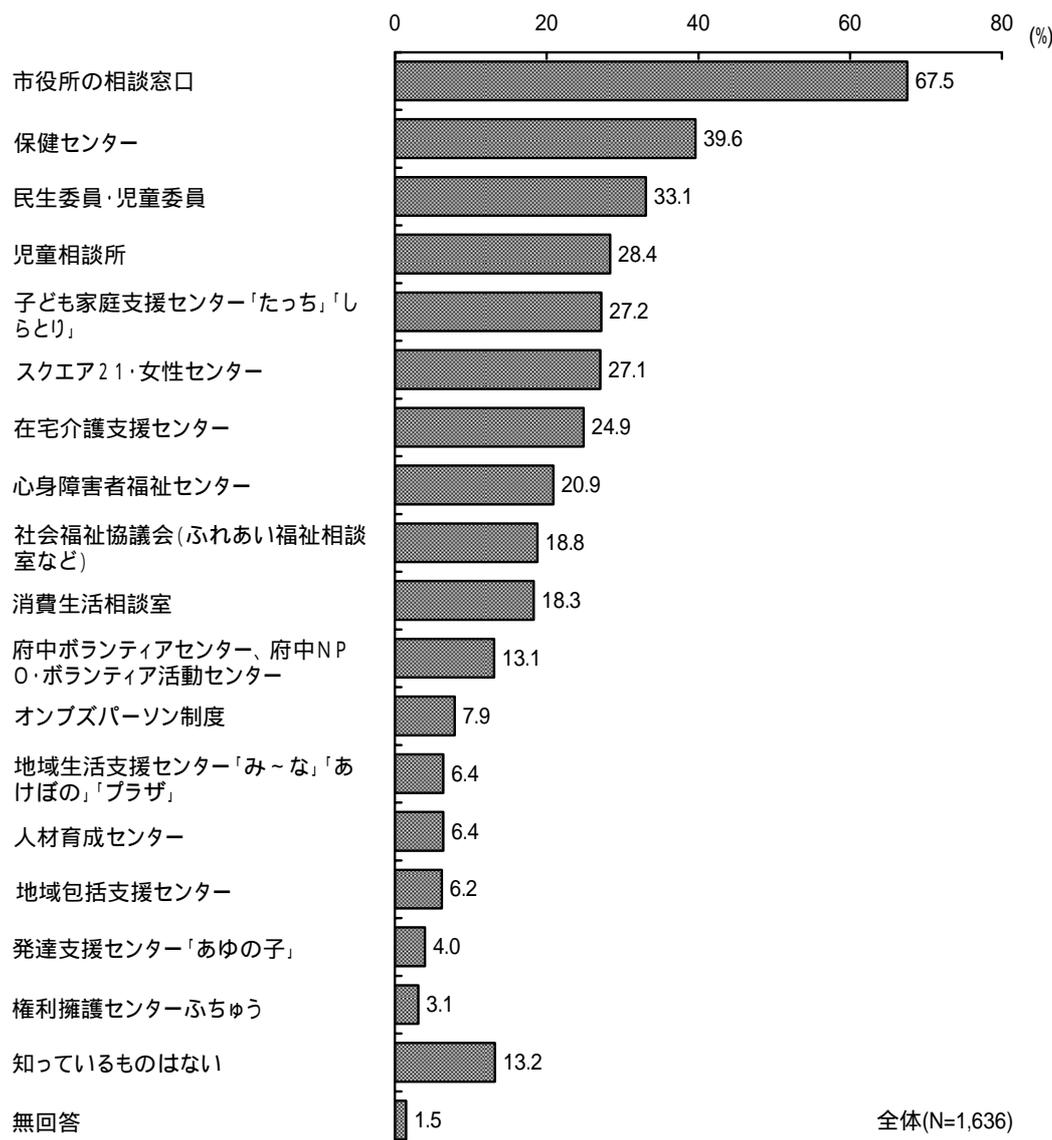
相談事業の認知度（問 10）

相談事業の認知度については、「市役所の相談窓口（67.5%）」が最も多く、「保健センター（39.6%）」、「民生委員・児童委員（33.1%）」が続いている（図表 1 - 3 - 4 - ）。

性・年代別にみると、男女共どの年代も「市役所の相談窓口」が最も多く、60～64 歳女性では 91.8% と非常に高い割合で認知されていることがわかる。男性ではどの年代も「保健センター」と「民生委員・児童委員」が 2 位、3 位にあげられているが、女性は 20 歳代、30 歳代で「子ども家庭支援センター「たち」」「しらとり」が、50 歳代では「在宅介護支援センター」が上位にあげられており、女性の方が年代で相談事業の認知度が異なる様子うかがえる（図表 1 - 3 - 4 - ）。

性・年代別に「知っているものはない」をみると、男女共 20 歳代の割合が高く、男性の方がどの年代もその割合が高くなっている。60～64 歳の女性は、「知っているものはない」の割合が 0.0% と、相談事業の認知度が高いことわかる（図表 1 - 3 - 4 - ）。

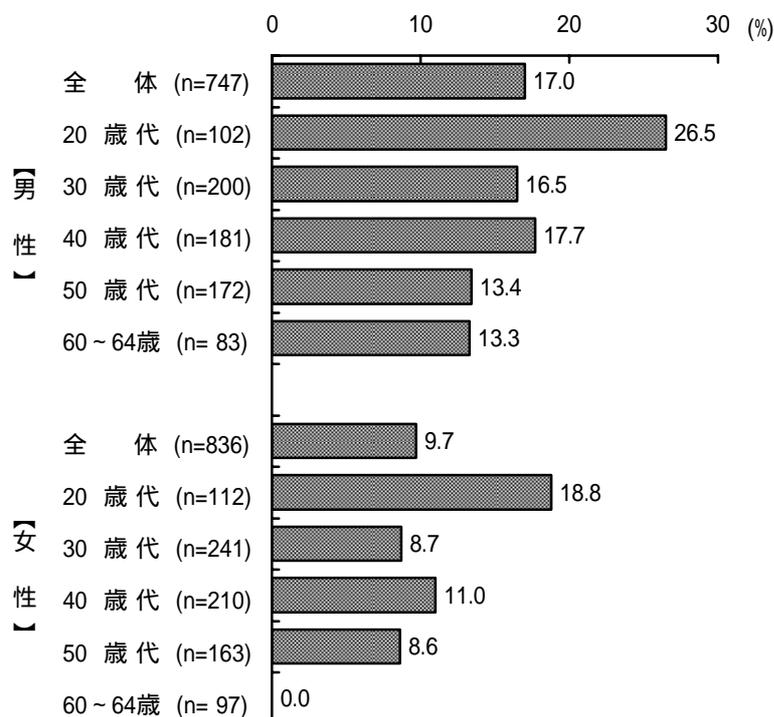
図表 1 - 3 - 4 - 相談事業の認知度（全体：複数回答）



図表1 - 3 - 4 - 相談事業の認知度（性・年代別：複数回答）

		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	市役所の相談窓口 65.3	保健センター 35.7	民生委員・児童委員 28.4
	20歳代 (n=102)	市役所の相談窓口 57.8	保健センター 21.6	児童相談所 15.7
	30歳代 (n=200)	市役所の相談窓口 62.0	保健センター 39.0	子ども家庭支援センター 「たち」 「しらとり」 31.0
	40歳代 (n=181)	市役所の相談窓口 59.1	保健センター 37.6	民生委員・児童委員 32.0
	50歳代 (n=172)	市役所の相談窓口 72.7	民生委員・児童委員 37.2	保健センター 35.5
	60～64歳 (n= 83)	市役所の相談窓口 78.3	保健センター 44.6	民生委員・児童委員 36.1
	女性	全体 (n=836)	市役所の相談窓口 69.9	保健センター 43.5
20歳代 (n=112)		市役所の相談窓口 53.6	保健センター 41.1	子ども家庭支援センター 「たち」 「しらとり」 34.8
30歳代 (n=241)		市役所の相談窓口 61.4	子ども家庭支援センター 「たち」 「しらとり」 54.8	保健センター 48.1
40歳代 (n=210)		市役所の相談窓口 71.9	民生委員・児童委員 46.2	保健センター 45.2
50歳代 (n=163)		市役所の相談窓口 79.1	民生委員・児童委員 47.2	在宅介護支援センター 38.0
60～64歳 (n= 97)		市役所の相談窓口 91.8	民生委員・児童委員 49.5	保健センター 44.3

図表 1 - 3 - 4 - 相談事業の認知度（「知っているものはない」性・年代別：複数回答）



相談事業の認知度について、地域別にみると、第三地区、第四地区では「市役所の相談窓口（第三地区：72.5%、第四地区：71.4%）」が、その他、第四地区では「心身障害者福祉センター（28.0%）」と「スクエア 21・女性センター（36.5%）」が比較的高くなっている。また、第五地区については、「地域包括支援センター（9.6%）」、「在宅介護支援センター（31.0%）」の割合が比較的高くなっている（図表 1 - 3 - 4 - ）。

図表 1 - 3 - 4 - 知っている相談事業（全体・地域別、複数回答）

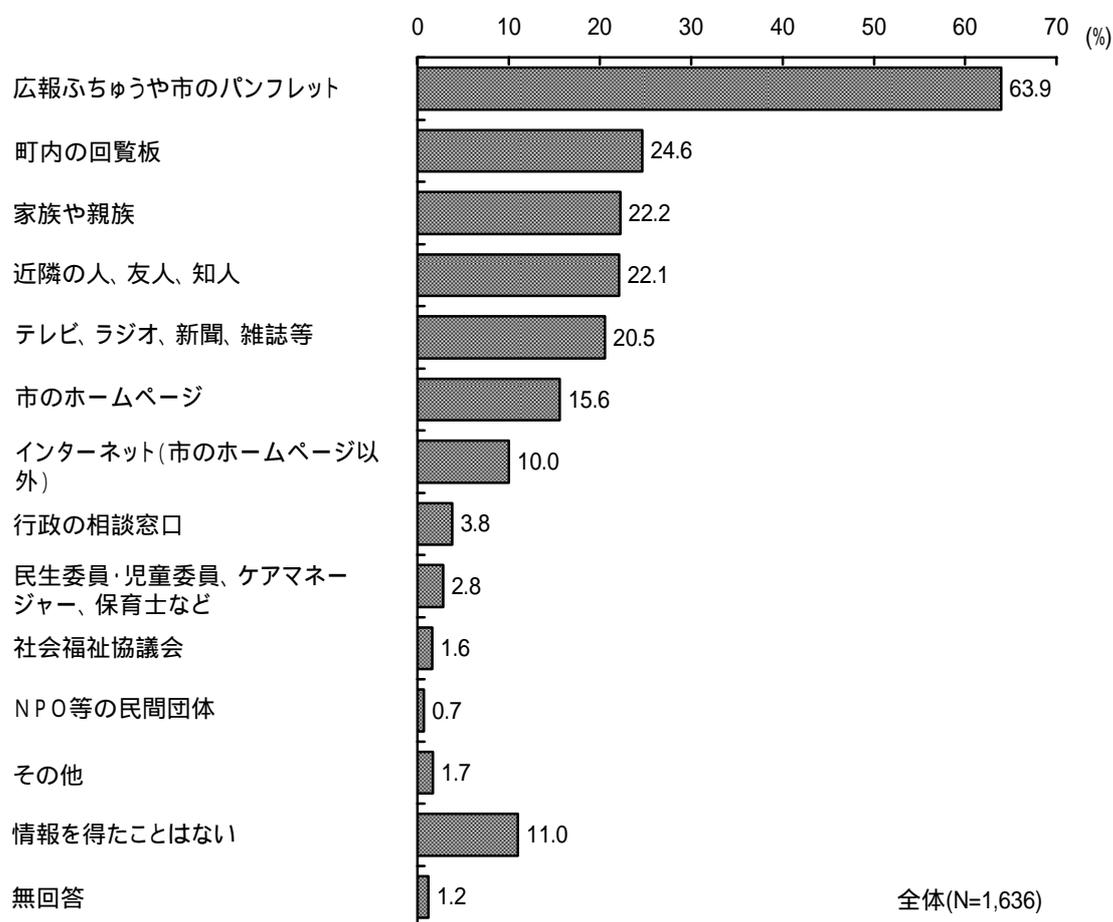
		市役所の相談窓口	民生委員・児童委員	オンブズパーソン制度	地域包括支援センター	在宅介護支援センター	権利擁護センター「ふちゆう」	心身障害者福祉センター	発達支援センター「あゆの子」	児童相談所	保健センター	地域生活支援センター「みくな」	子ども家庭支援センター	スクエア 21・女性センター	社会福祉協議会（ふれあい福祉相談室など）	府中ボランティア活動センター、府中 NPO・ボランティアセンター	人材育成センター	消費生活相談室	知っているものはない	無回答
全	体 (N=1,636)	67.5	33.1	7.9	6.2	24.9	3.1	20.9	4.0	28.4	39.6	6.4	27.2	27.1	18.8	13.1	6.4	18.3	13.2	1.5
地区別	第一地区 (n= 335)	60.3	29.3	6.9	6.0	20.9	2.4	19.1	4.8	23.0	37.3	5.7	28.7	18.5	14.0	15.2	6.3	18.8	19.1	2.1
	第二地区 (n= 324)	66.7	29.3	6.2	5.6	26.2	2.5	19.1	4.0	29.6	42.3	5.2	29.3	18.8	17.3	13.0	6.2	17.9	13.3	0.9
	第三地区 (n= 262)	72.5	37.0	8.0	6.9	27.1	3.4	17.6	5.0	31.3	40.1	9.9	29.8	23.7	21.0	14.1	7.6	19.1	11.8	1.5
	第四地区 (n= 189)	71.4	34.4	11.6	7.9	25.4	4.2	28.0	3.7	29.6	37.6	7.4	26.5	36.5	24.3	13.2	7.4	22.2	13.2	0.5
	第五地区 (n= 187)	69.0	36.4	8.0	9.6	31.0	4.3	22.5	3.2	29.4	43.3	7.5	27.8	24.1	22.5	12.3	5.9	20.9	10.2	2.7
	第六地区 (n= 303)	68.3	35.3	8.9	3.6	21.8	3.3	22.8	3.3	30.0	40.3	4.6	23.1	45.5	18.2	11.6	5.6	15.5	9.9	1.3

福祉サービスの情報入手方法（問 11 - 1）

日ごろの福祉サービスの情報入手方法は、「広報ふちゅうや市のパンフレット（63.9%）」が最も多く、「町内の回覧板（24.6%）」、「家族や親族（22.2%）」が続いている（図表 1 - 3 - 5 - ）。

性・年代別にみると、男女共どの年代とも「広報ふちゅうや市のパンフレット」が最も多く、特に 60～64 歳男性、30 歳代以上の女性では 70%を超えている。また、20 歳代の男女と 40 歳代の男性では「市のホームページ」、50 歳代以上の男女は「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」が 3 位にあげられており、性・年代で情報入手方法が異なる様子うかがえる（図表 1 - 3 - 5 - ）。

図表 1 - 3 - 5 - 福祉サービスの情報入手方法（全体：複数回答（3つまで））



図表 1 - 3 - 5 - 福祉サービスの情報入手方法（性・年代別：複数回答（3つまで））

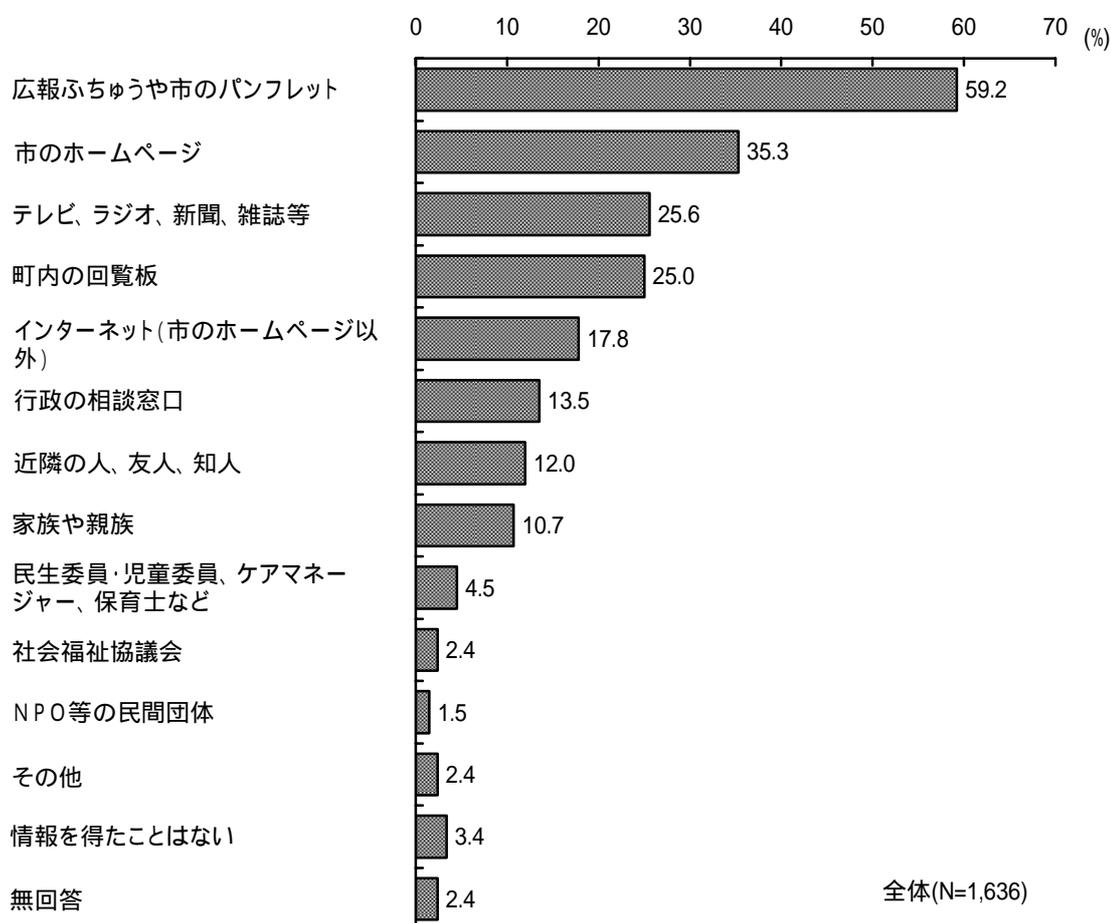
		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	広報ふちゅうや市のパンフレット 56.5	家族や親族 25.2	町内の回覧板 22.0
	20歳代 (n=102)	広報ふちゅうや市のパンフレット 31.4	家族や親族 27.5	市のホームページ 14.7
	30歳代 (n=200)	広報ふちゅうや市のパンフレット 51.5	家族や親族 32.0	近隣の人、友人、知人 28.5
	40歳代 (n=181)	広報ふちゅうや市のパンフレット 60.8	家族や親族 27.6	市のホームページ 25.4
	50歳代 (n=172)	広報ふちゅうや市のパンフレット 65.1	町内の回覧板 25.6	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 25.6
	60～64歳 (n= 83)	広報ふちゅうや市のパンフレット 71.1	町内の回覧板 38.6	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 32.5
	女性	全体 (n=836)	広報ふちゅうや市のパンフレット 70.9	町内の回覧板 26.7
20歳代 (n=112)	広報ふちゅうや市のパンフレット 48.2	家族や親族 25.9	市のホームページ 22.3	
30歳代 (n=241)	広報ふちゅうや市のパンフレット 70.1	近隣の人、友人、知人 30.7	家族や親族 24.9	
40歳代 (n=210)	広報ふちゅうや市のパンフレット 73.8	町内の回覧板 30.0	近隣の人、友人、知人 24.8	
50歳代 (n=163)	広報ふちゅうや市のパンフレット 79.8	町内の回覧板 41.1	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 27.0	
60～64歳 (n= 97)	広報ふちゅうや市のパンフレット 78.4	町内の回覧板 42.3	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 29.9	

今後希望する福祉サービスの情報入手方法（問11-2）

今後希望する福祉サービスの情報入手方法は、「広報ふちゅうや市のパンフレット（59.2%）」が最も多く、「市のホームページ（35.3%）」、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等（25.6%）」が続いている（図表1-3-6- ）。

性・年代別にみると、男女共どの年代も「広報ふちゅうや市のパンフレット」が最も多いが、年代が上がるにつれその割合が高くなる傾向がみられる。また、20歳代から50歳代の男性、20歳代から40歳代の女性と、広い年代で「市のホームページ」が今後希望する福祉サービスの情報入手方法としてあげられている（図表1-3-6- ）。

図表1-3-6- 今後希望する福祉サービスの情報入手方法（全体：複数回答（3つまで））



図表 1 - 3 - 6 - 今後希望する福祉サービスの情報入手方法（性・年代別：複数回答（3つまで））

		1位	2位	3位
男性	全体 (n=747)	広報ふちゅうや市のパンフレット 52.9	市のホームページ 35.1	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 26.1
	20歳代 (n=102)	広報ふちゅうや市のパンフレット 34.3	市のホームページ 34.3	町内の回覧板 24.5
	30歳代 (n=200)	広報ふちゅうや市のパンフレット 48.0	市のホームページ 33.0	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等／インターネット(市のホームページ以外) 27.0
	40歳代 (n=181)	広報ふちゅうや市のパンフレット 54.7	市のホームページ 43.1	インターネット(市のホームページ以外) 24.3
	50歳代 (n=172)	広報ふちゅうや市のパンフレット 58.1	市のホームページ 37.8	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 28.5
	60～64歳 (n= 83)	広報ふちゅうや市のパンフレット 68.7	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 32.5	町内の回覧板 31.3
	女性	全体 (n=836)	広報ふちゅうや市のパンフレット 65.3	市のホームページ 35.0
20歳代 (n=112)	広報ふちゅうや市のパンフレット 45.5	市のホームページ 39.3	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 24.1	
30歳代 (n=241)	広報ふちゅうや市のパンフレット 59.3	市のホームページ 42.7	町内の回覧板 22.8	
40歳代 (n=210)	広報ふちゅうや市のパンフレット 68.6	市のホームページ 38.6	町内の回覧板 27.1	
50歳代 (n=163)	広報ふちゅうや市のパンフレット 79.8	町内の回覧板 33.7	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 31.9	
60～64歳 (n= 97)	広報ふちゅうや市のパンフレット 72.2	町内の回覧板 36.1	行政の相談窓口 29.9	

(4) まちと心のバリアフリー

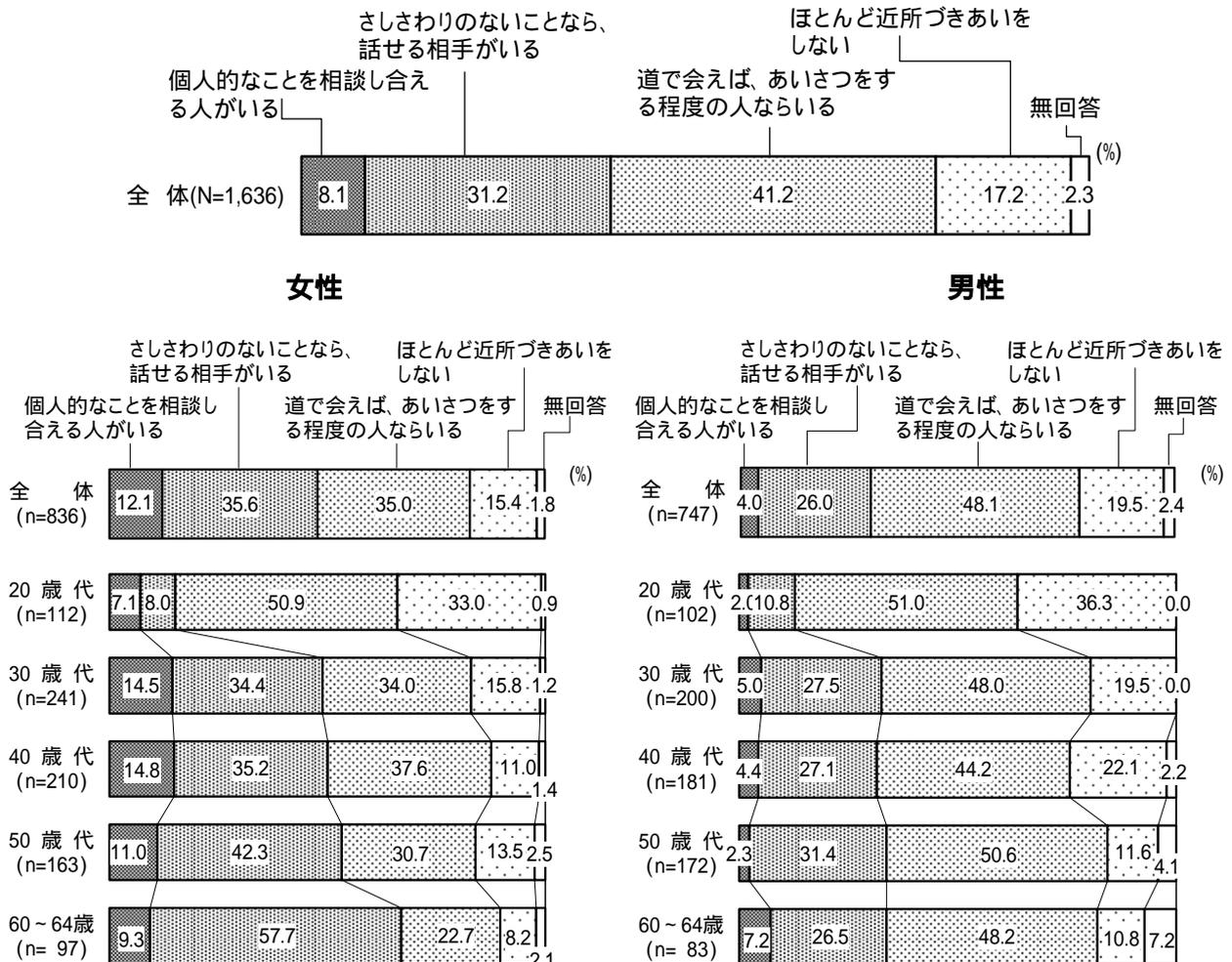
近所づきあいの程度(問12)

近所づきあいの程度については、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる(41.2%)」が最も多く、「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる(31.2%)」、「ほとんど近所づきあいをしない(17.2%)」が続いている。

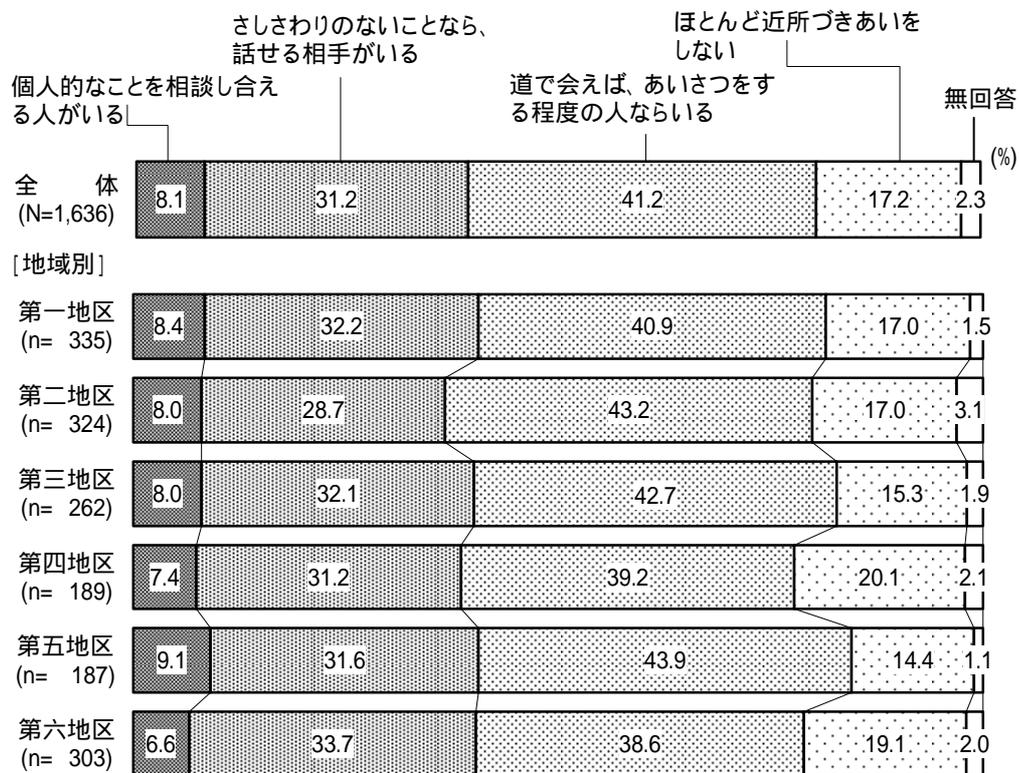
性・年代別にみると、男女共20歳代では「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」が50%以上を占め、「ほとんど近所づきあいをしない」が約3分の1を占めている。男女共年代が上がるほど「ほとんど近所づきあいをしない」が少なくなる傾向がみられ、60～64歳の男性では10.8%、女性では8.2%となっている。また、女性ではどの年代も同じ年代の男性に比べ「個人的なことを相談し合える人がある」が多く、特に30歳代、40歳代の女性は他の性・年代に比べ高く、14%台となっている(図表1-4-1-)。

地域別にみると、第五地区が他地区に比べ「個人的なことを相談し合える人がある」が多く、第四地区、第六地区は「ほとんど近所づきあいをしない」の割合が他地区に比べやや高くなっている(図表1-4-1-)。

図表1-4-1- 近所づきあいの程度(全体、性・年代別)

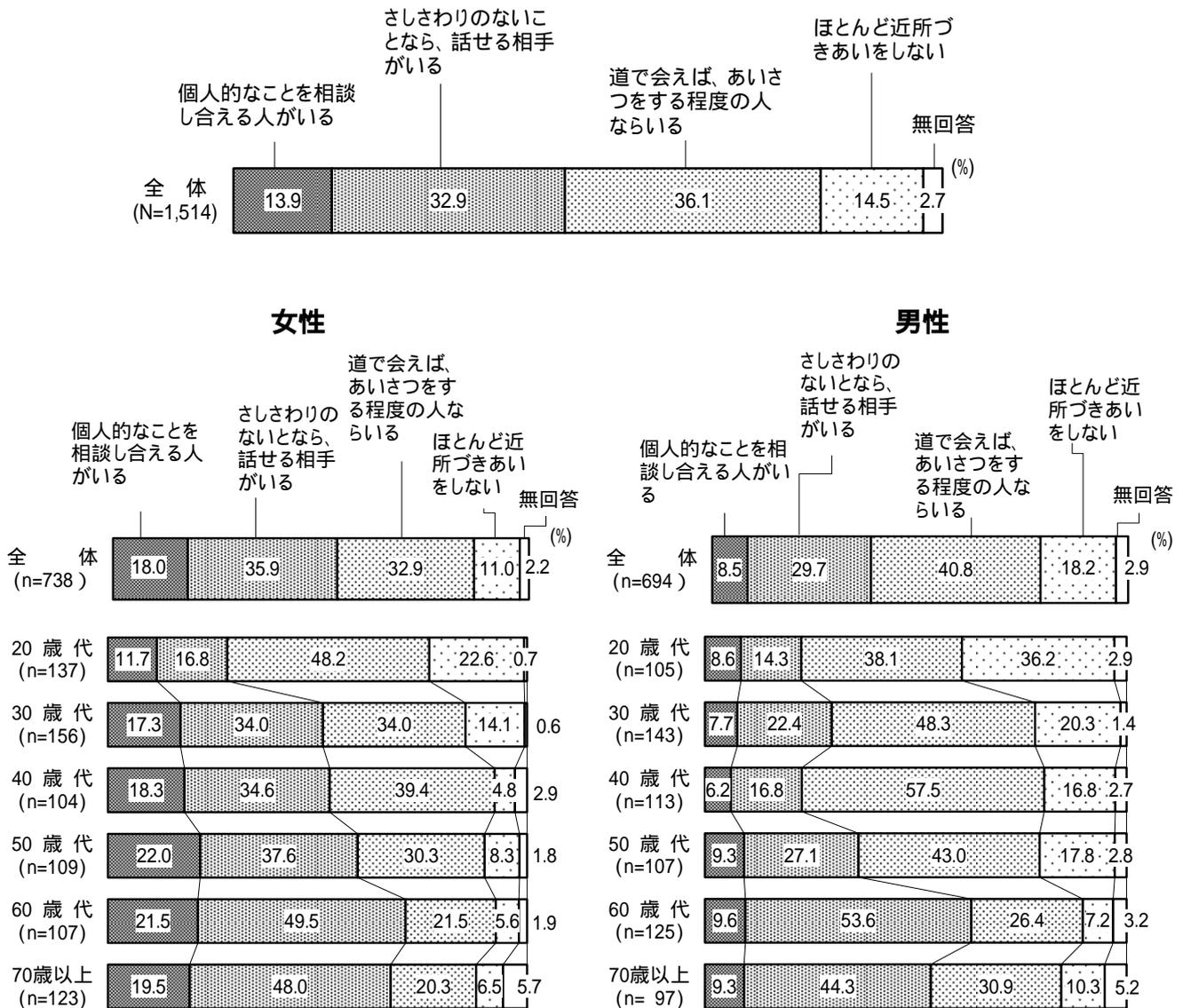


図表 1 - 4 - 1 - 近所づきあいの程度（全体、地域別）



前回調査では、「ほとんど近所づきあいをしない」が20歳代男性で36.2%、20歳代女性で22.6%である。「個人的なことを相談し合える人がある」は50歳代、60歳代の女性で20%を超えている。前回に比べ、地域との係わりが弱くなっていると見ることができる（図表1-4-1-1）。

図表1-4-1-1 近所づきあいの程度（全体、性・年代別）【平成14年度調査】



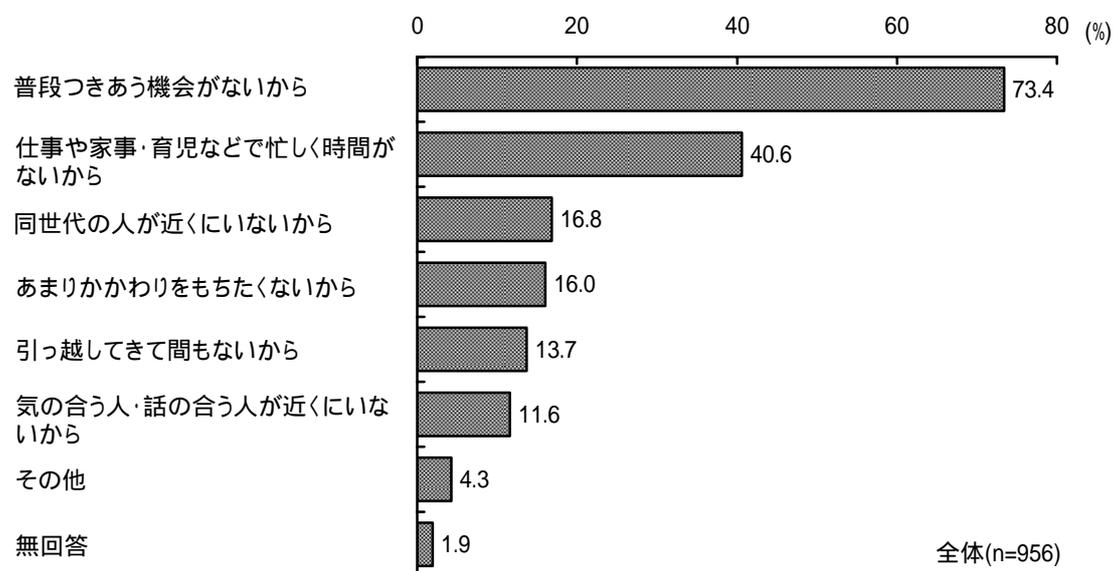
近所づきあいのない理由（問 12 - 1）

近所づきあいの程度で、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」または「ほとんど近所づきあいをしない」と答えた人に、つきあいのない理由をたずねた。つきあいのない理由は、「普段つきあう機会がないから（73.4%）」が最も多く、「仕事や家事・育児などで忙しく時間がないから（40.6%）」、「同世代の人が近くにいないから（16.8%）」が続いている（図表 1 - 4 - 2 - ）。

性・年代別にみると、男性の 30 歳代～50 歳代、女性の 30 歳代、40 歳代、60～64 歳で「仕事や家事・育児などで忙しく時間がないから」が 40% を超え、特に 60～64 歳の女性が 53.3% と最も多くなっている。また、男女共 20 歳代で「同世代の人が近くにいないから」が多く、特に女性では 36.2% と全体に比べ 19.4 ポイント上回っている。「気の合う人・話の合う人が近くにいないから」、「あまりかかわりを持ちたくないから」は、男女共年代が上がるにつれ多くなる傾向が見られ、60～64 歳の男性の「気の合う人・話の合う人が近くにいないから（22.4%）」、50 歳代の女性の「あまりかかわりを持ちたくないから（27.8%）」が他の性・年代に比べ多くなっている（図表 1 - 4 - 2 - ）。

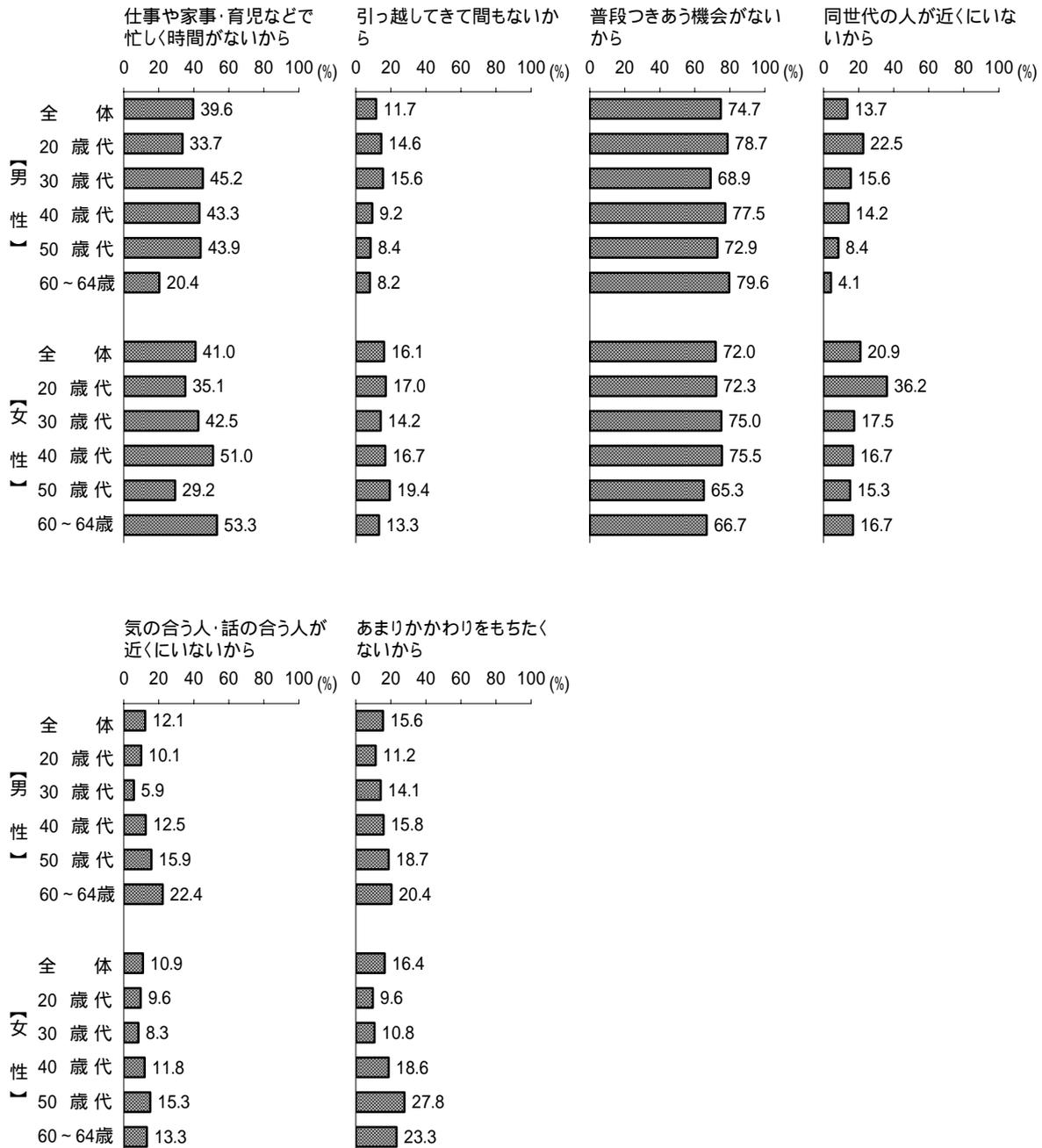
図表 1 - 4 - 2 - 近所づきあいのない理由

<近所づきあいの程度で、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」または「ほとんど近所づきあいをしない」と答えた人>（全体：複数回答（3つまで））



図表1 - 4 - 2 - 近所づきあいのない理由

<近所づきあいの程度で、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる」または「ほとんど近所づきあいをしない」と答えた人> (性・年代別：複数回答(3つまで))

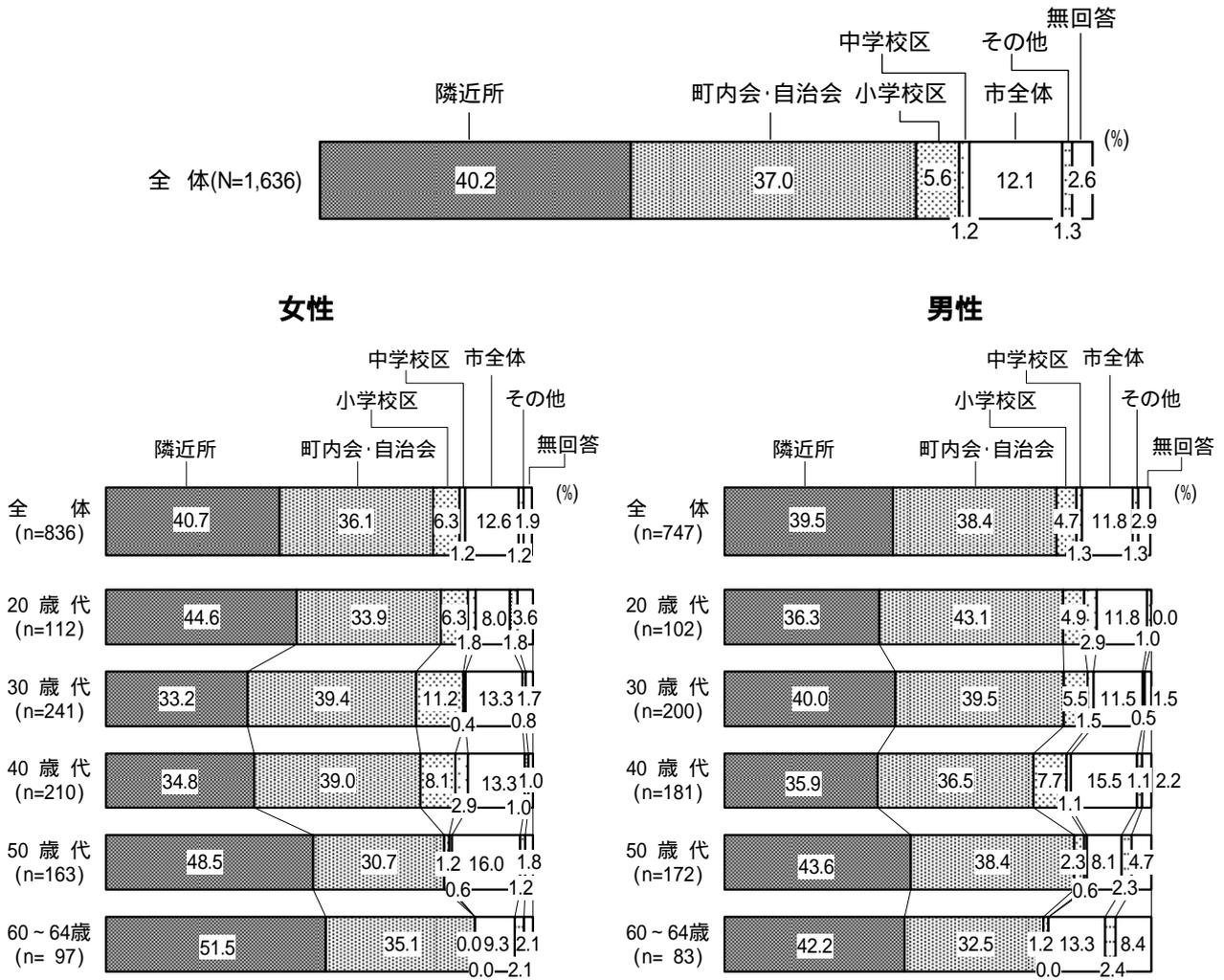


住民が助け合う「地域」と感じる範囲（問 13）

住民が助け合う「地域」と感じる範囲は、「隣近所（40.2%）」が最も多く、「町内会・自治会（37.0%）」、「市全体（12.1%）」が続いている。

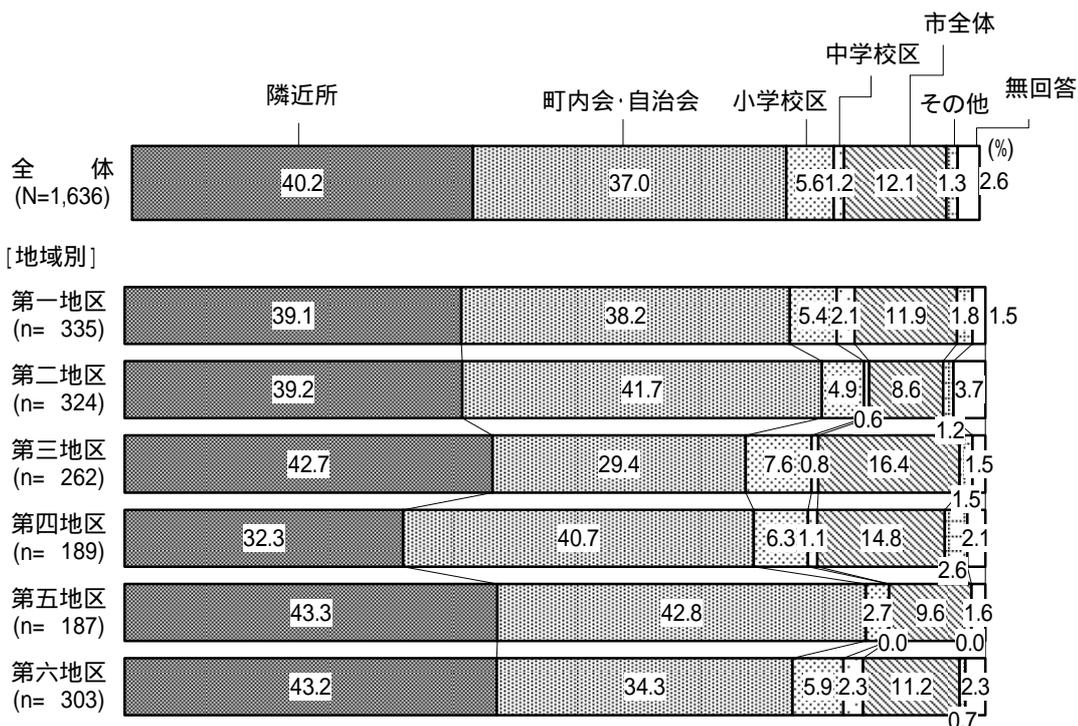
性・年代別にみると、男女共年代が上がるにつれ「隣近所」の割合が高くなる傾向がみられ、特に50歳以上の女性は約半数を占めている（図表1-4-3- ）。

図表1-4-3- 住民が助け合う「地域」と感じる範囲（全体、性・年代別）



地域別にみると、第五地区と第六地区では「隣近所（第五地区 43.3%、第六地区 43.2%）」の割合が比較的高く、第五地区では「町内会・自治会（42.8%）」の割合も高くなっている。また、第二地区では「町内会・自治会（41.7%）」、第三地区では「市全体（16.4%）」という回答が多くなっている（図表1-4-3- ）。

図表1-4-3- 住民が助け合う「地域」と感じる範囲（全体、地域別）



建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況（問 14）

府中市内の建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の整備の状況について、11項目にわたり5段階（「整備されている」～「整備の必要を感じない」）でたずねた。

「整備されている」と「やや整備されている」の合計が最も多いのは、「公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター（74.3%）」で、「車いすの方やだれもが安全に通れる建物の出入口や通路（57.3%）」、「車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス（56.5%）」が続いている（図表1-4-4- ）。

一方、「整備されていない」と「あまり整備されていない」の合計が最も多かったのは「補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど（74.5%）」で、「手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設（71.4%）」、「歩きやすいように、障害物（商品や看板、放置自転車、電柱等）が取り除かれた歩道や道路（62.0%）」が続いている（図表1-4-4- ）。

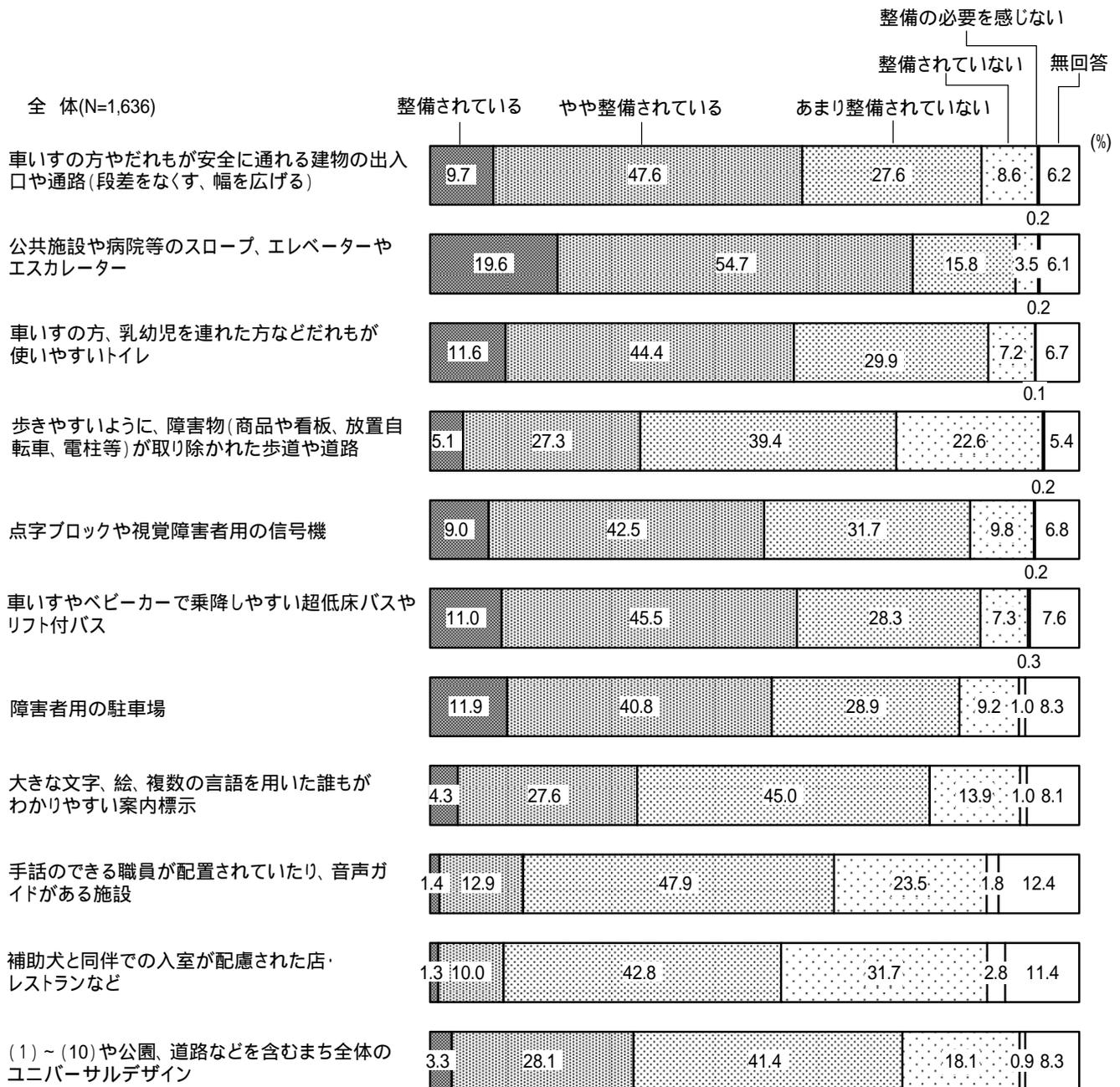
「整備されている」と「やや整備されている」の合計が最も多い「公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター」について性・年代別にみると、「整備されている」と「やや整備されている」の合計は、年代が上がるほど女性の方が同じ年代の男性を上回っているが、「整備されている」だけをみると男性ではどの年代もが女性を上回っている（図表1-4-4- ）。

一方、「整備されている」と「やや整備されている」の合計が最も少ない「補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど」では、男女共年代が上がるほど「整備されている」と「やや整備されている」の合計が少なくなる傾向が見られるが、男女共20歳代から50歳代で「あまり整備されていない」、「整備されていない」の合計が7割を超えている（図表1-4-4- ）。

図表1-4-4- 建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況
（全体、「整備されている」、「やや整備されている」の合計）

（単位：％）	整備されて	やや整備	合計
	いる	されている	
(1) . 車いすの方やだれもが安全に通れる建物の出入口や通路	9.7	47.6	57.3
(2) . 公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター	19.6	54.7	74.3
(3) . 車いすの方、乳幼児を連れての方などだれもが使いやすいトイレ	11.6	44.4	56.0
(4) . 歩きやすいように、障害物が取り除かれた歩道や道路	5.1	27.3	32.4
(5) . 点字ブロックや視覚障害者用の信号機	9.0	42.5	51.5
(6) . 車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス	11.0	45.5	56.5
(7) . 障害者用の駐車場	11.9	40.8	52.7
(8) . 大きな文字、絵、複数の言語を用いた誰もがわかりやすい案内標示	4.3	27.6	31.9
(9) . 手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設	1.4	12.9	14.3
(10) . 補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	1.3	10.0	11.3
(11) . (1)～(10)や公園、道路などを含むまち全体のユニバーサルデザイン	3.3	28.1	31.4

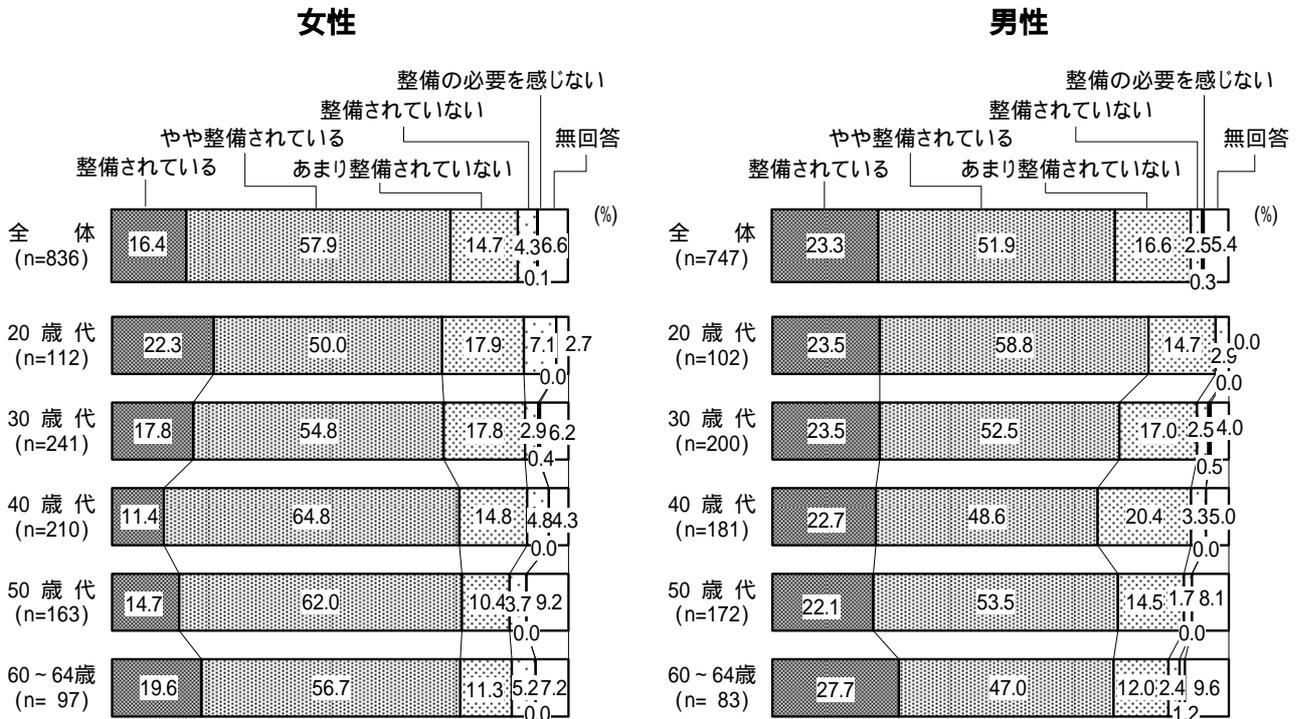
図表1-4-4 - 建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況（全体）



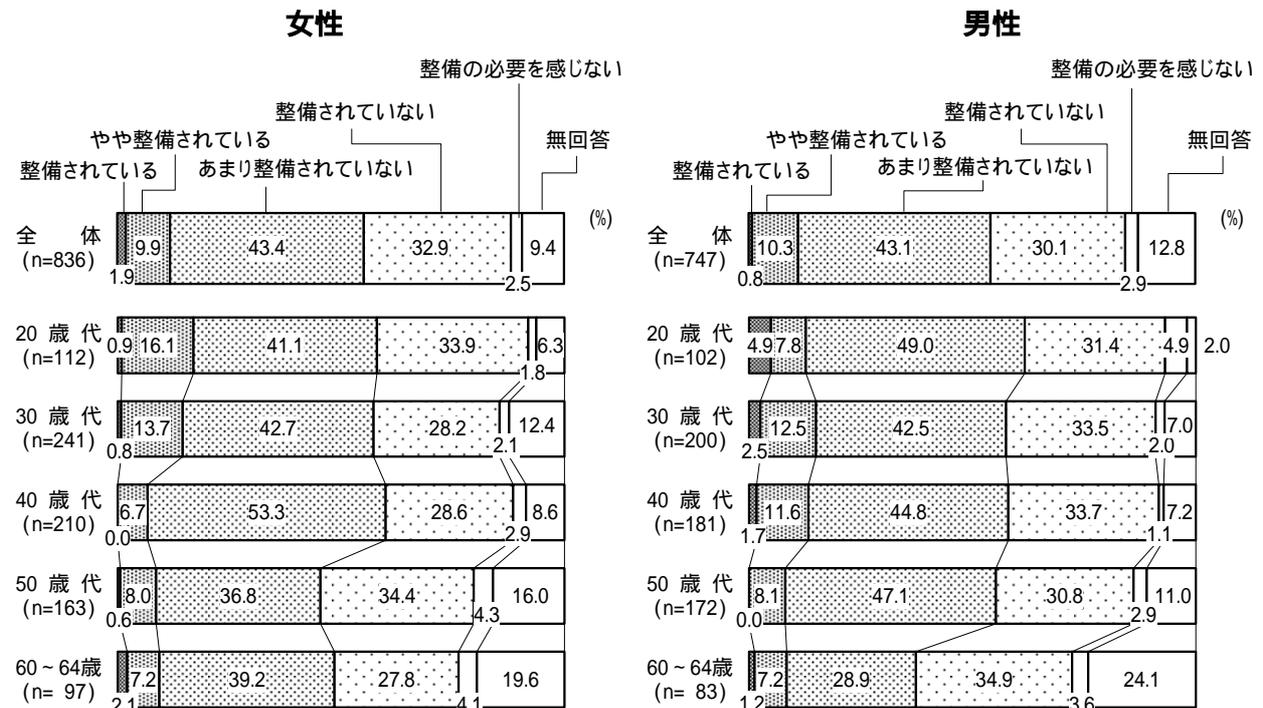
ユニバーサルデザイン

道路・住宅・製品などを設計製造する場合に、障害のある人用という区分けをなくし、だれでもが使えるものを作るという考え方

図表 1 - 4 - 4 - 建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況
「公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター」(性・年代別)



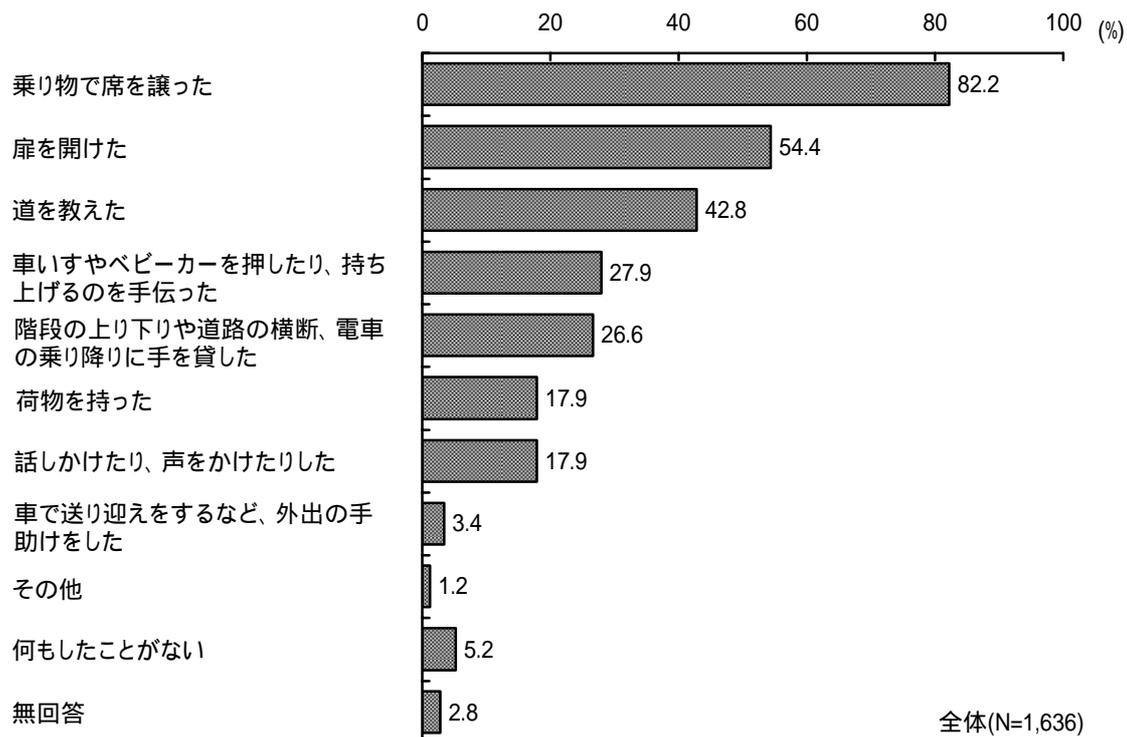
図表 1 - 4 - 4 - 建築物・公共交通機関等・情報のバリアフリー化の状況
「補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど」(性・年代別)



外出先での手助けの経験（問 15）

外出先での手助けの経験は、「乗り物で席を譲った（82.2%）」が最も多く、「扉を開けた（54.4%）」、「道を教えた（42.8%）」が続いている（図表 1 - 4 - 5）。

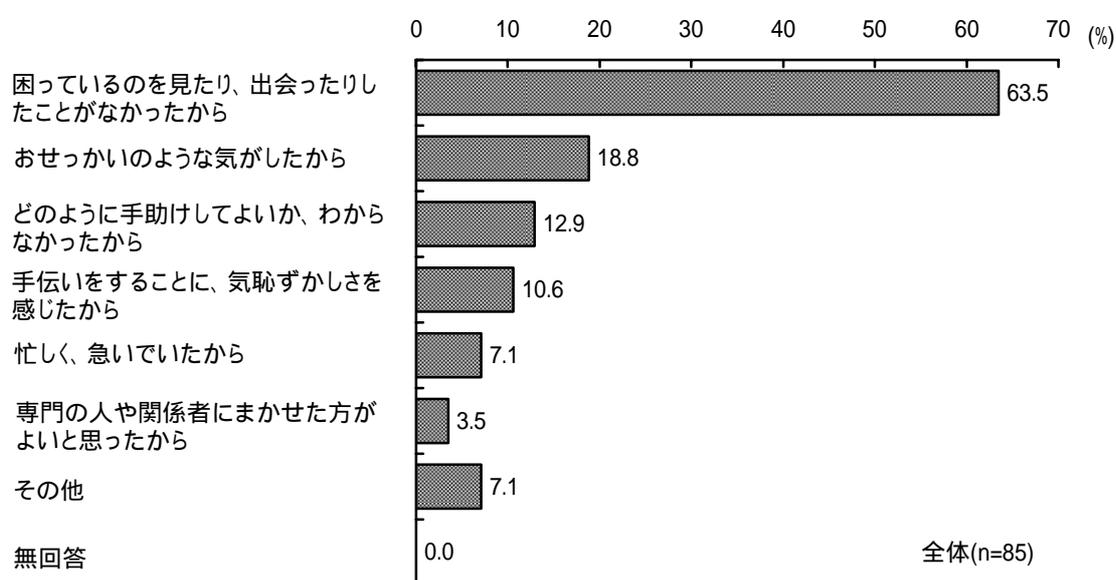
図表 1 - 4 - 5 外出先での手助けの経験（全体：複数回答）



手助けしなかった理由（問 15 - 1）

外出先での手助けの経験で、「何もしたことがない」と答えた人に、手助けしなかった理由をたずねた。手助けしなかった理由は、「困っているのを見たり、出会ったりしたことがなかったから（63.5%）」が最も多く、「おせっかいのような気がしたから（18.8%）」、「どのように手助けしてよいか、わからなかったから（12.9%）」が続いている（図表 1 - 4 - 6）。

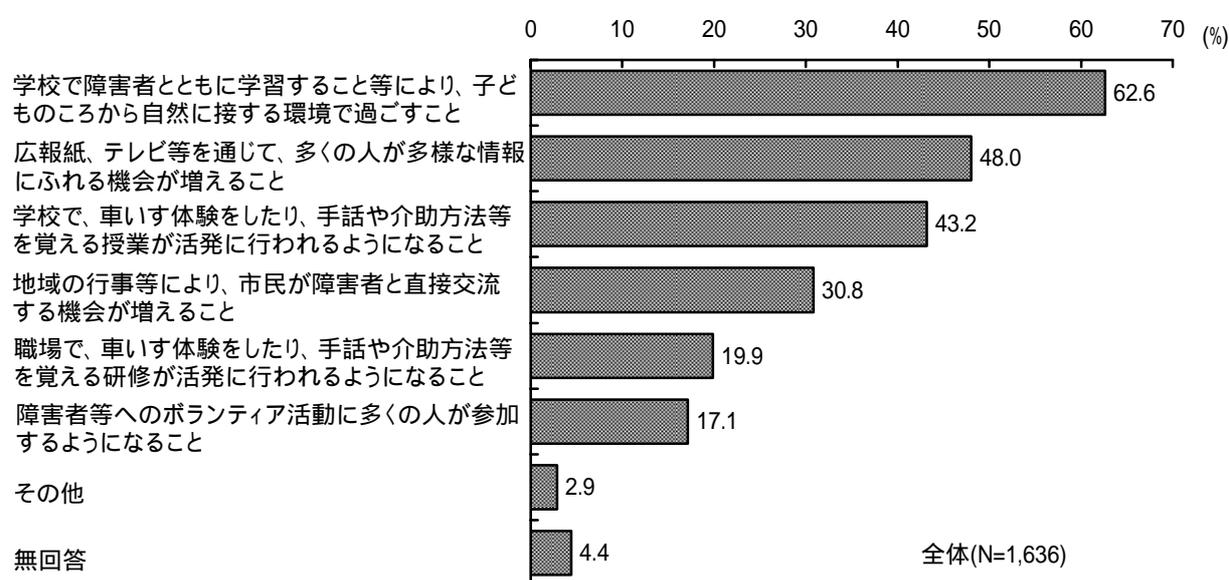
図表 1 - 4 - 6 手助けしなかった理由
 <外出先での手助けの経験で、「何もしたことがない」と答えた人>
 （全体：複数回答）



心のバリアフリーを進めるために必要なこと（問16）

心のバリアフリーを進めるために必要なことは、「学校で障害者とともに学習すること等により、子どものころから自然に接する環境で過ごすこと(62.6%)」が最も多く、「広報紙、テレビ等を通じて、多くの人が多様な情報にふれる機会が増えること(48.0%)」、「学校で、車いす体験をしたり、手話等を覚える授業が活発に行われるようになること(43.2%)」が続いている(図表1-4-7-)。

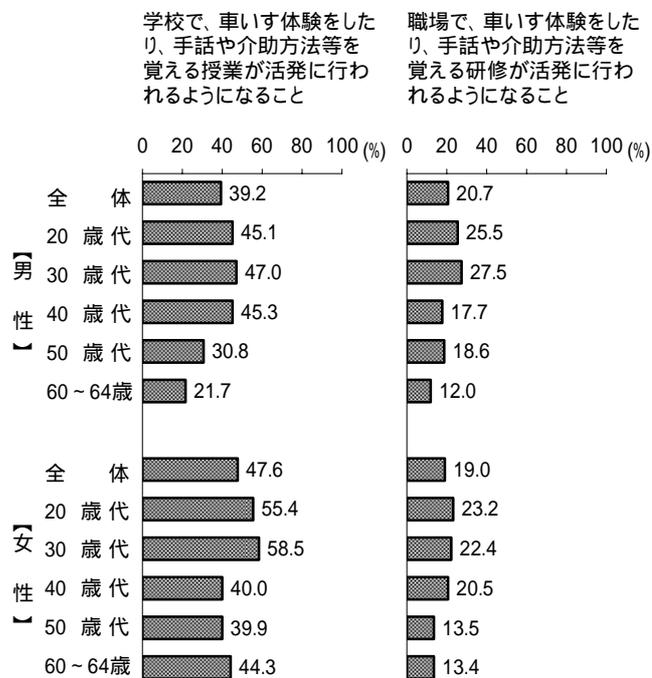
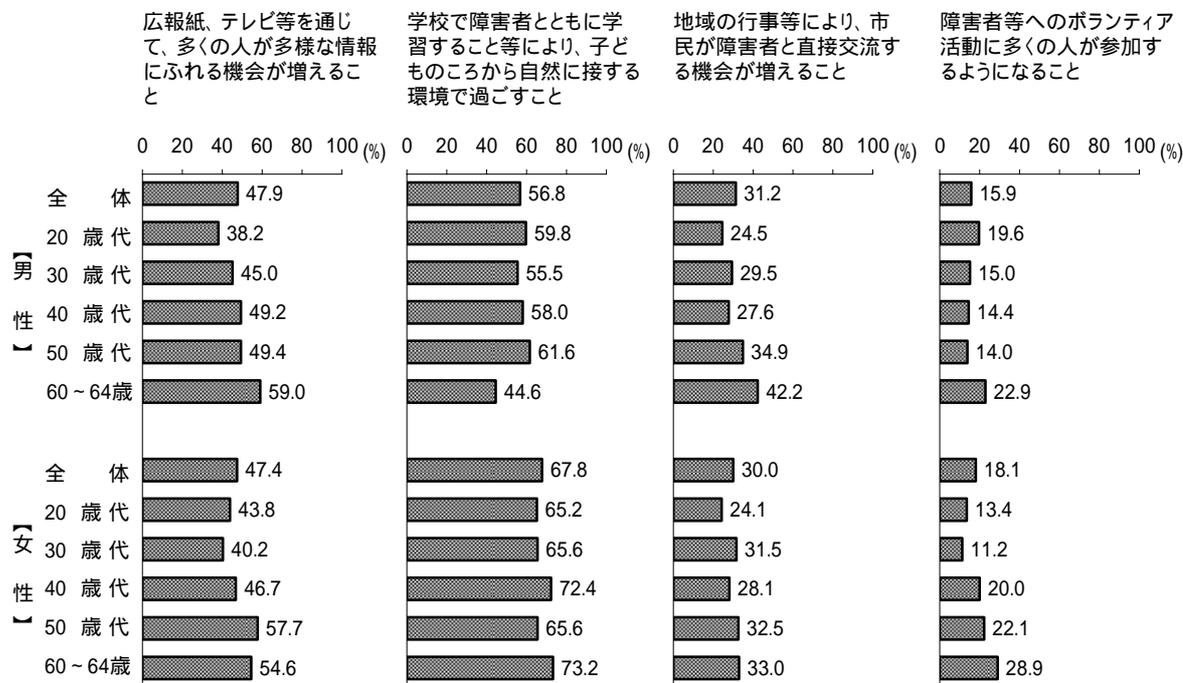
図表1-4-7- 心のバリアフリーを進めるために必要なこと
(全体：複数回答(3つまで))



バリアフリー

障害のある人が社会生活をしていくうえで妨げとなる障壁を除去するという意味で、建物や道路などの段差など、生活環境上の物理的障壁の除去のこと。
「心のバリアフリー」といった表現で、より広く社会参加を困難にしている社会的・制度的・心理的な全ての障壁の除去という意味でも用いる。

図表 1 - 4 - 7 - 心のバリアフリーを進めるために必要なこと
(性・年代別：複数回答(3つまで))



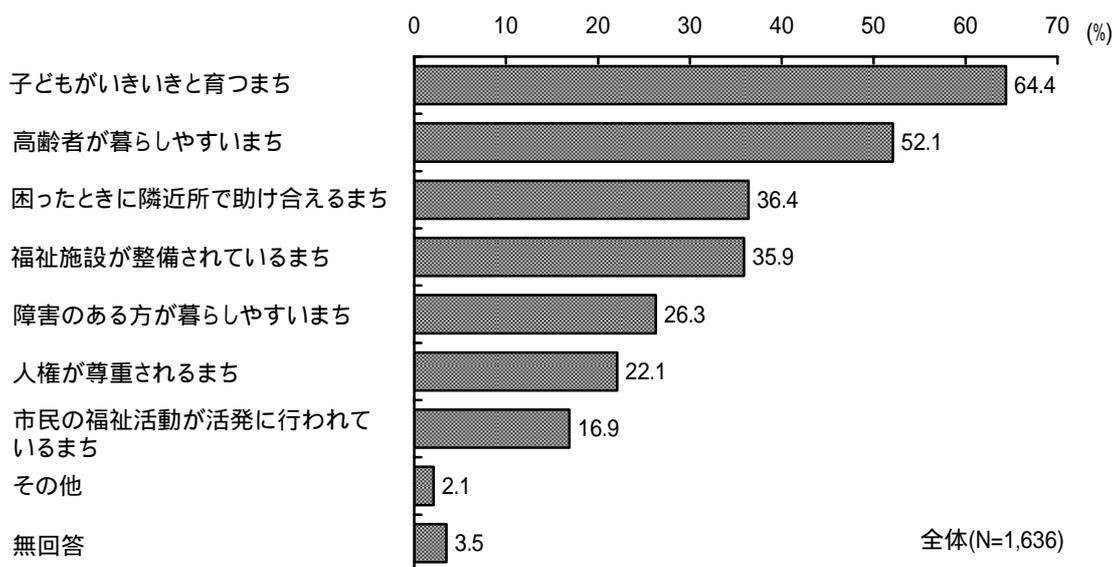
(5) 満足度

理想とする地域像 (問 17)

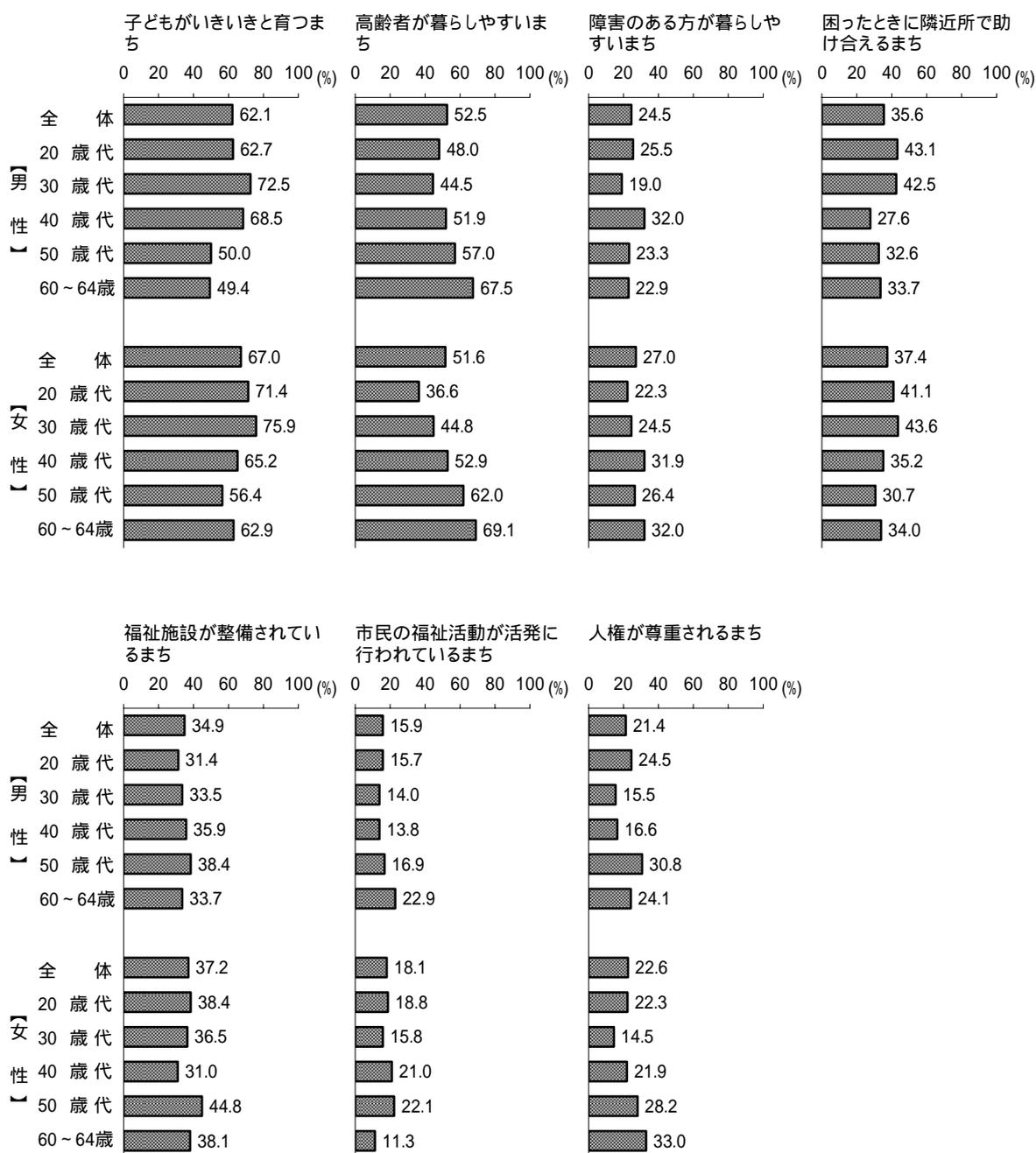
理想とする地域像は、「子どもがいきいきと育つまち(64.4%)」が最も多く、「高齢者が暮らしやすいまち(52.1%)」、「困ったときに隣近所で助け合えるまち(36.4%)」が続いている(図表1-5-1-)。

性・年代別にみると、「子どもがいきいきと育つまち」は男女共30歳代が最も多く、子育て世代を中心に理想とする地域像となっていることがわかる。また、「高齢者が暮らしやすいまち」は男女共年代が上がるにつれ多くなる傾向が見られ、女性の方がその差が大きい。最も少ない20歳代女性(36.6%)と最も多い60~64歳女性(69.1%)の差は32.5ポイントと顕著である(図表1-5-1-)。

図表1-5-1- 理想とする地域像 (全体：複数回答(3つまで))



図表 1 - 5 - 1 - 理想とする地域像（性・年代別：複数回答（3つまで））



地域の暮らしの満足度（問 18）

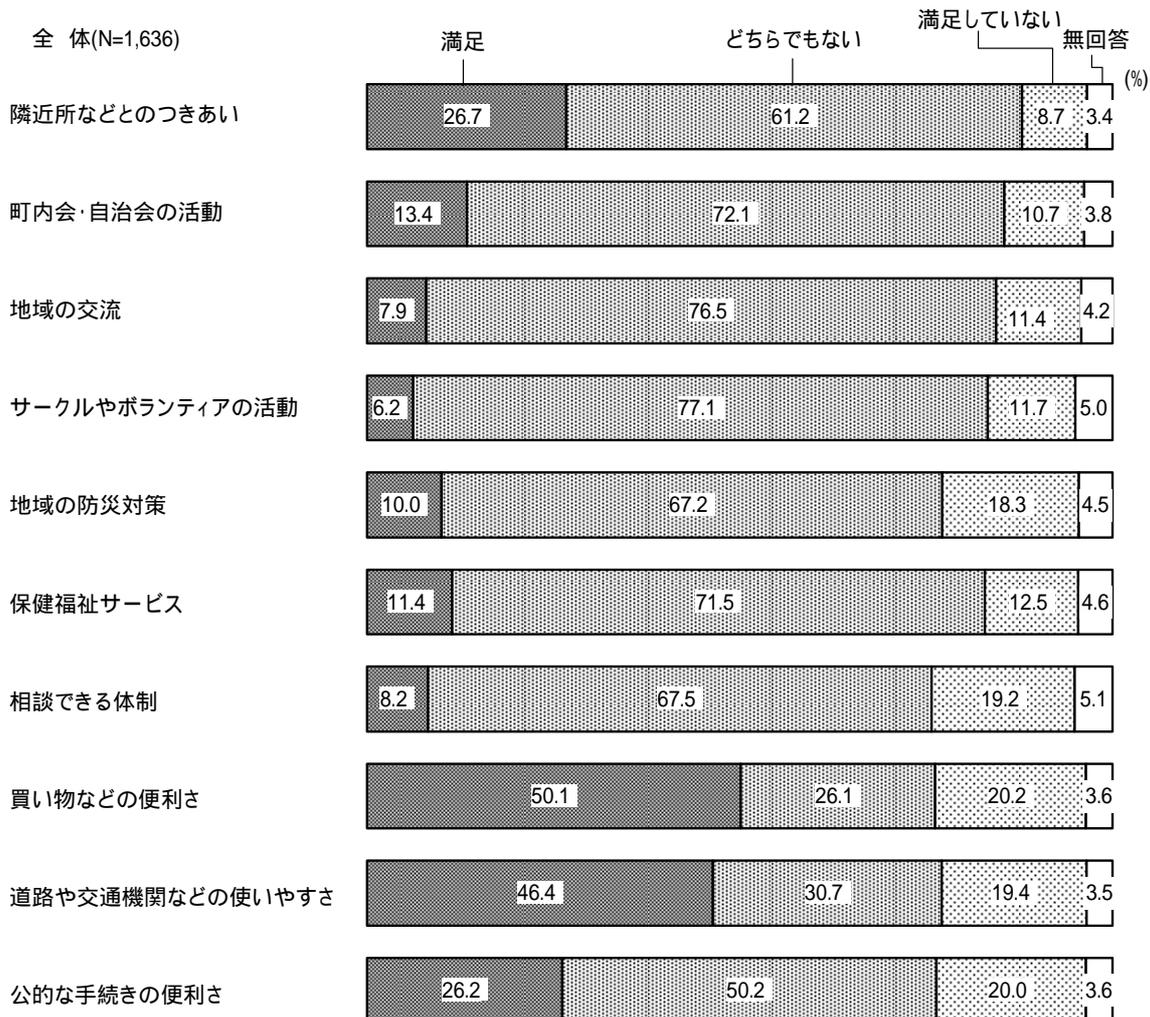
地域の暮らしについて 10 項目の満足度を「満足」、「どちらでもない」、「満足していない」の 3 段階でたずねた。

「満足」の回答が最も多かった項目は、「買い物などの便利さ（50.1%）」で、「道路や交通機関などの使いやすさ（46.4%）」、「隣近所などとのつきあい（26.7%）」が続いている。一方、「満足」の回答が最も少なかった項目は、「サークルやボランティア活動（6.2%）」で、「地域の交流（7.9%）」、「相談できる体制（8.2%）」が続いている（図表 1 - 5 - 2 - ）。

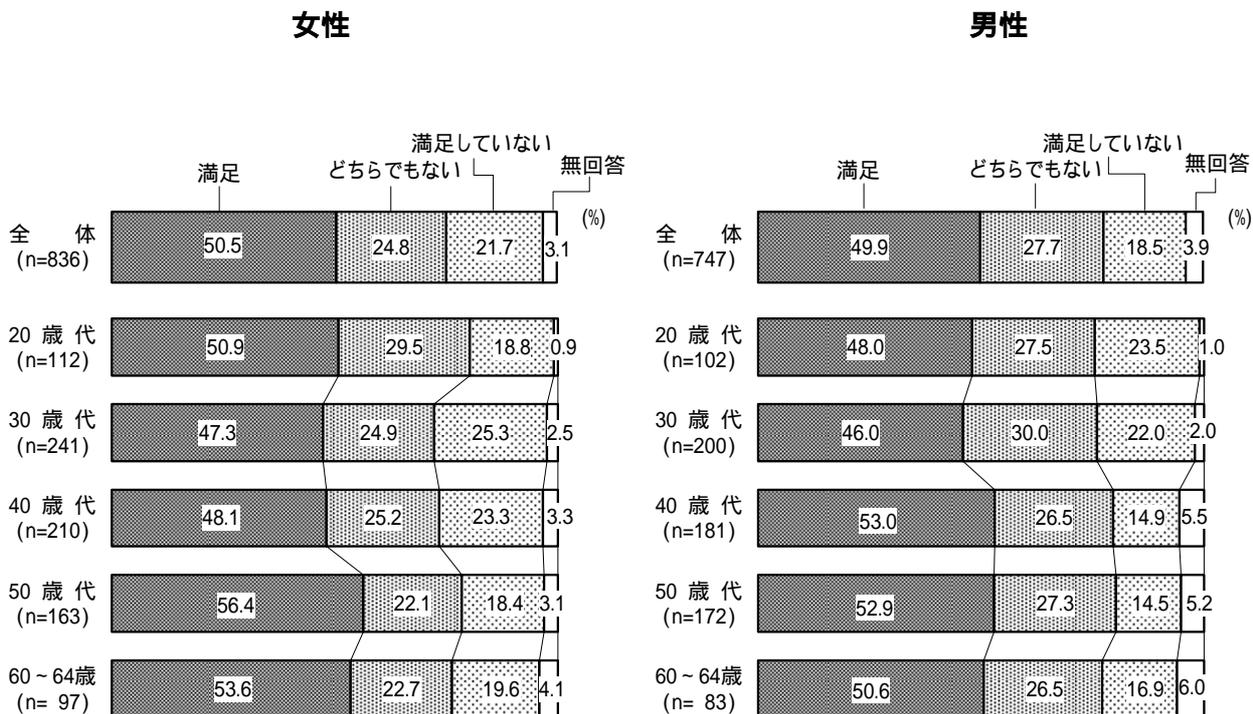
最も満足度が高い「買い物などの便利さ」について性・年代別にみると、男女共年代が上がるほど「満足」の回答も多くなっており、50 歳代以上の女性、40 歳代以上の男性の 50% 以上が「満足」と回答している（図表 1 - 5 - 2 - ）。

一方、「満足」との回答が最も少ない「サークルやボランティア活動」について性・年代別にみると、30 歳代から 50 歳代では女性より男性で「満足」との回答が少なくなっている（図表 1 - 5 - 2 - ）。

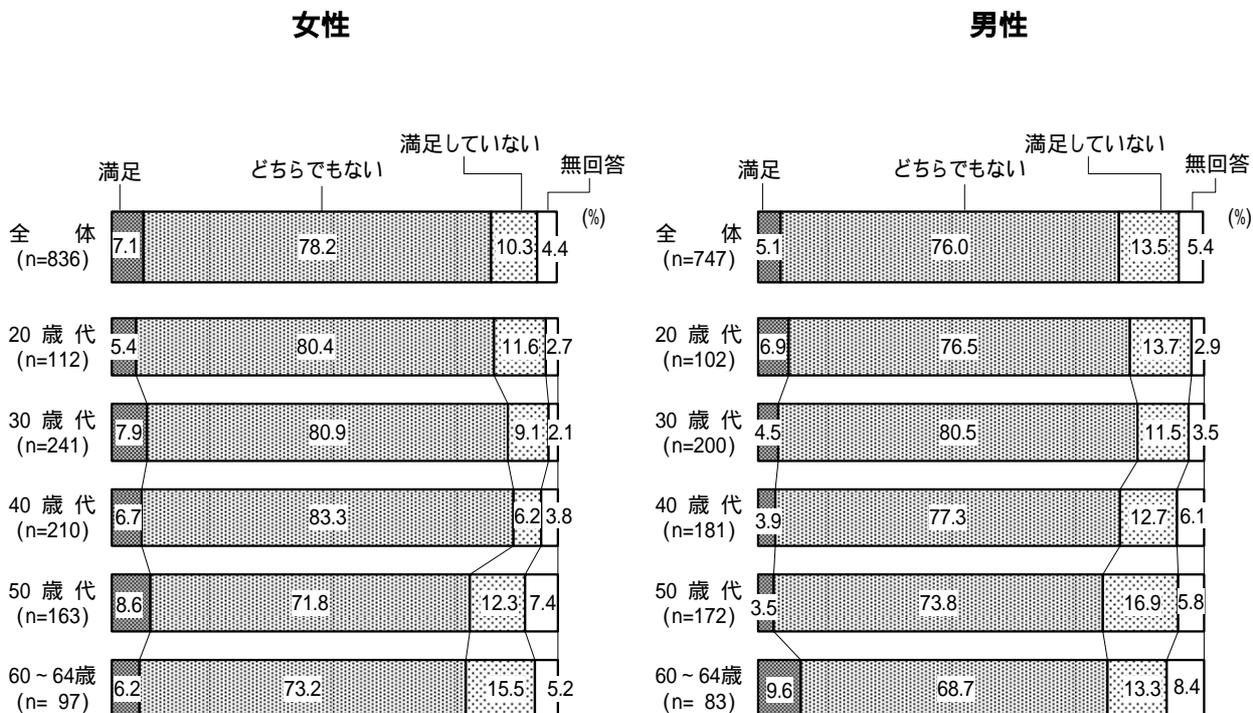
図表 1 - 5 - 2 - 地域の暮らしの満足度（全体）



図表 1 - 5 - 2 - 地域の暮らしの満足度「買い物などの便利さ」(性・年代別)



図表 1 - 5 - 2 - 地域の暮らしの満足度「サークルやボランティア活動」(性・年代別)



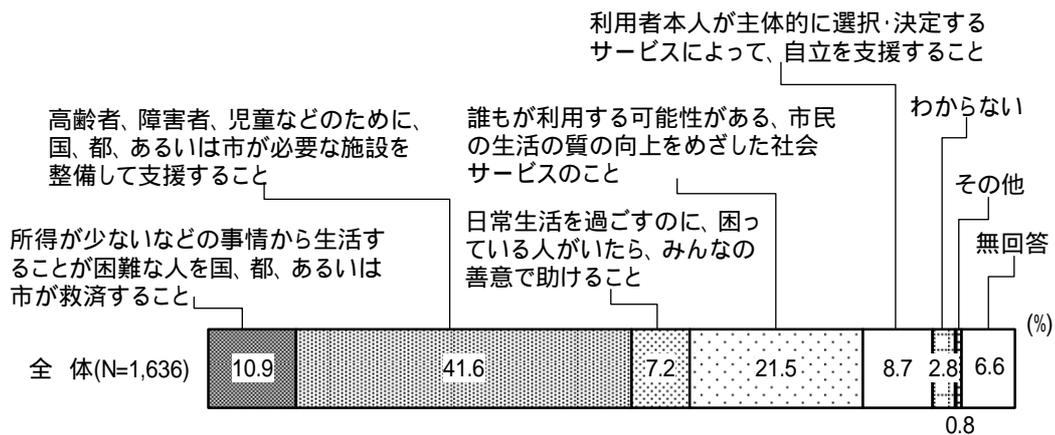
(6) 福祉に対する考え方

「福祉」に対する考え方(問19)

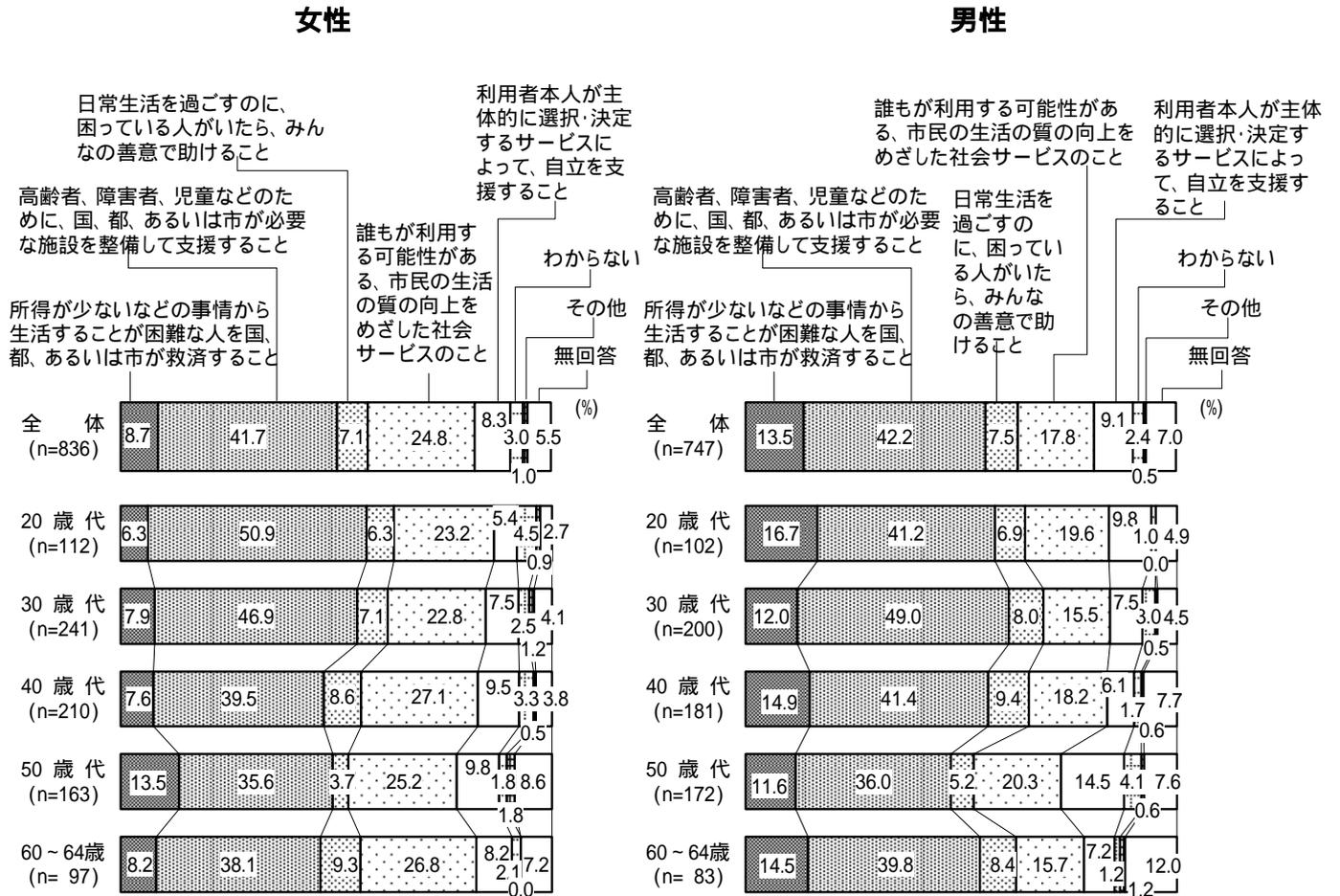
「福祉」に対する考え方は、「高齢者、障害者、児童などのために、国、都、あるいは市が施設を整備して支援すること(41.6%)」が最も多く、「誰もが利用する可能性がある、市民の生活の質の向上をめざした社会サービスのこと(21.5%)」、「所得が少ないなどの事情から生活することが困難な人を国、都、市が救済すること(10.9%)」が続いている(図表1-6-1-)。

性・年代別にみると、男女共どの年代も「高齢者、障害者、児童などのために、国、都、あるいは市が施設を整備して支援すること」が最も多いが、年代が上がるほどその割合は少なくなる傾向がみられる(図表1-6-1-)。

図表1-6-1- 「福祉」に対する考え方(全体)



図表 1 - 6 - 1 - 「福祉」に対する考え方（性・年代別）



ソーシャルインクルージョンの考え方（問20）

ソーシャルインクルージョンについての考え方を7つの項目について「そう思う」～「全く思わない」の5段階でたずねた。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が最も多かったのは、「障害のある人となない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である（84.6%）」で、「児童や高齢者の虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である（78.9%）」、「ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である（64.4%）」が続いている（図表1-6-2-
- ）。

一方、「全く思わない」、「あまり思わない」の合計が最も多かったのは、「ひきこもりやニートは、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる（29.5%）」で、「生活保護受給者に対する偏見や差別があると感じる（26.0%）」、「ホームレスの問題は、本人だけでなく、社会全体の問題と感じる（21.7%）」が続いている（図表1-6-2-
- ）。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が最も多い「障害のある人となない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である」について性・年代別にみると、男性は年代による大きな違いはないが、女性では20歳代、40歳代で「そう思う」が60%を超えている（図表1-6-2-
- ）。

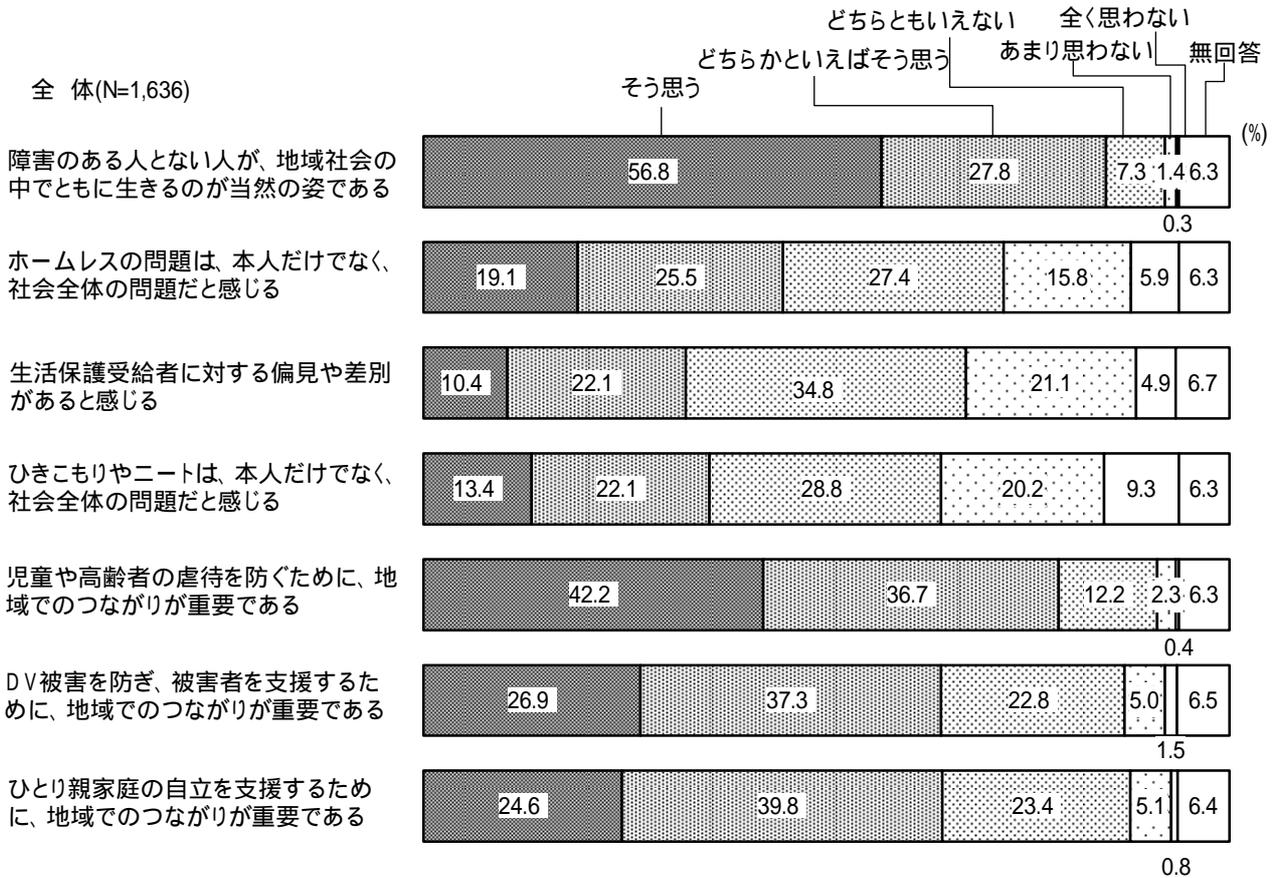
図表1-6-2- ソーシャルインクルージョンの考え方
（「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計）（全体）

	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	合 計
（単位：％）			
(1) . 障害のある人となない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である	56.8	27.8	84.6
(2) . ホームレスの問題は、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる	19.1	25.5	44.6
(3) . 生活保護受給者に対する偏見や差別があると感じる	10.4	22.1	32.5
(4) . ひきこもりやニートは、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる	13.4	22.1	35.5
(5) . 児童や高齢者の虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である	42.2	36.7	78.9
(6) . DV被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である	26.9	37.3	64.2
(7) . ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である	24.6	39.8	64.4

DV（ドメスティック・バイオレンス）

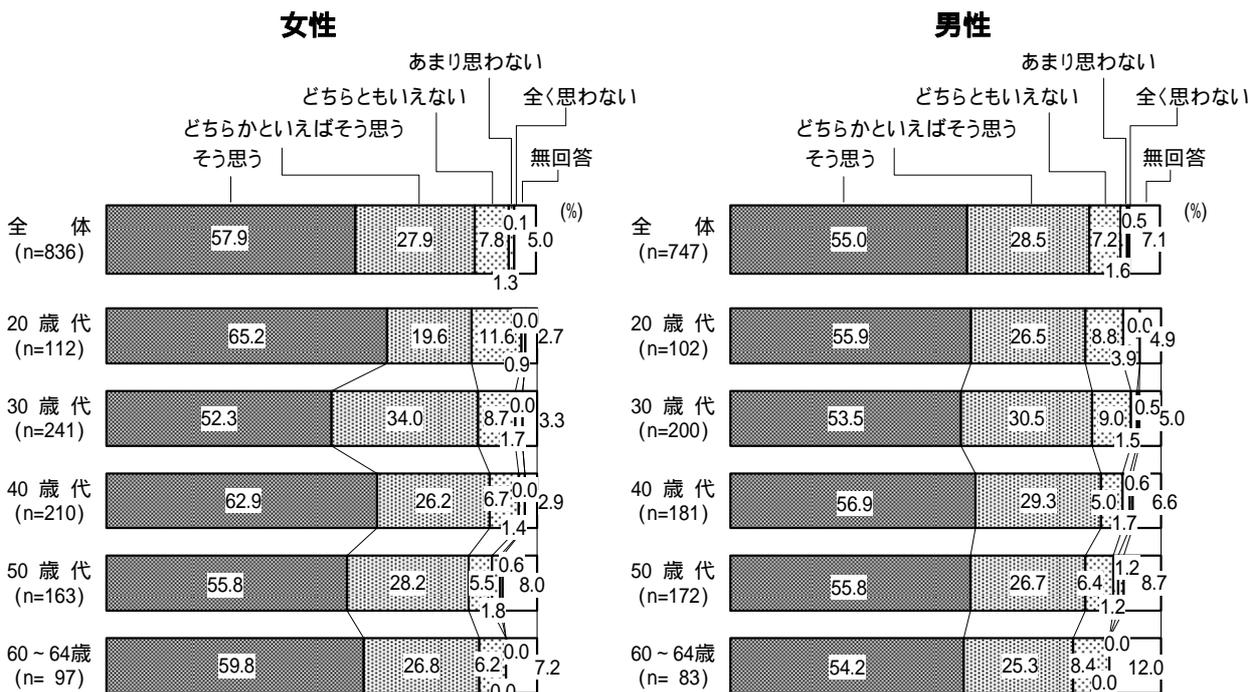
夫や恋人など親密な関係にある（またはあった）男性から女性に対して振るわれる暴力。身体的な暴力だけでなく、精神的、経済的、性的な暴力などあらゆる暴力が含まれる。

図表 1 - 6 - 2 - ソーシャルインクルージョンの考え方 (全体)



図表 1 - 6 - 2 - ソーシャルインクルージョンの考え方

「障害のある人とない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である」(性・年代別)



(7) 施策の方向

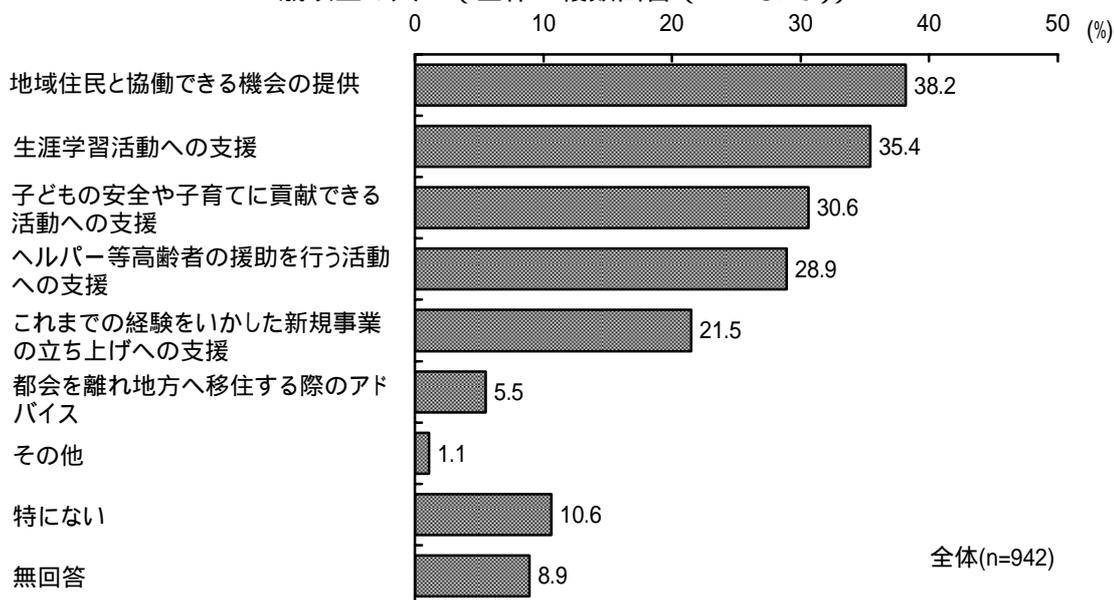
定年退職後の地域活動支援への要望（問21）

40歳以上の人に、定年退職後の地域活動支援への要望をたずねた。定年退職後の地域活動支援への要望は、「地域住民と協働できる機会の提供（38.2%）」が最も多く、「生涯学習活動への支援（35.4%）」、「子どもの安全や子育てに貢献できる活動への支援（30.6%）」が続いている（図表1-7-1-）。

性・年代別にみると、男性では40歳代で「生涯学習活動への支援（38.1%）」が1位にあげられており、50歳代以上では「地域住民と協働できる機会の提供」が強く望まれていることがわかる。一方女性は、40歳代では「子どもの安全や子育てに貢献できる活動への支援」ほか、上位3つがそれぞれ39.5%と要望が多様であることがうかがえる。50歳代では「生涯学習活動への支援（35.6%）」、60～64歳では「地域住民と協働できる機会の提供（48.5%）」が強く求められている（図表1-7-1-）。

図表1-7-1- 定年退職後の地域活動支援への要望

<40歳以上の人>（全体：複数回答（3つまで））



図表 1 - 7 - 1 - 定年退職後の地域活動支援への要望

< 40 歳以上の人 > (性・年代別：複数回答 (3 つまで))

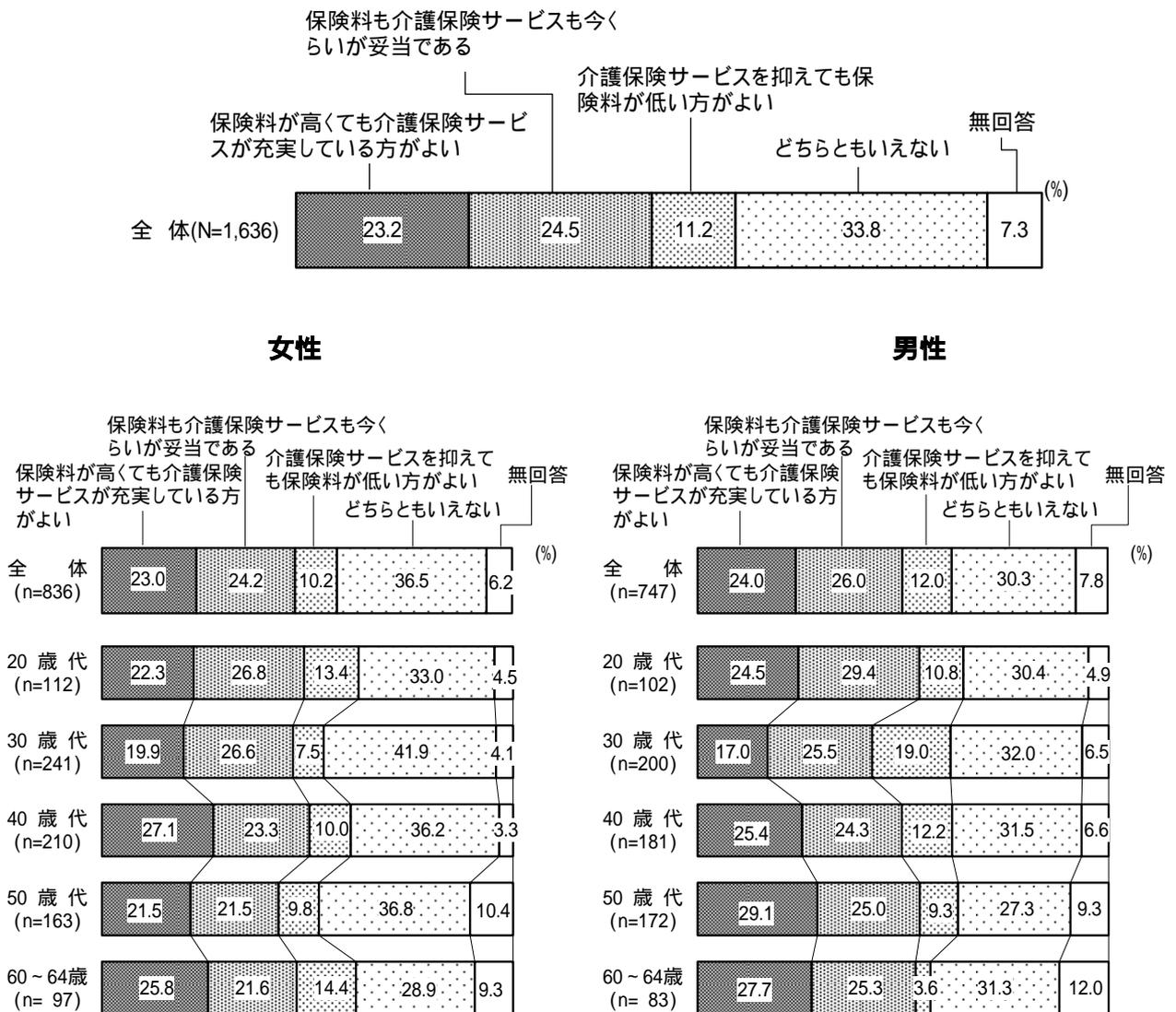
		1位	2位	3位
男性	全体 (n=444)	地域住民と協働できる機 会の提供 38.5	生涯学習活動への支援 36.0	子どもの安全や子育てに 貢献できる活動への支援 27.3
	40歳代 (n=181)	生涯学習活動への支援 38.1	子どもの安全や子育てに 貢献できる活動への支援 37.6	地域住民と協働できる機 会の提供 34.3
	50歳代 (n=172)	地域住民と協働できる機 会の提供 44.8	生涯学習活動への支援 36.6	これまでの経験をいかし た新規事業の立ち上げへ の支援 27.3
	60～64歳 (n= 83)	地域住民と協働できる機 会の提供 37.3	ヘルパー等高齢者の援助 を行う活動への支援 34.9	生涯学習活動への支援 28.9
女性	全体 (n=481)	地域住民と協働できる機 会の提供 38.5	生涯学習活動への支援 36.0	子どもの安全や子育てに 貢献できる活動への支援 33.5
	40歳代 (n=210)	子どもの安全や子育てに貢献できる活動への支援 / 地域住民と協働できる機会の提供 / ヘルパー等高齢者の援助を行う活動への支援 39.5		
	50歳代 (n=163)	生涯学習活動への支援 35.6	地域住民と協働できる機 会の提供 31.9	ヘルパー等高齢者の援助 を行う活動への支援 26.4
	60～64歳 (n= 97)	地域住民と協働できる機 会の提供 48.5	生涯学習活動への支援 39.2	子どもの安全や子育てに 貢献できる活動への支援 36.1

介護保険サービスと保険料についての考え方（問 22）

介護保険サービスと費用負担についての考え方は、「どちらともいえない（33.8%）」が最も多く、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である（24.5%）」、「保険料が多少高くても介護保険サービスが充実している方がよい（23.2%）」が続いている。

性・年代別にみると、男女共30歳代以上は年代が上がるほど「保険料が多少高くても介護保険サービスが充実している方がよい」が多くなる傾向が見られる。また、男性では年代が上がるほど「介護保険サービスを抑えても保険料が低いほうがよい」が少なくなる傾向がみられる（図表1-7-2）。

図表1-7-2 介護保険サービスと保険料についての考え方（全体、性・年代別）

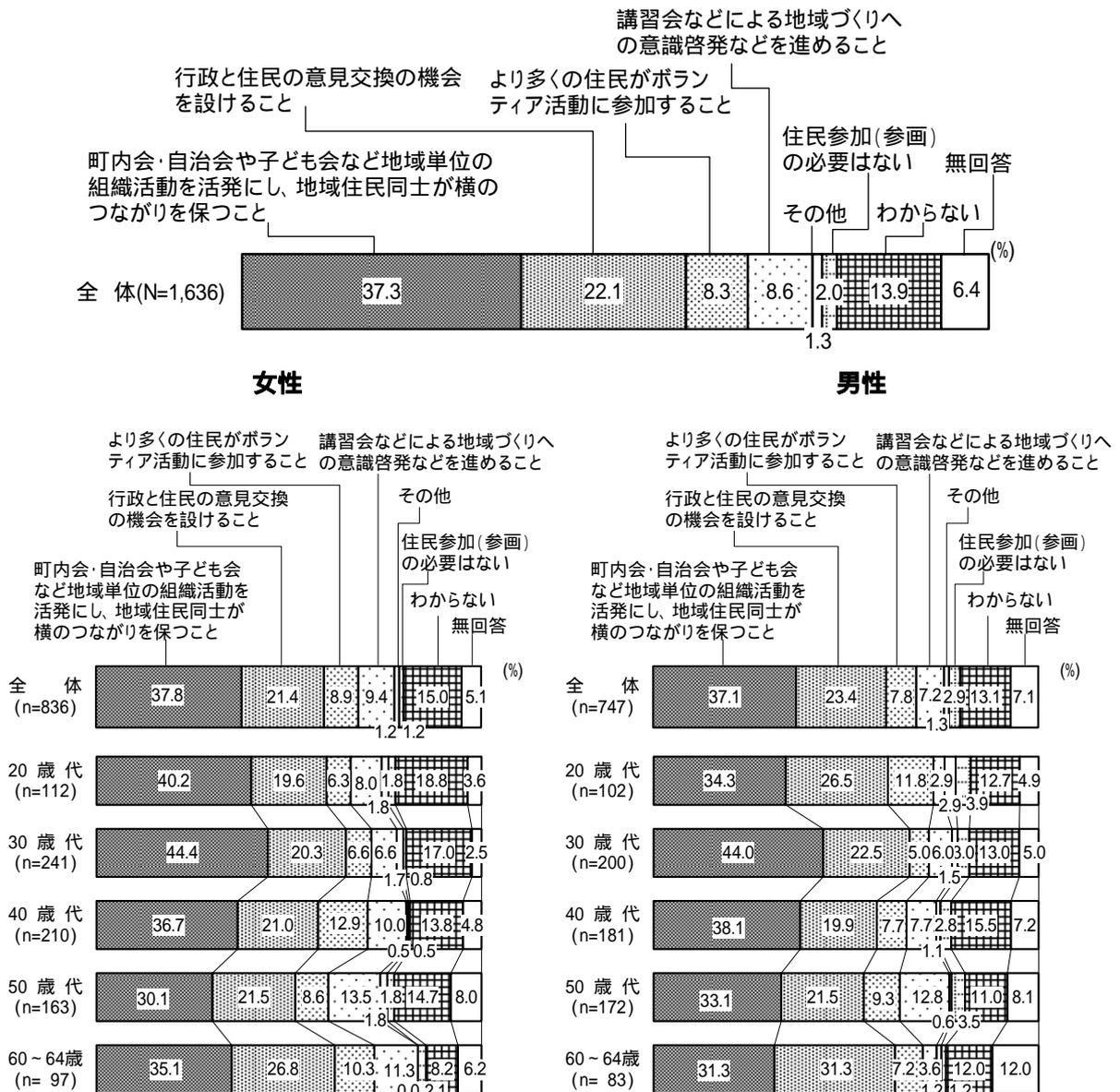


福祉を充実するための住民参加（参画）の方法（問 23）

福祉を充実するための住民参加（参画）の方法については、「町内会・自治会や子ども会など地域単位の組織活動を活発にし、地域住民同士が横のつながりを保つこと（37.3%）」が最も多く、「行政と住民の意見交換の機会を設けること（22.1%）」、「わからない（13.9%）」が続いている。

性・年代別にみると、男性では年代が上がるほど「行政と住民の意見交換の機会を設けること」が多くなる傾向がみられ、60～64歳では「町内会・自治会や子ども会など地域単位の組織活動を活発にし、地域住民同士が横のつながりを保つこと」とそれぞれ31.3%を占めて並んでいる。女性では30歳代で「町内会・自治会や子ども会など地域単位の組織活動を活発にし、地域住民同士が横のつながりを保つこと（44.4%）」が特に多くなっており、全体に比べ7.0ポイント上回っている（図表1-7-3）

図表1-7-3 福祉を充実するための住民参加（参画）の方法（全体、性・年代別）

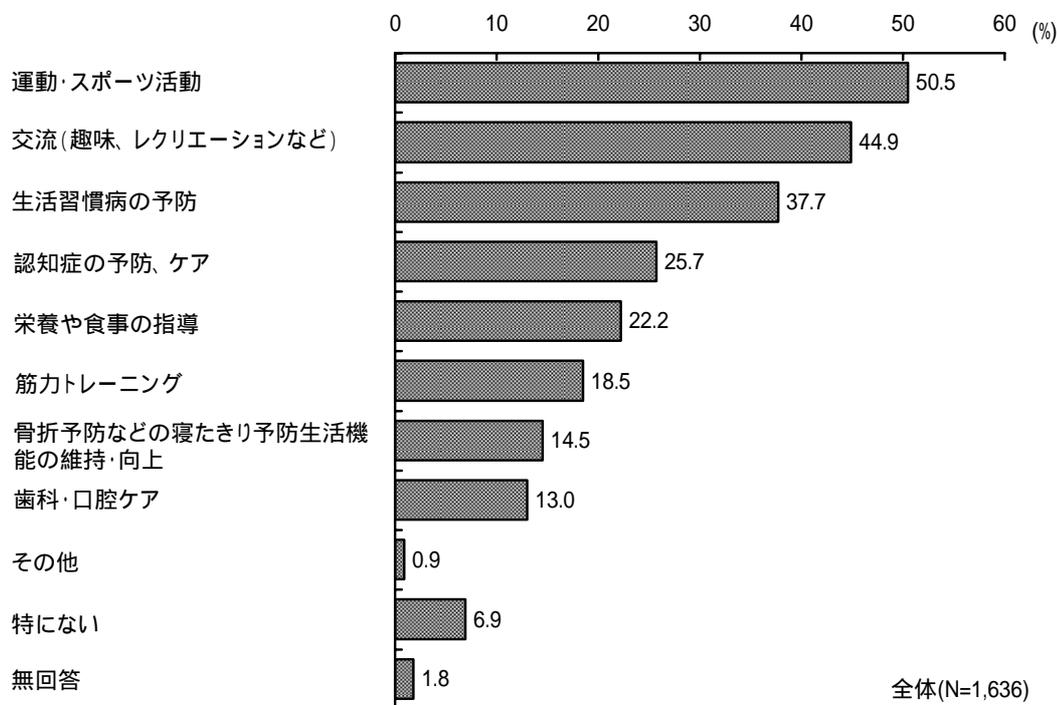


健康管理（介護予防）事業への参加希望（問24）

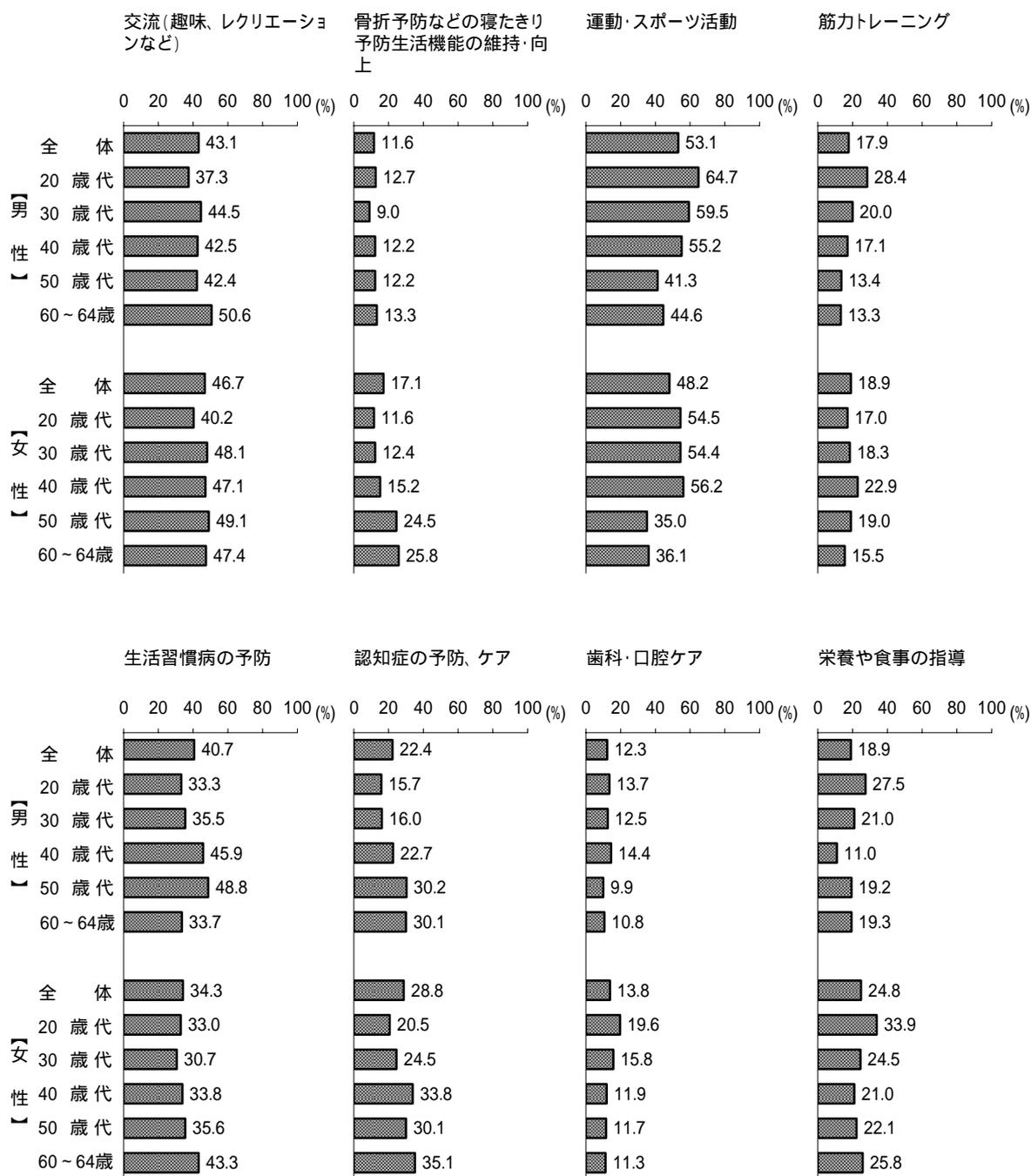
参加を希望する健康管理（介護予防）事業は、「運動・スポーツ活動（50.5%）」が最も多く、「交流（趣味、レクリエーションなど）（44.9%）」、「生活習慣病の予防（37.7%）」が続いている（図表1-7-4- ）。

性・年代別にみると、男女共年代が上がるにつれて「運動・スポーツ活動」は少なくなる傾向がみられる。また、「生活習慣病の予防」は40歳代、50歳代の男性と60～64歳の女性で多くなっている。「認知症の予防、ケア」、「栄養や食事の指導」は男性よりも女性がほとんどの年代で上回っている（図表1-7-4- ）。

図表1-7-4- 健康管理（介護予防）事業への参加希望（全体：複数回答（3つまで））



図表 1 - 7 - 4 - 健康管理（介護予防）事業への参加希望（性・年代別：複数回答（3つまで））

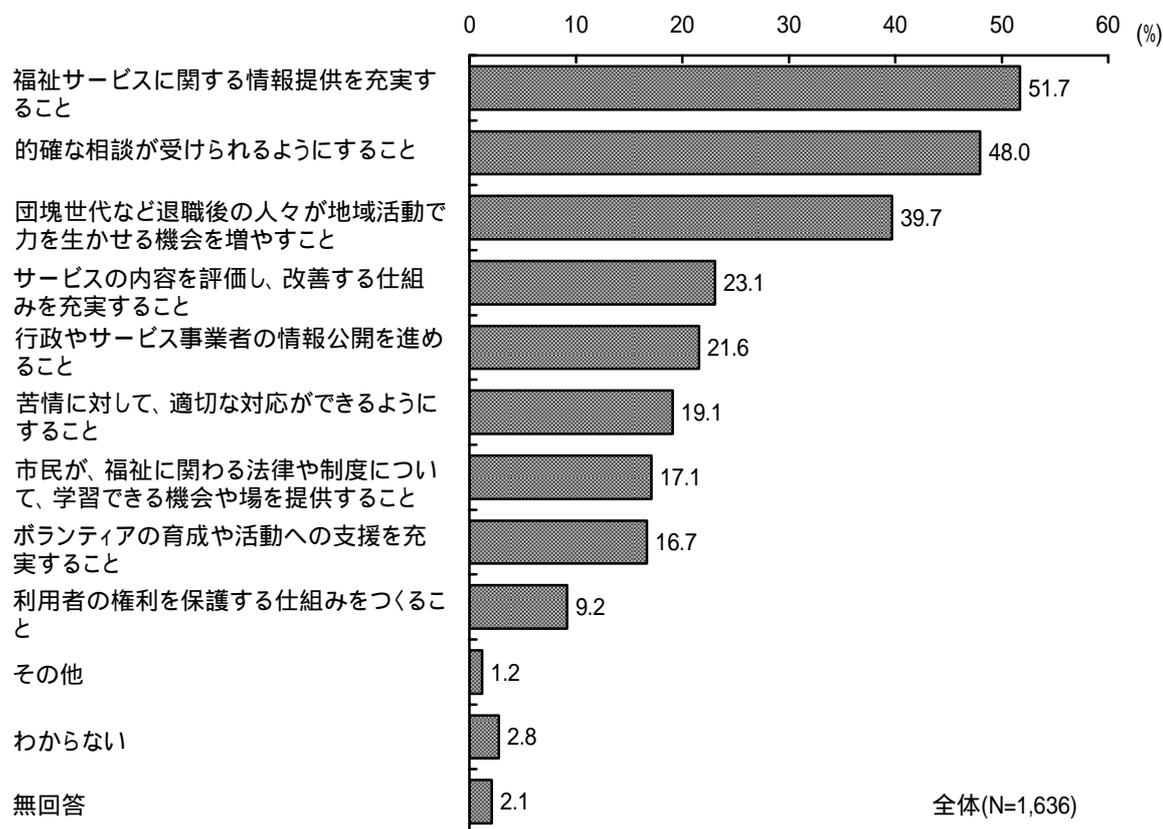


市が優先的に取り組むべき地域福祉サービス（問25）

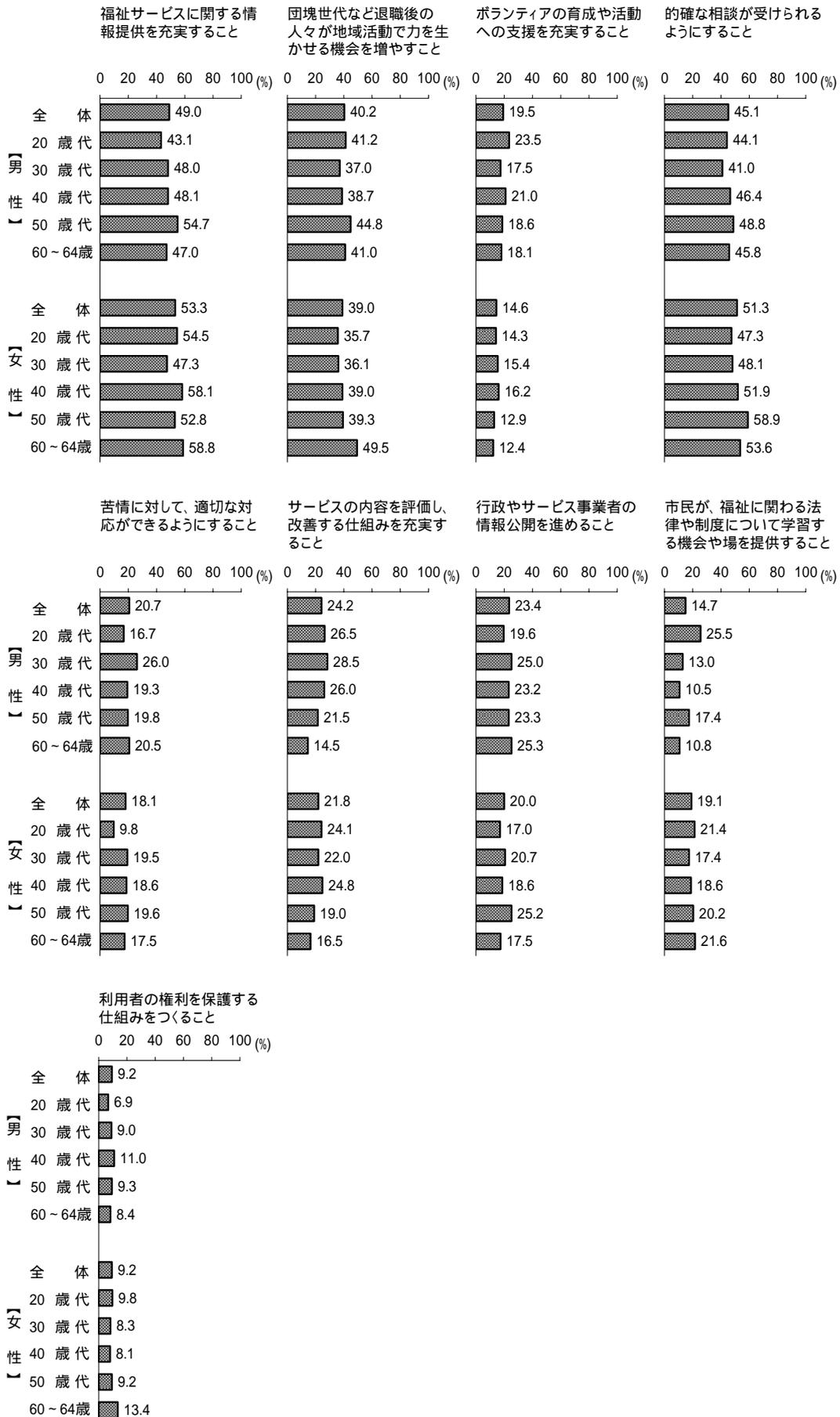
これからの府中市の「利用者本位の福祉」を実現するために取り組むべき施策は、「福祉サービスに関する情報提供を充実すること（51.7%）」が最も多く、「的確な相談が受けられるようにすること（48.0%）」、「団塊世代など退職後の人々が地域活動で力を生かせる機会を増やすこと（39.7%）」が続いている（図表1-7-5- ）。

性・年代別にみると、「福祉サービスに関する情報提供を充実すること」、「的確な相談が受けられるようにすること」は女性の方が多く、40歳代以降の女性では50%を超えている。また、「団塊世代など退職後の人々が地域活動で力を生かせる機会を増やすこと」については20歳代から50歳代までは男性が女性を上回っているが、60～64歳で女性が49.5%と多い（図表1-7-5- ）。

図表1-7-5- 市が優先的に取り組むべき地域福祉サービス（全体：複数回答（3つまで））



図表 1 - 7 - 5 - 市が優先的に取り組むべき地域福祉サービス(性・年代別:複数回答(3つまで))



(8) 市への要望 (問26)

府中市の福祉やまちづくりについて、意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で451件の回答があった。以下に主なものを掲載する。

情報の入手に関すること (43件)

- ・ 本当に福祉サービスの必要性を感じたときに、具体的にどのような内容であるかを分かりやすく市民に示す情報が欲しい。また、そのために必要な手続はできるだけ簡潔にして欲しい。(女性、35～39歳)
- ・ 団塊世代など退職後の人々がボランティア活動などに参加を希望する場合の情報を、広報などを通じ、詳しく知らせたい。(性別、年齢不明)
- ・ 1人暮らしの20～30歳代は情報入手の手段としてテレビやインターネットが主であり、新聞を取る人はあまりいないと思います。市の情報入手として、近隣の市でも行っている市広報のポスティングをして欲しいです。そうすれば、市の行事、政策などが自然に目につき、行事の参加者等も増え、市政に興味を持つ人も多くなっていくのではないのでしょうか。(女性、30～34歳)

バリアフリー、ユニバーサルデザインに関すること (40件)

- ・ 市内の中心でバリアフリーも道路に生かされているが、中心部を離れると段差が多く歩みにくい。また、電柱が歩行等の障害になっているので、早く電柱の地下化を進めて欲しい。(男性、60～64歳)
- ・ 街路樹が多いことは景観にも良いことと思うのですが、その分歩道が狭くなったり、でこぼこが生じるので、車いすやベビーカーはとても通りにくいと思う。また、木の枝にカーブミラーが隠れてしまっている物もよく見かけるので危険に思う。(女性、35～39歳)
- ・ 先日、子どもの学校で車いす体験をした。ほんの少しの段差でも一人で上がることができませんでした。タイル張りの歩道はきれいだが、タイヤがすぐに引っかかるし、歩道の狭いところが多く通ることができなかつた。(女性、40～44歳)

子育て支援、遊び場の整備に関すること (39件)

- ・ 保育園に入所しやすくして欲しい。仕事を続けるために0歳児を入所させたかったが枠に入れず、一時保育の保育料を月8万円払っていたが、20歳代の夫婦の家計にとっては極めて苦しかった。この期間のことを思うと二人目の出産は難しく思います。市からの一時保育料の援助が増えて欲しい。(女性、25～29歳)
- ・ 府中市には児童館もなく、もっと子どもがのびのび遊べる子どものための場所を作って欲しい。「たち」は乳幼児の施設なので、小学生からの子どもが雨の日でも使える遊び場が欲しい。(女性、35～39歳)
- ・ 子どもの学習活動が充実するような施策や見直しを常に行ってほしい。例えば、市内の小中学生が、より本物の高いレベルの中で活動できるように「府中の森芸術劇場」

の無料・優先使用などを検討し実現してもらいたい。せっかく市の施設が充実している府中市なのですから、お願いしたい。(女性、40～44歳)

府中市の好きなところ、市政への感謝、激励など(39件)

- ・ 住みやすく、良いまちだと思う。今後も福祉活動など人にやさしいまちづくりに力を入れてください。(男性、35～39歳)
- ・ 施設、道路など整備されていて大変暮らしやすく気持ちの良い町なので、このままであって欲しい。(女性、30～34歳)

景観、まちの緑化、美化に関すること(37件)

- ・ 美しい景観を維持または整備し、自らの住環境の周囲に大切にしたい場を作って欲しい。(男性、40～44歳)
- ・ 便利なまちづくりを優先して、緑の保護を怠っていると思う。もう人口は増加しないので、開発や宅地化を優先するのではなく、自然保護最優先のまちづくりを望む。(男性、45～49歳)

市職員の対応、窓口への要望など(33件)

- ・ 福祉、行政サービス等、利用者が自ら申請、手続をするのではなく、もっと行政側から能動的に動けるシステム、仕組みが必要である。(男性、45～49歳)
- ・ 一人で住んでいる高齢の方が増えているが、そういう方々が安心して最期まで暮らせるように、土地や家、また資産のことなど市に相談できる窓口があるとお互いにとって有効活用できると思う。(男性、40～44歳)
- ・ 様々な援助を受けることができ感謝しているが、平日の17時までしか窓口が開いていないので申請を諦めざるを得ないことがあった。ご一考願いたい。(女性、45～49歳)

ゴミ回収方法などについて(32件)

- ・ ゴミの有料化について、今後まちがどうなっていくのか不安。無断でポイ捨てなどがされないか、町が汚れないか、など。今の状態が良いように思う。(女性、20～24歳)
- ・ 現行のゴミ回収の方法は大変良い仕組みであるので、利用者が不便を被るような方法に変えるべきではない。利用者本位が大原則である。(男性、60～64歳)

福祉政策の考え方、要望など(32件)

- ・ 子ども(教育)と高齢者、障害者問題について、一つを優先させるのではなく、先々を考え偏りのない方法を見つけて欲しいと思う。(男性、40～44歳)
- ・ 「府中市は福祉関係が充実している」と他市の人に言われるがあまり実感できない。どんな世代の人たちにも、府中の福祉サービスに触れられるようなまちにして欲しい。(女性、25～29歳)
- ・ 府中市はハード面は充実しているがソフトの方から積極的に弱い立場(高齢者、子ども、

障害者のいる世帯)に働きかけて行って欲しい。(女性、45~49歳)

地域活動、近所づきあいに関すること(26件)

- ・できるだけ他人に迷惑をかけない健康な老後生活を続けるために、生きがいを持てるような活動の場を提供していただけたら、と思う。(女性、60~64歳)
- ・豊かでとても良い町だと感じているが、古くから住んでいる人と、新しく移り住んできている人(マンションも建設ラッシュで増えてます)の二つの層のギャップがすごくある、と感じている。(女性、45~49歳)

高齢者福祉、介護保険サービスに関すること(26件)

- ・高齢化社会への対応は、都心より郊外都市の方が力を入れるべき。マンションが林立するまちになり、高齢者の増加も続くなかで、介護システムを含めて安心して10年、20年後を住みよいと思える町にしたい。(男性、55~59歳)
- ・高齢者、障害者に対応する施設が全く足りていない。子育て支援も大切だが、今ある府中市は今いる高齢者の人たちが築いたものなので、その人たちが安心して生活できる高齢者向け施設、介護施設の充実を望む。(女性、45~49歳)

経済的支援、財政の安定などへの要望(20件)

- ・住民税などを低くして欲しい。また、大切な税金をぜひ無駄にして欲しくありません。(女性、55~59歳)
- ・福祉充実は大変素晴らしく聞こえがいいが、非常にお金がかかるのが現実問題としてある。資金の手当てをどうするか、行政側で考えて欲しい。(男性、40~44歳)

「ちゅうバス」に関すること(14件)

- ・ちゅうバスの本数を増やして欲しい。本数が少ないと人が集中し、ベビーカーや車いすの人が乗りにくい。(女性、35~39歳)
- ・ちゅうバスのルートを増やして欲しい。(男性、35~39歳)

駐輪場、自転車利用に関すること(12件)

- ・自転車置き場の充実が必要。数分置きたくても置けないのが現状です。すごく不便です。(男性、30~34歳)
- ・自転車に乗る人のマナーが全体的に悪い。自転車本位の利用が多く、事故やトラブルのもと。(男性、25~29歳)

心のバリアフリー、地域福祉に係わる啓発などに関すること(11件)

- ・子どもと一緒に参加できるボランティアや障害者との交流をする機会を増やして欲しい。子どもの教育になるし、専業主婦で暇な時間がありながら地域の役に立っていないと感じている。(女性、30~34歳)

- ・ 地域福祉を進めるなら先ず企業や職場などへの理解を促す啓発活動を先にやるべき。市民がいくら参加しようと考えても職場の理解が得られなければ事実上不可能だ。(男性、25～29歳)

ソーシャルインクルージョンに関すること(9件)

- ・ 精神障害のホームレスが多いのに驚くこの頃です。自立不可の人をどのように助けていけばよいのか考えてください。可能な限りボランティアで協力します。(男性、60～64歳)
- ・ 地域の交流やニートほか、自分の心がけ次第で変わる事(変わる事)もあるのではないかと思った。(女性、35～39歳)

住宅の整備への要望(6件)

- ・ 働いているうちは何とか暮らせていけても退職したら家賃のこともあり、公営住宅に優先的に入居させて欲しい。住宅のことでとても不安。(女性、50～54歳)

医療に関すること(5件)

- ・ 府中市は救急医療は良いが、かかりつけ医がなかなか探せず困っている。ちょっとした病気やケガで救急に行くわけにもいけないので。(女性、25～29歳)

本アンケート調査に関すること(15件)

- ・ アンケートの結果を是非生かしていただきたいと思う。(男性、25～29歳)
- ・ 障害者の方や車いすを利用の方の立場など、質問には分からないことが多い。(女性、60～64歳)

その他の要望、提案など(12件)

- ・ 朝日町付近にスーパーを建設していただきたい。(女性、25～29歳)
- ・ 2つの民間企業のラグビーチームがあるのだから、府中市をラグビーのまちにすべき。(男性、20～24歳)

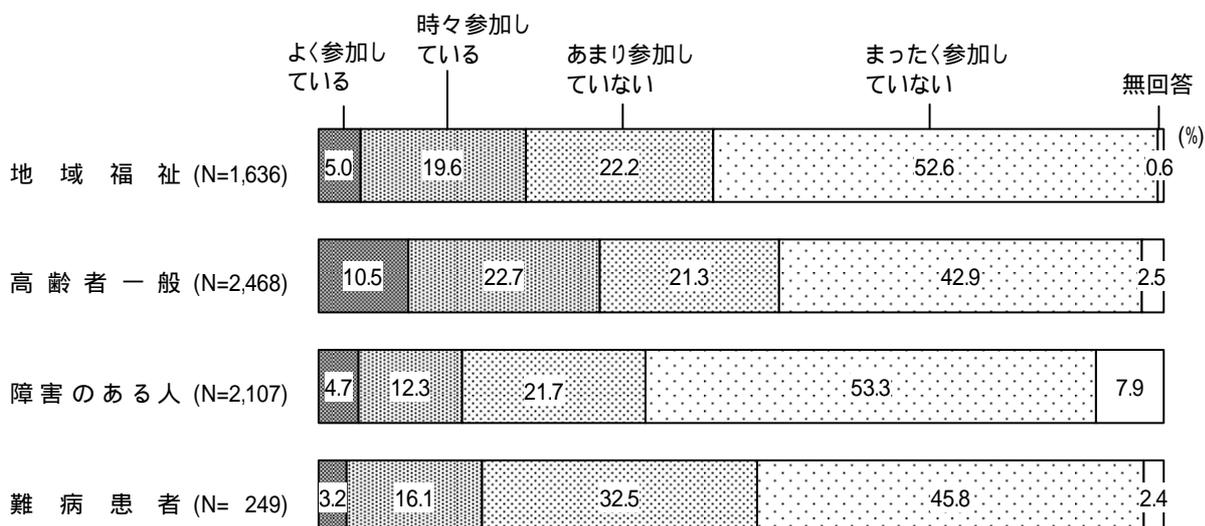
2 共通質問

(1) 地域活動への参加

地域活動への参加程度

地域活動への参加度は高齢者一般で高く、地域福祉、障害のある人、難病患者で低くなっている。障害のある人では無回答の割合も高くなっている（図表2-1-1-1）。

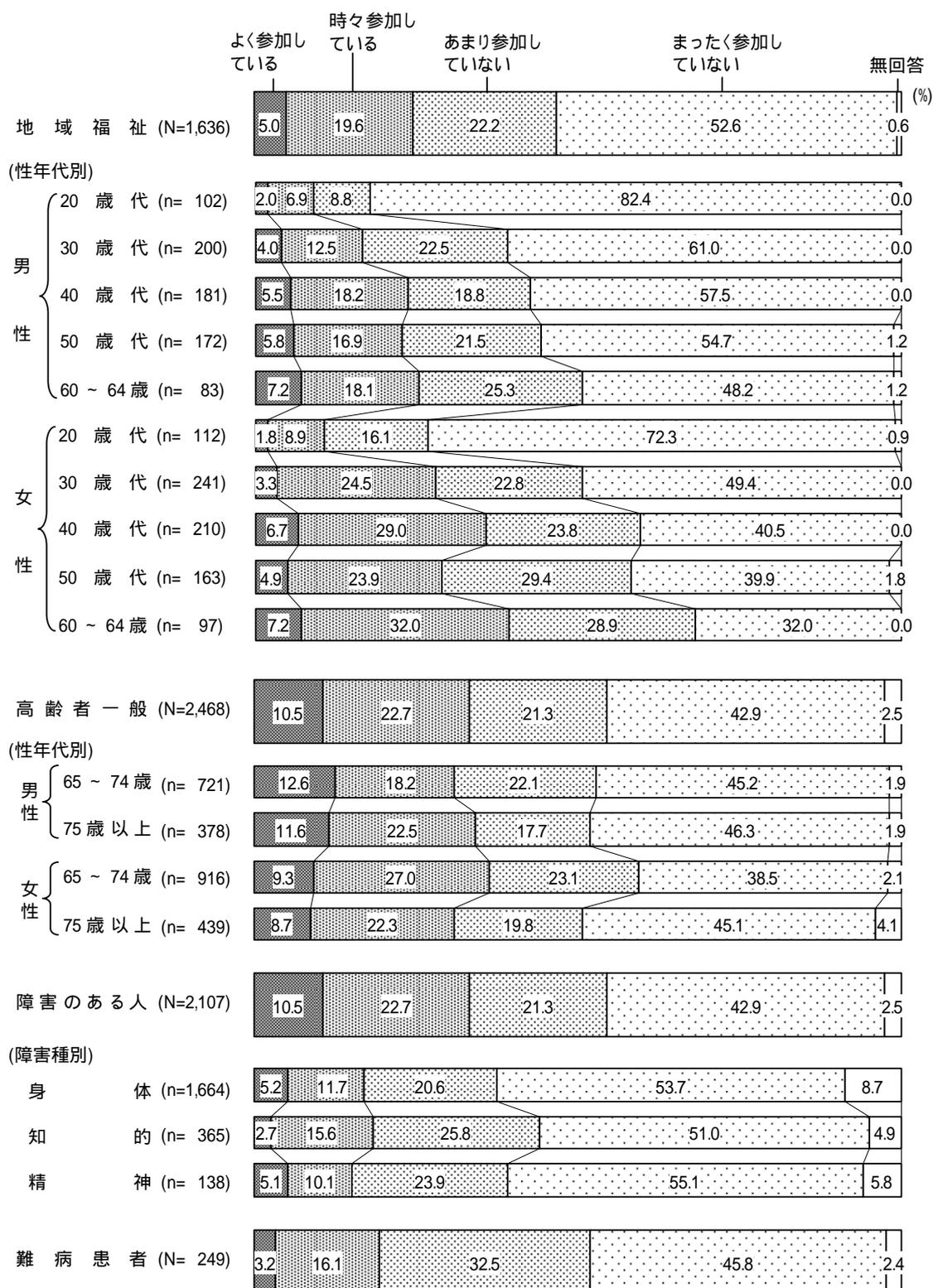
図表2-1-1-1 地域活動への参加程度



地域活動への参加度を属性別に見ると、「参加している」人の割合が高いのは、女性、高齢者などの属性であり、男性、若年層の参加度は低い。

障害のある人の中では、精神障害のある人の参加度が最も低くなっている（図表 2 - 1 - 1 - ）。

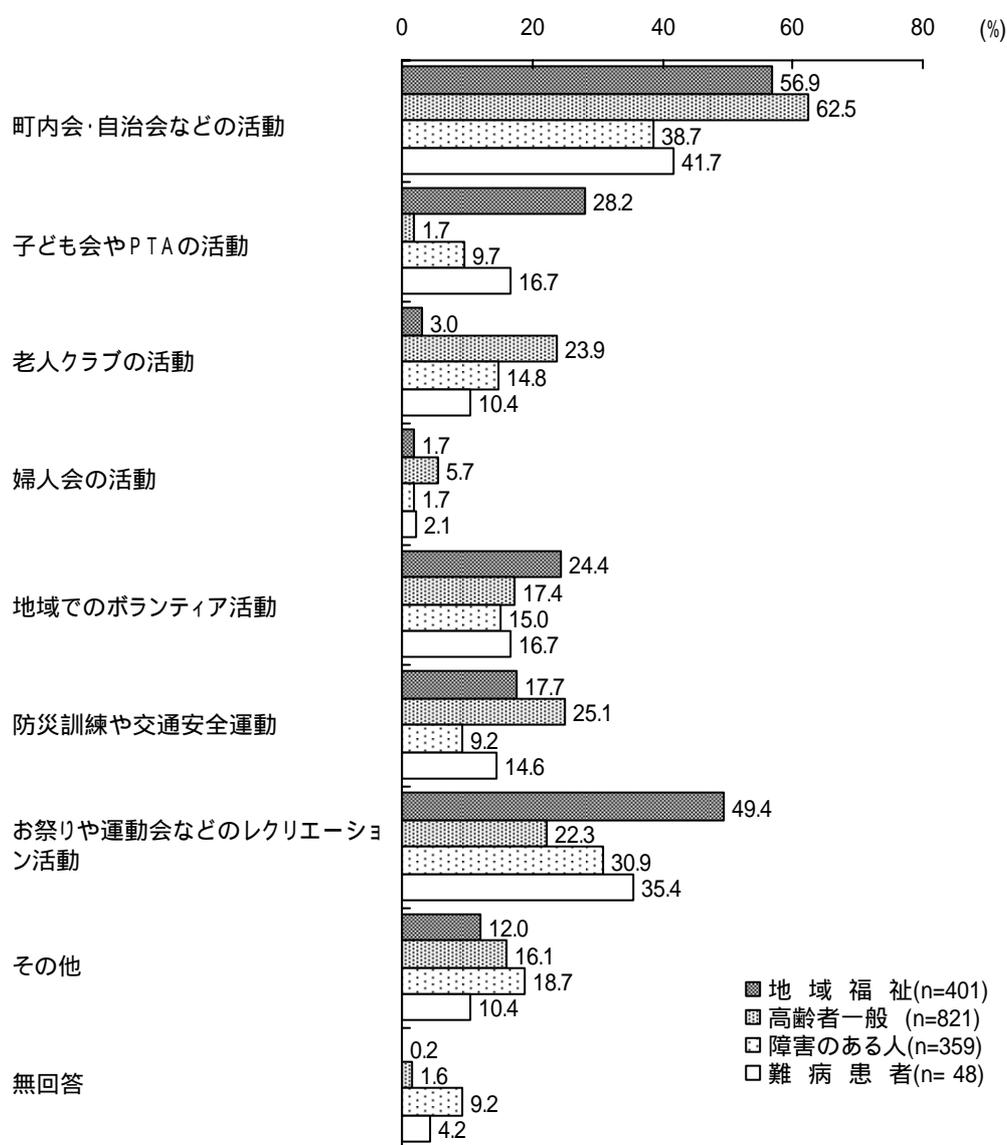
図表 2 - 1 - 1 - 地域活動への参加程度



参加している地域活動の種類

地域活動などに参加している人に対して、参加している活動の種類をたずねた。地域福祉では、他と比較して、「子ども会やPTAの活動」、「地域でのボランティア活動」、「レクリエーション活動」の割合が高くなっている。高齢者一般では「町内会・自治会などの活動」、「老人クラブの活動」、「防災訓練や交通安全運動」の割合が高くなっている。障害のある人では、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」の割合が高齢者一般に比べて高く、「その他」、「無回答」の割合も高くなっている（図表2-1-2- ）。

図表2-1-2- 参加している地域活動の種類（複数回答）



参加している地域活動の種類を属性別に比較すると、以下の点が指摘できる。

- 1) 「町内会・自治会などの活動」への参加は男性では 65～74 歳で最高となり、女性では 60～64 歳で最高となる。男女共若年層では低く、また知的障害、精神障害のある人で低くなっている。
- 2) 「子ども会やPTAの活動」への参加は女性 30 歳代、女性 40 歳代で最も高く、5 割を超えている。高齢者一般の参加はほとんど見られない。また、知的障害のある人の参加度が比較的高い。
- 3) 「老人クラブの活動」は 60 歳代前半までは 1 割に満たないが、60 歳代後半以降、特に 75 歳以上の参加率が急に高くなる。
- 4) 「婦人会の活動」への参加率が 1 割を超えるのは女性 65～74 歳のみである。
- 5) 「地域でのボランティア活動」への参加率は男性 60～64 歳で最も高く 5 割を超える。精神障害のある人の参加率も 23.8%と比較的高い。
- 6) 「防災訓練や交通安全運動」については、高齢者一般での参加率が高くなる傾向がある。
- 7) 「レクリエーション活動」については、男女共学齢期の子どもがいる 20 歳代、30 歳代で参加率が高い。また、知的障害のある人、精神障害のある人の参加率が比較的高い(図表 2 - 1 - 2 -)。

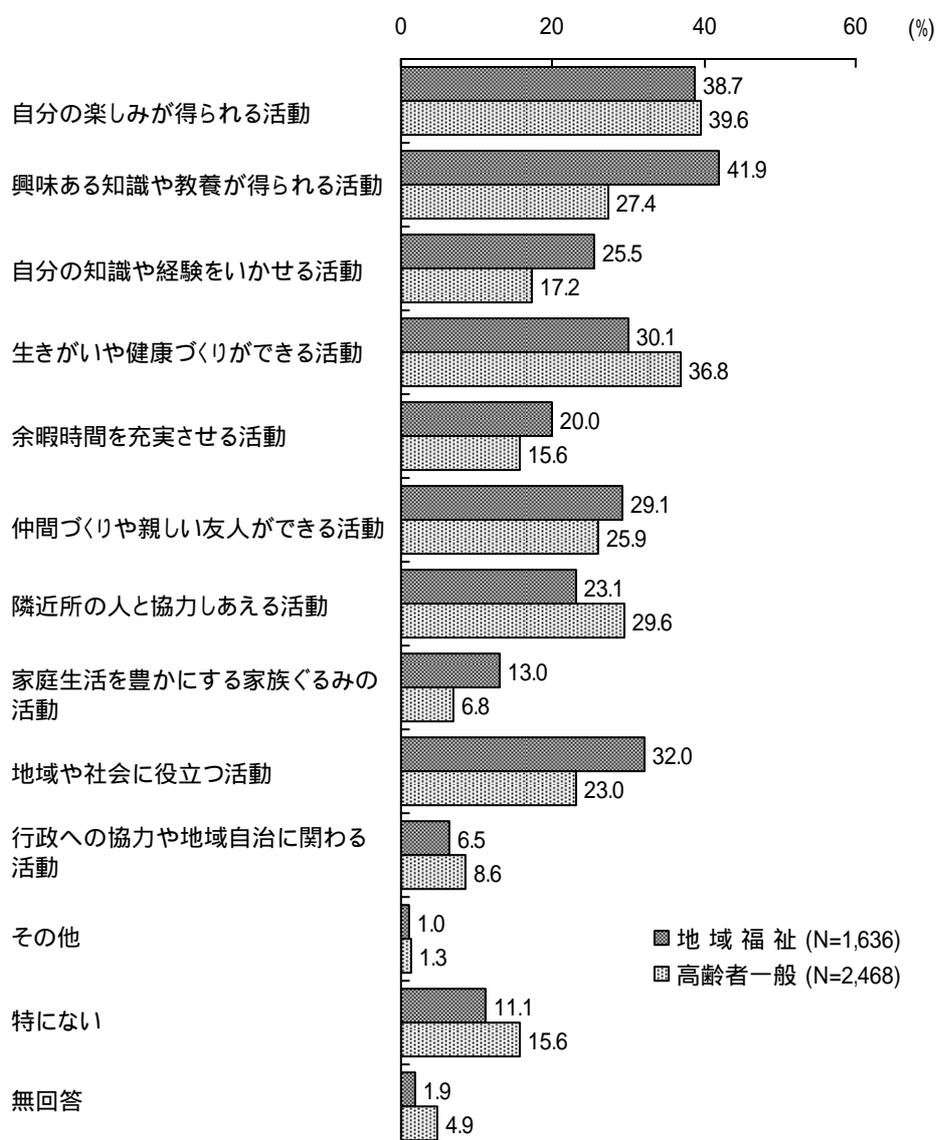
図表 2 - 1 - 2 - 参加している地域活動の種類 (複数回答)

		町内会・自治会などの活動	子ども会やPTAの活動	老人クラブの活動	婦人会の活動	地域でのボランティア	防災訓練や交通安全運動	お祭りや運動会などの活動	その他	無回答	
地域福祉 (n=401)		56.9	28.2	3.0	1.7	24.4	17.7	49.4	12.0	0.2	
性・年代別	男性	20 歳代 (n= 9)	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	11.1	66.7	33.3	0.0
		30 歳代 (n= 33)	39.4	9.1	0.0	0.0	36.4	27.3	57.6	12.1	0.0
		40 歳代 (n= 43)	62.8	34.9	0.0	0.0	16.3	23.3	53.5	11.6	0.0
		50 歳代 (n= 39)	61.5	7.7	5.1	2.6	30.8	17.9	41.0	15.4	0.0
		60 ~ 64 歳 (n= 21)	61.9	0.0	4.8	0.0	52.4	23.8	42.9	28.6	0.0
	女性	20 歳代 (n= 12)	50.0	8.3	8.3	0.0	8.3	16.7	83.3	16.7	0.0
		30 歳代 (n= 67)	38.8	53.7	0.0	0.0	11.9	11.9	68.7	6.0	0.0
		40 歳代 (n= 75)	56.0	68.0	0.0	2.7	10.7	14.7	48.0	5.3	0.0
	50 歳代 (n= 47)	70.2	4.3	6.4	4.3	31.9	8.5	34.0	14.9	0.0	
	60 ~ 64 歳 (n= 38)	71.1	0.0	5.3	2.6	31.6	23.7	23.7	18.4	2.6	
高齢者一般 (n=821)		62.5	1.7	23.9	5.7	17.4	25.1	22.3	16.1	1.6	
性・年代別	男性	65 ~ 74 歳 (n=222)	68.9	2.7	11.7	0.0	23.0	28.8	28.8	17.6	0.9
		75 歳以上 (n=129)	65.1	0.8	34.9	0.0	14.7	21.7	21.7	16.3	2.3
	女性	65 ~ 74 歳 (n=332)	59.6	1.8	20.8	12.3	17.5	24.1	22.0	15.4	1.8
		75 歳以上 (n=136)	56.6	0.7	40.4	4.4	10.3	24.3	12.5	15.4	1.5
障害のある人 (n=359)		38.7	9.7	14.8	1.7	15.0	9.2	30.9	18.7	9.2	
障害種別	身体 (n=271)	41.3	7.4	18.8	2.2	17.0	8.9	23.2	19.2	8.9	
	知的 (n= 67)	31.3	22.4	1.5	0.0	4.5	9.0	56.7	17.9	7.5	
	精神 (n= 21)	28.6	0.0	4.8	0.0	23.8	14.3	47.6	14.3	19.0	
難病患者 (n= 48)		41.7	16.7	10.4	2.1	16.7	14.6	35.4	10.4	4.2	

今後参加したい地域活動

今後参加したい地域活動については、「知識・教養が得られる活動」、「余暇時間を充実させる活動」、「仲間作りのできる活動」、「地域や社会に貢献できる活動」などで地域福祉の回答が高齢者一般の回答割合を上回っている。しかし、「自分の楽しみが得られる活動」、「行政への協力や地域自治に関わる活動」では高齢者一般の回答割合のほうが高くなっている（図表2-1-3- ）。

図表2-1-3- 今後参加したい地域活動（複数回答）



地域福祉調査、高齢者一般調査を通じて、性・年齢別の回答傾向から以下の点が指摘できる。

- 1) 「自分の楽しみが得られる活動」については、男女共 20 歳代が最高で、その他の年齢層で高いのは、男性・50 歳代、女性・60～64 歳、男性・65～74 歳、女性 65～74 歳である。男女共 75 歳以上では回答率が低くなる。
- 2) 「興味ある知識や教養が得られる活動」については、男女共 20 歳代が最高で、年齢の上昇とともに回答率が低くなる。
- 3) 「自分の知識や経験が活かせる活動」、「余暇時間を充実させる活動」は、男女共 60～64 歳の回答率が最高で、65 歳以上では回答率が低くなる。
- 4) 「仲間作りや親しい友人ができる活動」は 20 歳代、30 歳代など若い年齢の回答率が高いが、年齢層による極端な差は見られない。若い世代の回答率は、65 歳以上の高齢者一般の回答率を上回っている。
- 5) 「隣近所の人と協力し合える活動」については、年齢の上昇とともに回答率が上がる。男性では 65～74 歳がピーク、女性では 60～64 歳が回答のピークである。
- 6) 「地域や社会に役立つ活動」は男女共 50 歳代が回答のピークである。
- 7) 「行政への協力や地域自治に関わる活動」への参加希望が 1 割を超えるのは、男性の 50 歳代、65～74 歳、75 歳以上である（図表 2 - 1 - 3 - ）。

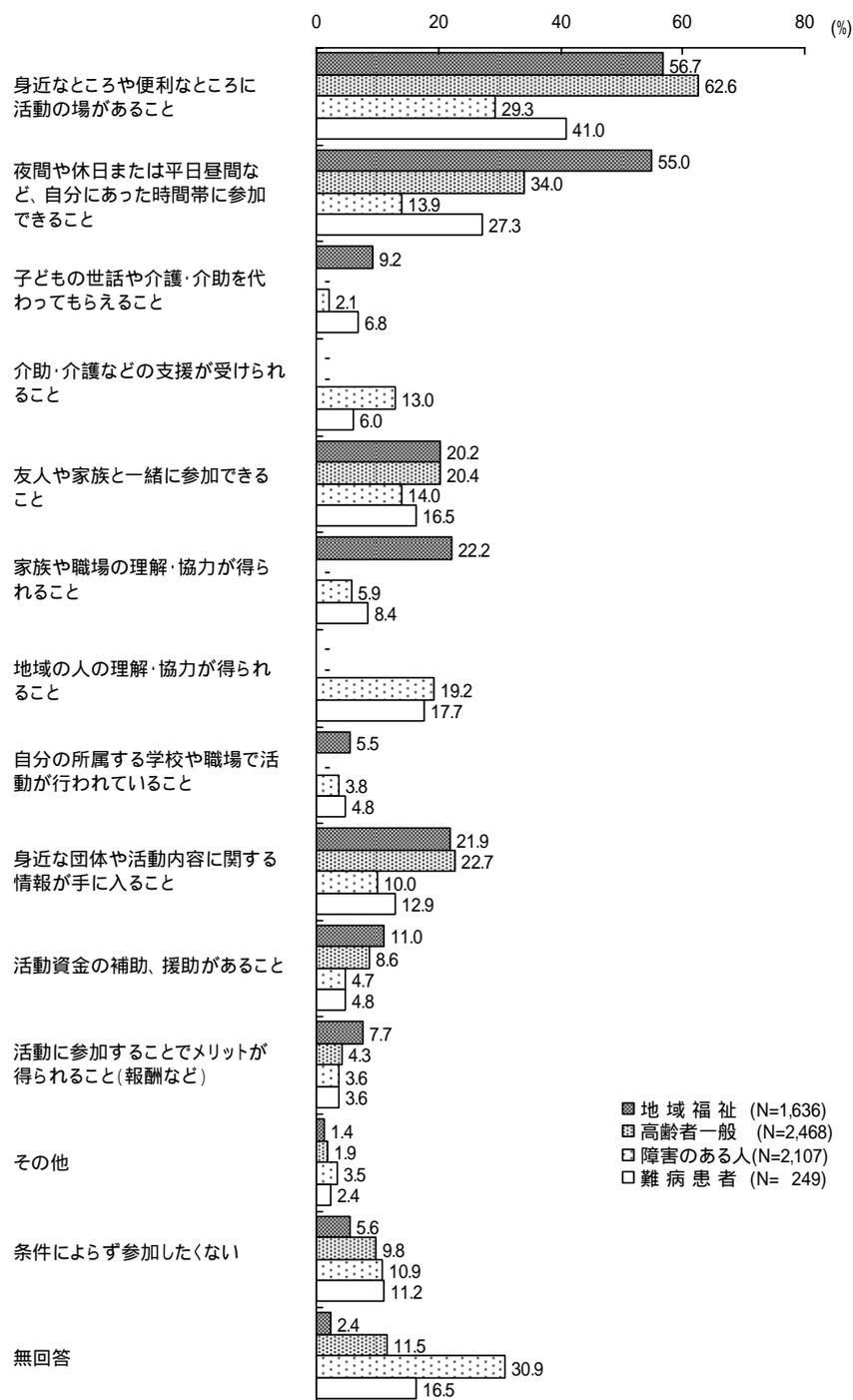
図表 2 - 1 - 3 - 今後参加したい地域活動（複数回答）

		自活動の楽しみが得られる	興味ある知識や教養が得られる	自せる知識や経験をいか	できる活動や健康づくりが	余暇時間を充実させる活	仲間づくり活動や親しい友人	隣近所の人と協力しあえ	家族生活の豊かにする家	地域や社会に役立つ活動	行政への協力や地域自治	その他	特にな	無回答	
地域福祉 (N=1,636)		38.7	41.9	25.5	30.1	20.0	29.1	23.1	13.0	32.0	6.5	1.0	11.1	1.9	
性年代別	男性	20 歳代 (n= 102)	47.1	47.1	24.5	16.7	17.6	34.3	15.7	9.8	29.4	7.8	1.0	9.8	0.0
		30 歳代 (n= 200)	34.0	37.0	18.0	19.5	19.0	28.5	19.0	21.0	28.0	7.0	1.5	15.0	2.0
		40 歳代 (n= 181)	36.5	39.2	29.8	23.2	23.2	22.1	21.5	13.3	28.7	7.7	1.1	13.8	1.7
		50 歳代 (n= 172)	43.0	30.2	27.3	33.1	24.4	22.7	28.5	8.1	40.7	11.0	0.0	13.4	1.7
	60～64 歳 (n= 83)	38.6	25.3	32.5	43.4	26.5	32.5	30.1	3.6	37.3	8.4	0.0	12.0	2.4	
	女性	20 歳代 (n= 112)	49.1	60.7	25.0	22.3	25.9	38.4	16.1	16.1	27.7	6.3	1.8	9.8	0.9
		30 歳代 (n= 241)	36.9	47.3	23.7	21.6	17.0	39.0	21.2	22.4	27.0	2.9	2.1	9.1	1.7
		40 歳代 (n= 210)	40.0	50.0	26.7	38.1	16.7	25.2	22.9	12.4	35.2	7.6	0.5	8.1	1.4
50 歳代 (n= 163)		33.1	46.0	20.9	44.8	19.0	30.1	23.3	3.1	38.7	3.1	0.6	6.7	2.5	
60～64 歳 (n= 97)	43.3	36.1	36.1	45.4	21.6	21.6	37.1	8.2	30.9	8.2	1.0	7.2	0.0		
高齢者一般 (N=2,468)		39.6	27.4	17.2	36.8	15.6	25.9	29.6	6.8	23.0	8.6	1.3	15.6	4.9	
年代別	65～74 歳 (n=1,640)	42.9	29.4	20.1	41.0	18.6	27.7	31.2	7.1	25.7	9.2	1.1	12.6	3.2	
	75 歳以上 (n= 822)	33.2	23.7	11.3	28.7	9.7	22.3	26.6	6.2	17.6	7.3	1.6	21.5	8.0	
性年代別	男性	65～74 歳 (n= 721)	41.2	25.0	24.4	37.0	21.6	26.1	30.7	8.3	30.9	13.3	1.0	14.7	1.8
		75 歳以上 (n= 378)	32.8	25.9	16.4	30.7	12.4	22.2	28.0	8.2	24.3	11.1	2.1	19.3	5.8
	女性	65～74 歳 (n= 916)	44.3	32.9	16.8	44.2	16.3	29.1	31.7	6.1	21.6	6.0	1.2	10.9	4.1
		75 歳以上 (n= 439)	33.7	22.1	6.8	27.1	7.1	22.6	25.5	4.6	11.8	4.1	1.1	23.7	9.6

地域活動を行う上で必要な環境・条件

地域活動を行う上で必要な環境・条件については、地域福祉では、「夜間や休日または平日昼間など、自分にあつた時間帯に参加できること」、「家族や職場の理解・協力が得られること」が高くなっている。高齢者一般の回答割合が地域福祉を上回っているのは、「身近なところや便利なところに活動の場があること」である。障害のある人の回答はどの項目でも低く、「無回答」も30.9%である（図表2-1-4- ）。

図表2-1-4- 地域活動を行う上で必要な環境・条件（全体：複数回答）



性・年齢別、障害の種類別などで最も回答率の高かった属性と低かった属性は次のとおりである。

	最も回答率の高かった属性	最も回答率の低かった属性
身近なところや便利なところに活動場があること	女性 60～64 歳	身体障害
夜間や休日または平日昼間など自分にあった時間帯に参加できること	女性 40 歳代	知的障害
子どもの世話や介護・介助を代わってもらえること	女性 30 歳代	身体障害
介助・介護などの支援が受けられること	知的障害	精神障害
友人や家族と一緒に参加できること	男性 20 歳代	精神障害
家族や職場の理解・協力が得られること	男性 40 歳代	身体障害
地域の人々の理解・協力が得られること	知的障害	身体障害
自分の所属する学校や職場で活動が行われていること	知的障害	身体障害
身近な団体や活動内容に関する情報が手に入る事	女性 60～64 歳	身体障害
活動資金の補助、援助があること	男性 50 歳代	身体障害
活動に参加することでメリットが得られること(報酬など)	男性 20 歳代	女性 75 歳以上
条件によらず参加したくない	女性 75 歳以上	女性 30 歳代
無回答	身体障害	男性 20 歳代

図表 2 - 1 - 4 - 地域活動を行う上で必要な環境・条件（全体：複数回答）

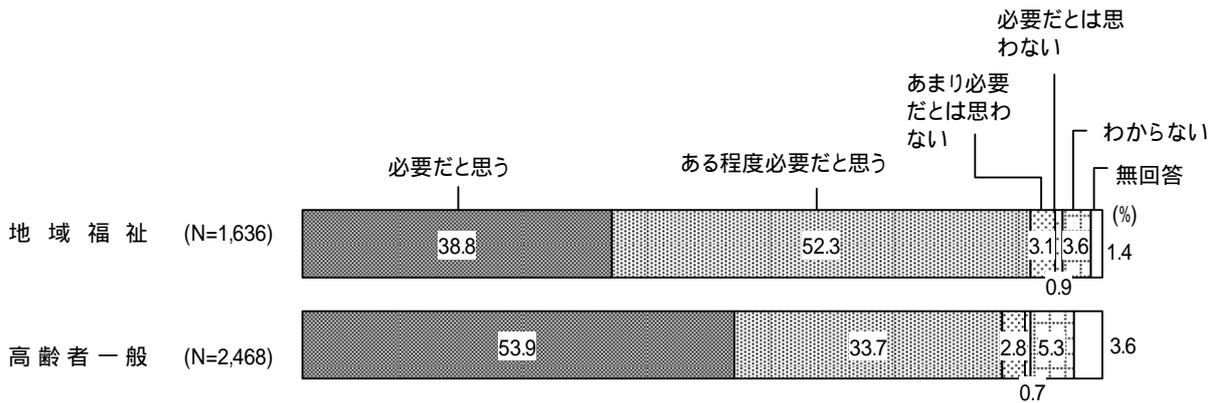
		身近なところや便利なところ	夜間や休日または平日昼間など自分にあった時間帯に参加できること	子どもの世話や介護・介助を代わってもらえること	介助・介護などの支援が受けられること	友人や家族と一緒に参加できること	家族や職場の理解・協力が得られること	地域の人々の理解・協力が得られること	自分の所属する学校や職場で活動が行われていること	身近な団体や活動内容に関する情報が手に入る事	活動資金の補助、援助があること	活動に参加することでメリットが得られること(報酬など)	その他	条件によらず参加したくない	無回答	
地域	福祉 (N=1,636)	56.7	55.0	9.2	-	20.2	22.2	-	5.5	21.9	11.0	7.7	1.4	5.6	2.4	
性年代別	男性	20 歳代 (n= 102)	55.9	49.0	9.8	-	32.4	22.5	-	7.8	17.6	15.7	14.7	1.0	5.9	0.0
		30 歳代 (n= 200)	50.5	59.5	7.5	-	24.5	29.5	-	7.0	16.0	7.0	11.0	1.0	7.0	0.5
		40 歳代 (n= 181)	51.9	59.7	5.5	-	14.4	30.4	-	2.8	23.8	12.7	5.5	1.1	7.2	1.1
		50 歳代 (n= 172)	50.6	51.7	2.9	-	14.0	18.0	-	3.5	29.1	18.0	5.8	1.2	8.1	2.9
	60～64 歳 (n= 83)	66.3	48.2	0.0	-	20.5	8.4	-	4.8	27.7	9.6	7.2	2.4	9.6	3.6	
	女性	20 歳代 (n= 112)	51.8	51.8	11.6	-	21.4	22.3	-	7.1	24.1	14.3	12.5	2.7	5.4	1.8
		30 歳代 (n= 241)	54.8	58.1	23.7	-	27.4	21.6	-	7.9	14.9	7.5	9.5	1.2	2.5	1.7
		40 歳代 (n= 210)	60.5	62.4	10.0	-	16.2	26.2	-	7.1	21.4	9.5	4.8	1.0	2.9	1.9
50 歳代 (n= 163)		66.9	51.5	6.7	-	14.7	16.6	-	3.1	25.8	13.5	4.9	1.2	3.1	4.3	
60～64 歳 (n= 97)	72.2	53.6	2.1	-	21.6	20.6	-	3.1	35.1	6.2	5.2	1.0	3.1	1.0		
高齢者一般	(N=2,468)	62.6	34.0	-	-	20.4	-	-	-	22.7	8.6	4.3	1.9	9.8	11.5	
性年代別	男性	65～74 歳 (n= 721)	63.9	41.3	-	-	20.7	-	-	-	28.4	11.1	8.0	2.1	8.5	5.5
		75 歳以上 (n= 378)	54.8	26.7	-	-	19.0	-	-	-	18.8	7.4	4.8	2.4	15.6	12.4
	女性	65～74 歳 (n= 916)	69.5	39.0	-	-	22.6	-	-	-	23.9	8.6	2.8	2.1	5.6	9.6
		75 歳以上 (n= 439)	53.3	18.0	-	-	16.9	-	-	-	14.6	5.9	1.1	0.9	15.7	23.2
障害のある人	(N=2,107)	29.3	13.9	2.1	13.0	14.0	5.9	19.2	3.8	10.0	4.7	3.6	3.5	10.9	30.9	
障害	身体 (n=1,604)	27.1	13.6	1.6	10.9	12.0	4.7	15.1	2.2	9.5	3.7	3.1	4.0	11.9	34.5	
知	知的 (n= 365)	34.0	11.8	3.8	25.5	22.7	8.2	35.1	11.5	10.7	5.2	1.9	0.3	5.8	21.9	
精	精神 (n= 138)	42.8	23.2	2.9	3.6	14.5	13.0	24.6	2.9	13.8	15.9	13.8	5.8	13.0	12.3	
難病	患者 (N= 249)	41.0	27.3	6.8	6.0	16.5	8.4	17.7	4.8	12.9	4.8	3.6	2.4	11.2	16.5	

(2) 地域住民の協力関係、近所づきあい

地域住民の協力関係の必要性

地域住民相互の協力関係の必要性については、地域福祉よりも高齢者一般のほうがより強く感じている（図表2-2-1- ）。

図表2-2-1- 地域住民の協力関係の必要性



「必要だと思う」とする人の割合は、男性では65歳以上が高く5割を超えている。また、男性20歳代でも46.1%と比較的高い。

この割合は、女性でも65歳以上が高く5割を超えている（図表2-2-1- ）。

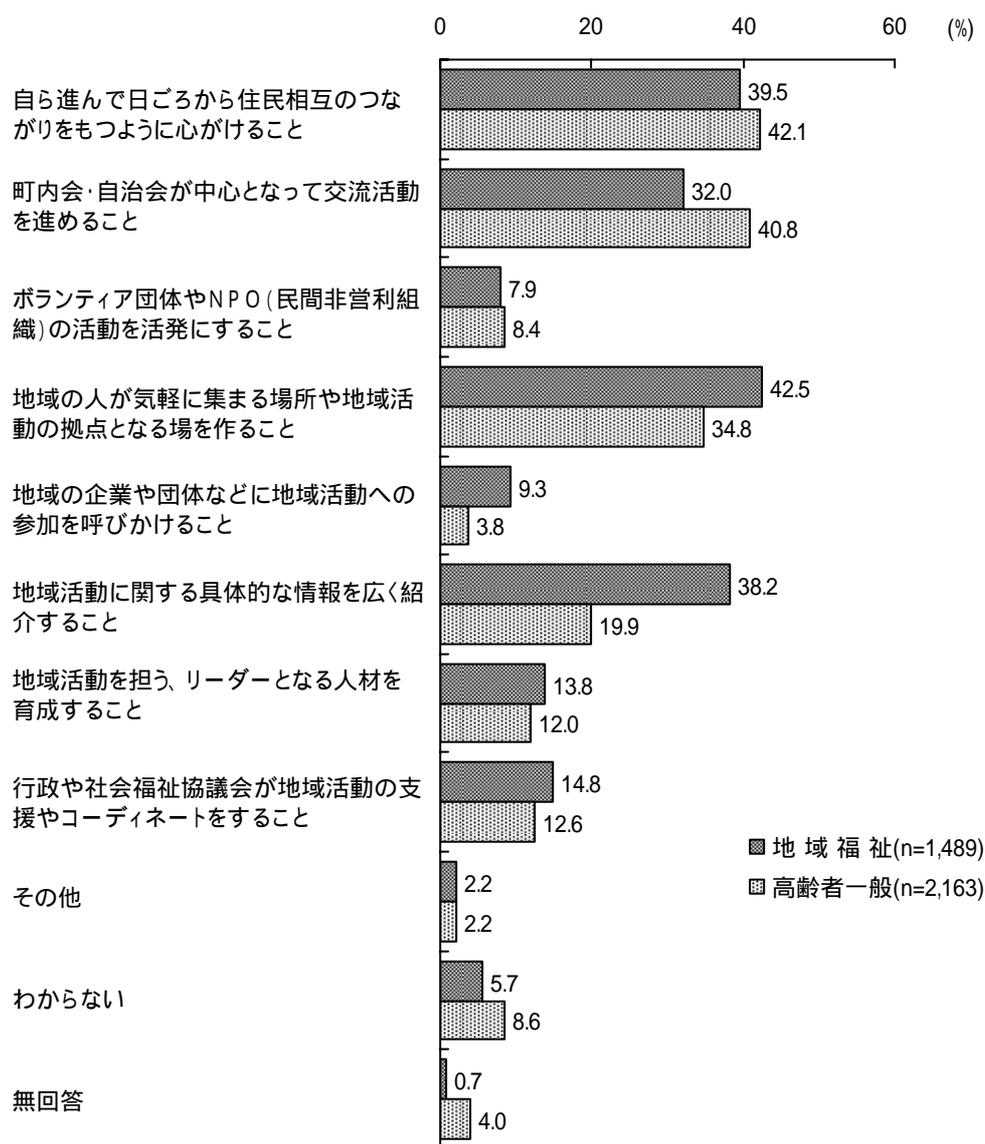
図表2-2-1- 地域住民の協力関係の必要性

		必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要だとは思わない	必要だとは思わない	わからない	無回答	
地域福祉 (N=1,636)		38.8	52.3	3.1	0.9	3.6	1.4	
性年代別	男性	20歳代 (n= 102)	46.1	47.1	3.9	0.0	2.9	0.0
		30歳代 (n= 200)	35.5	58.5	2.5	1.0	2.0	0.5
		40歳代 (n= 181)	34.3	54.1	5.0	1.7	4.4	0.6
		50歳代 (n= 172)	44.2	45.9	3.5	2.3	2.3	1.7
		60～64歳 (n= 83)	37.3	47.0	3.6	2.4	6.0	3.6
	女性	20歳代 (n= 112)	33.9	57.1	2.7	0.0	4.5	1.8
		30歳代 (n= 241)	37.3	56.0	1.7	0.4	3.7	0.8
		40歳代 (n= 210)	39.5	52.4	3.3	0.5	3.8	0.5
		50歳代 (n= 163)	38.7	52.1	3.1	0.0	3.1	3.1
		60～64歳 (n= 97)	38.1	52.6	4.1	1.0	4.1	0.0
高齢者一般 (N=2,468)		53.9	33.7	2.8	0.7	5.3	3.6	
性年代別	男性	65～74歳 (n= 721)	58.5	31.9	2.9	0.8	3.5	2.4
		75歳以上 (n= 378)	59.3	29.6	3.2	1.3	4.5	2.1
	女性	65～74歳 (n= 916)	50.0	38.0	2.5	0.1	6.0	3.4
		75歳以上 (n= 439)	50.6	31.4	2.7	0.9	7.7	6.6

地域住民の協力関係を築くために必要なこと

住民の協力関係を築くために必要なこととして、地域福祉の回答が高齢者一般を大きく上回っているのは、地域活動の場作り、地域活動の情報紹介である。これとは逆に、町内会・自治会中心の交流活動、日ごろからのつながりの重要性については高齢者一般の回答割合が地域福祉を上回っている（図表 2 - 2 - 2 - ）。

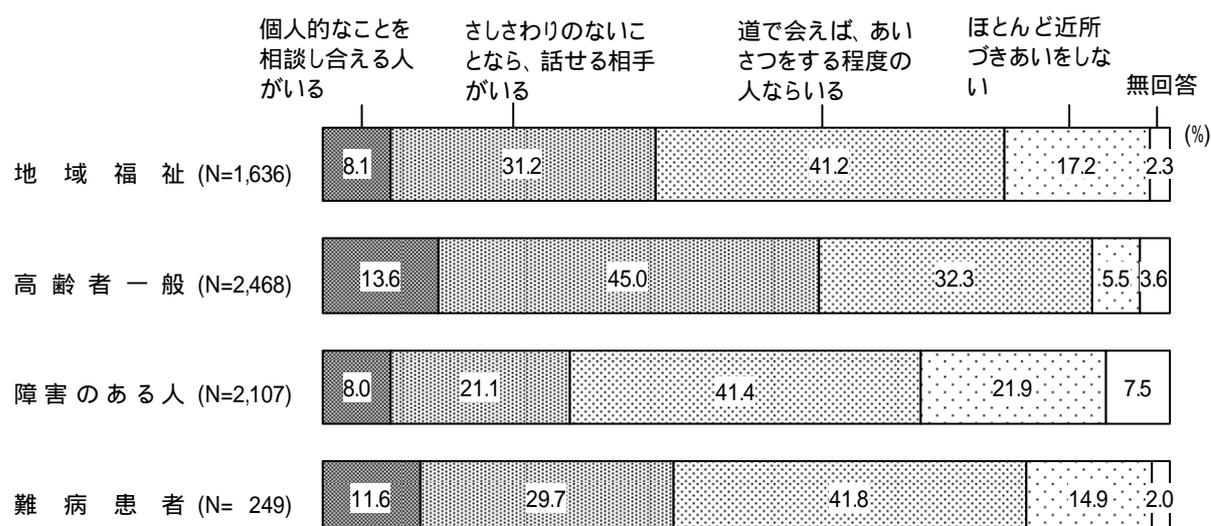
図表 2 - 2 - 2 - 地域住民の協力関係を築くために必要なこと（複数回答）



近所づきあいの程度

近所づきあいの程度は、高齢者一般がもっとも深く、これについて、地域福祉、障害のある人の順となっている。障害のある人では、ほとんど近所づきあいをしない人と無回答を合わせると、3割近くになる（図表2-2-3- ）。

図表2-2-3- 近所づきあいの程度

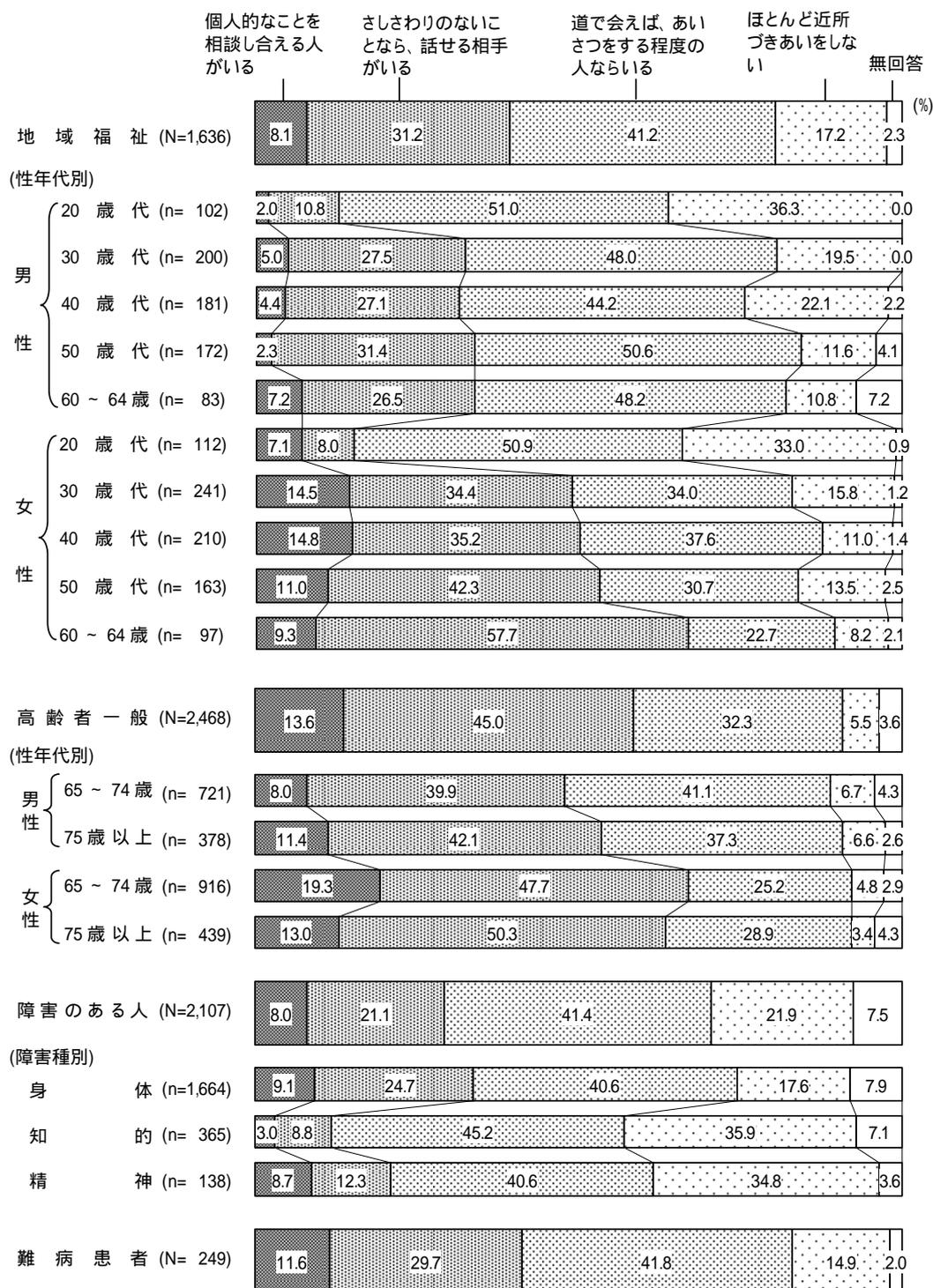


「個人的なことを相談し合える人がいる」とする人の割合が高いのは、女性 65～74 歳、女性 40 歳代、女性 30 歳代、女性 50 歳代、男性 75 歳以上などである。

この割合は、身体障害のある人、精神障害のある人でも比較的高く、地域福祉調査の平均回答率を超えている。

これとは逆に「ほとんど近所づきあいをしない」人の割合は、男女 20 歳代、知的障害のある人、精神障害のある人で高く、3 割を超えている（図表 2 - 2 - 3 - ）。

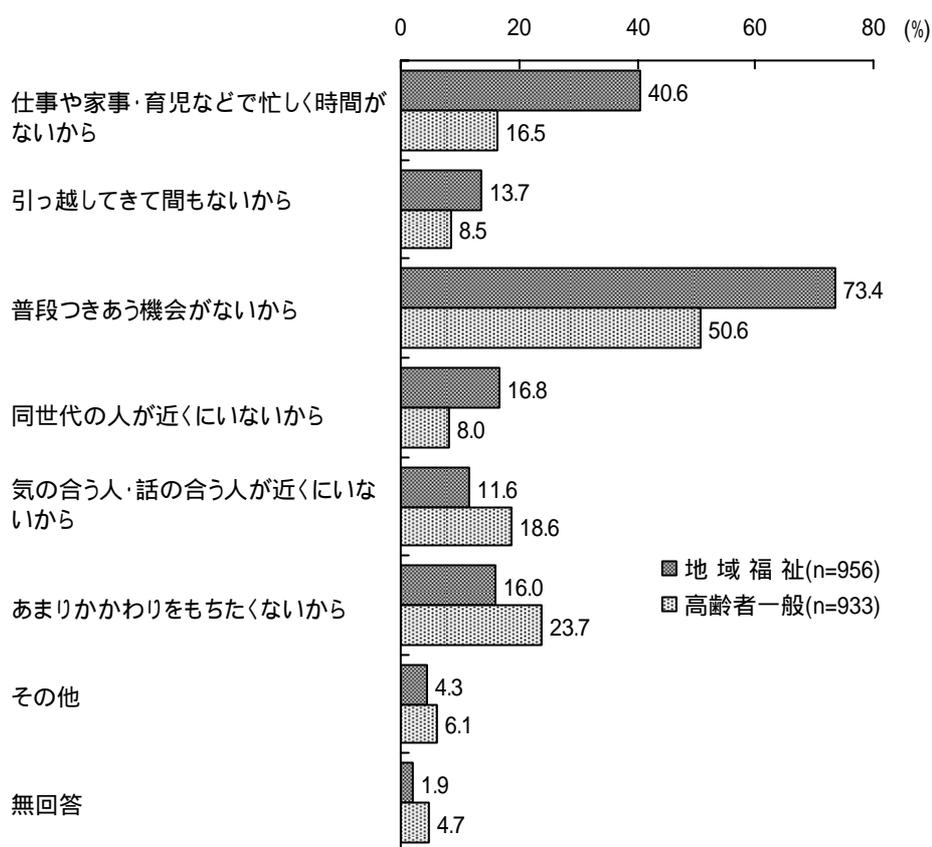
図表 2 - 2 - 3 - 近所づきあいの程度



近所づきあいのない理由

近所づきあいをしない主な理由で、地域福祉が高齢者一般を大きく上回ったのは、忙しくて時間がない、普段つきあう機会がない、同世代の人が近くにいないなどである。これとは逆に、高齢者一般の回答割合が地域福祉を上回ったのは、気の合う人が近くにいない、あまりかかわりを持ちたくないなどである（図表2 - 2 - 4 - ）。

図表2 - 2 - 4 - 近所づきあいのない理由（複数回答）



性・年齢別に最も回答率の高かった属性と低かった属性は次のとおりである。

回答率最高の属性、最低の属性のポイント差は大きく、ライフステージに応じた施策の必要性を示唆している。

	最も回答率の高かった属性	最も回答率の低かった属性
仕事や家事・育児などで忙しく時間がないから	女性 60～64 歳	女性 75 歳以上
引っ越してきて間もないから	女性 50 歳代	女性 75 歳以上
普段つきあう機会がないから	男性 60～64 歳	女性 65～74 歳
同世代の人が近くにいないから	女性 20 歳代	男性 60～64 歳
気の合う人・話の合う人が近くにいないから	男性 75 歳以上	女性 30 歳代
あまりかかわりをもたないから	女性 65～74 歳	女性 20 歳代

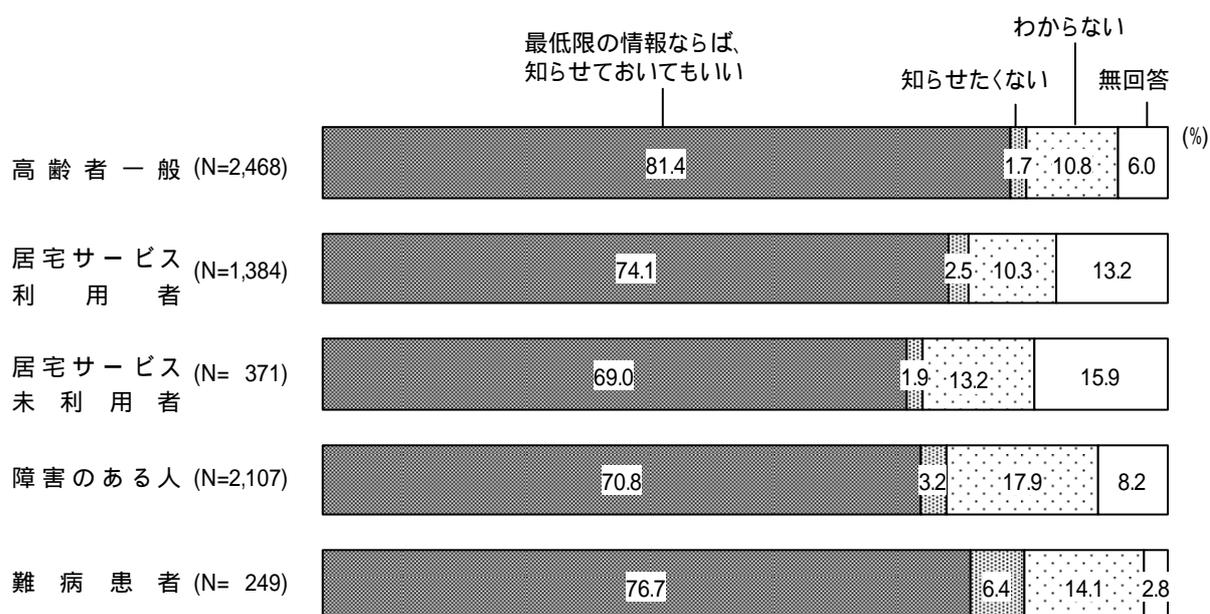
図表 2 - 2 - 4 - 近所づきあいのない理由（複数回答）

				仕事や家事・育児などで忙しく時間がないから	引っ越してきて間もないから	普段つきあう機会がないから	同世代の人が近くにいないから	気の合う人・話の合う人が近くにいないから	あまりかかわりをもたないから	その他	無回答
地域福祉 (n=956)				40.6	13.7	73.4	16.8	11.6	16.0	4.3	1.9
性年代別	男性	20 歳代 (n= 89)		33.7	14.6	78.7	22.5	10.1	11.2	7.9	2.2
		30 歳代 (n=135)		45.2	15.6	68.9	15.6	5.9	14.1	0.7	2.2
		40 歳代 (n=120)		43.3	9.2	77.5	14.2	12.5	15.8	0.8	2.5
		50 歳代 (n=107)		43.9	8.4	72.9	8.4	15.9	18.7	1.9	0.0
		60～64 歳 (n= 49)		20.4	8.2	79.6	4.1	22.4	20.4	6.1	2.0
	女性	20 歳代 (n= 94)		35.1	17.0	72.3	36.2	9.6	9.6	8.5	3.2
		30 歳代 (n=120)		42.5	14.2	75.0	17.5	8.3	10.8	3.3	1.7
		40 歳代 (n=102)		51.0	16.7	75.5	16.7	11.8	18.6	3.9	0.0
		50 歳代 (n= 72)		29.2	19.4	65.3	15.3	15.3	27.8	6.9	2.8
		60～64 歳 (n= 30)		53.3	13.3	66.7	16.7	13.3	23.3	10.0	0.0
高齢者一般 (n=933)				16.5	8.5	50.6	8.0	18.6	23.7	6.1	4.7
性年代別	男性	65～74 歳 (n=344)		20.6	6.1	59.6	5.8	17.4	19.5	4.7	2.9
		75 歳以上 (n=166)		8.4	4.2	53.0	10.8	27.1	23.5	3.6	6.6
	女性	65～74 歳 (n=275)		21.8	15.6	42.2	6.5	16.7	28.7	6.2	3.6
		75 歳以上 (n=142)		6.3	5.6	43.7	12.7	14.8	24.6	12.0	8.5

(3) 災害時のための個人情報提供への考え方

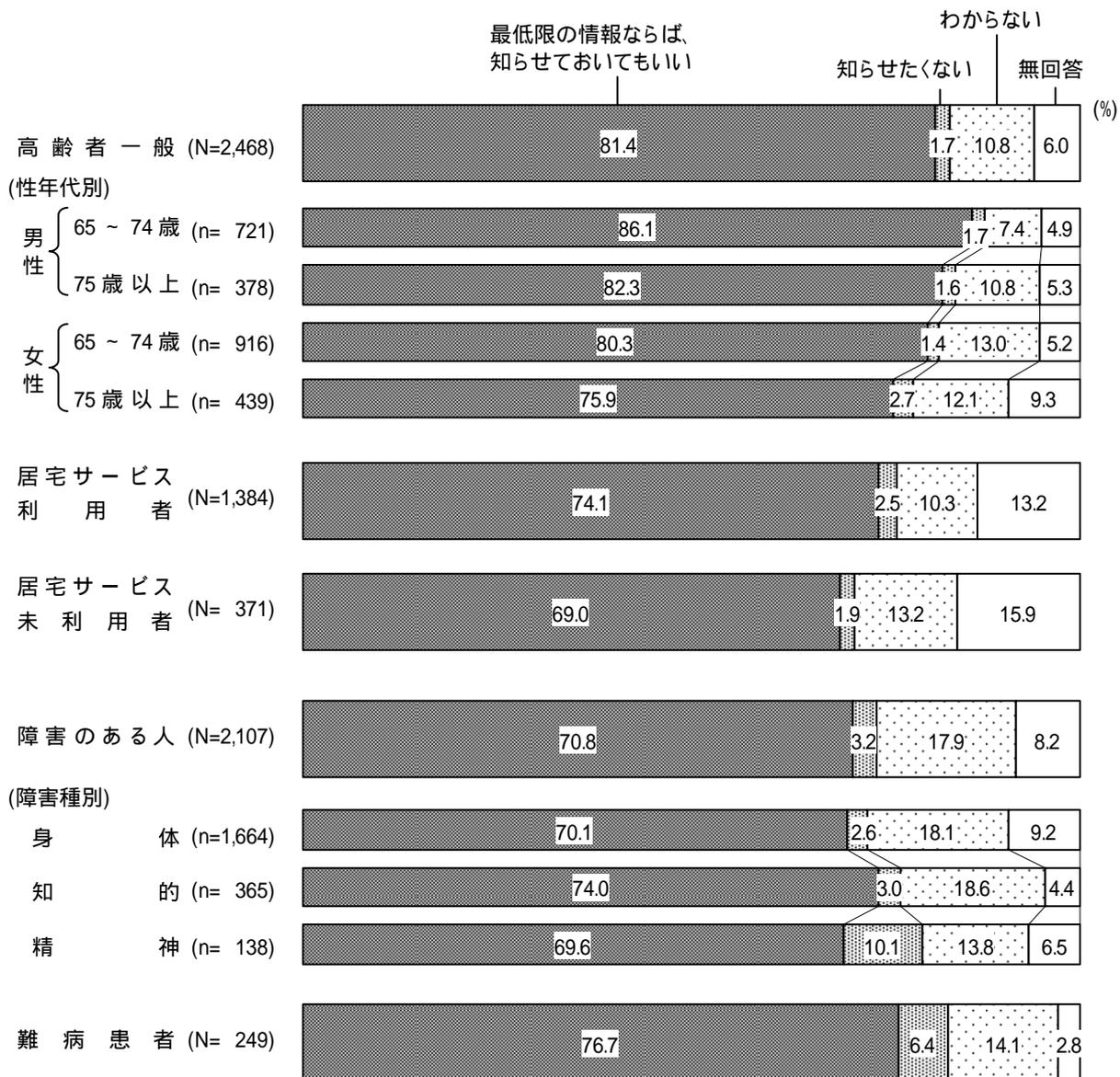
防災のための個人情報提供については、高齢者一般、居宅サービス利用者、未利用者、障害のある人のいずれも肯定的な回答が多くなっている。知らせてもよいとする回答は高齢者一般で最も高く、居宅サービス未利用者で最も低くなっている。障害のある人では「わからない」とする回答も17.9%と高くなっている（図表2-3-1- ）。

図表2-3-1- 災害時のための個人情報提供への考え方



障害のある人のうち、「知らせたくない」とする人の割合は、精神障害のある人で最も高く1割を超えている。情報告知の目的を丁寧に説明し、理解を求めていくことが必要と考えられる（図表2-3-1- ）。

図表2-3-1- 災害時のための個人情報提供への考え方



資料編 調査票及び調査結果

府中市福祉計画（地域福祉）調査

調査についてお願い

市民の皆さまには日ごろから市政発展のため、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

府中市では、皆さまのご意見やご要望を幅広くお聴きし、平成 20 年度に策定を予定しております「府中市福祉計画」の基礎資料として、福祉全般の調査を実施します。

この調査は、府中市にお住まいの 20 歳以上の方 3,000 名を無作為に選ばせていただき、ご意見やご要望をおうかがいするものです。

ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

平成 19 年 10 月 府中市

記入についてのお願い

1. **封筒のあて名ご本人**について、ご記入をお願いいたします。調査票の設問中の「あなた」とは、封筒のあて名の方を指します。回答はできる限り、あて名ご本人が記入してください。なお、あて名ご本人おひとりでの回答がむずかしい場合は、ご家族や周りの方がお手伝いいただくか、あて名ご本人の意見を聞いたうえで代わりに記入してください。
2. 濃い鉛筆又は黒のボールペンで記入してください。
3. お答えをいただく際は、あてはまる項目の番号を 印で囲んでください。
 の場合は回答内容等を記入してください。
4. の数は、それぞれの質問の指示に従ってください。
5. 「その他」に 印をつけられた方は、()内に具体的な答えを記入してください。

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です。）に入れ、

10月24日（水）までにご返送ください。

調査についてご質問などがありましたら、次までお問い合わせください。

問合せ先

府中市福祉保健部地域福祉推進課福祉計画担当 山崎、堀

TEL 042 - 335 - 4182

はじめに、あなたご自身のことをおたずねします

F 1 あなたの性別は次のうちどれですか。(1つに)

(N=1,636)

1 . 男性	45.7%	2 . 女性	51.1%	無回答	3.2%
--------	-------	--------	-------	-----	------

F 2 あなたの年齢は次のうちどれですか。(1つに)

*平成19年9月30日現在の年齢でお答えください。

(N=1,636)

1 . 20～24歳	5.1%	6 . 45～49歳	10.0%	11 . 70～74歳	0.1%
2 . 25～29歳	8.1%	7 . 50～54歳	9.4%	12 . 75～79歳	0.2%
3 . 30～34歳	11.7%	8 . 55～59歳	11.5%	13 . 80～84歳	0.3%
4 . 35～39歳	15.5%	9 . 60～64歳	11.2%	14 . 85～89歳	0.1%
5 . 40～44歳	14.3%	10 . 65～69歳	0.2%	15 . 90歳以上	0.2%
				無回答	2.0%

F 3 あなたのご職業は次のうちどれですか。(1つに)

(N=1,636)

1 . 自営業・自由業	7.9%	5 . パート・内職などの仕事	14.5%
2 . 企業の社員・役員(従業員50人未満)	11.2%	6 . 専業主婦(夫)	16.4%
3 . 企業の社員・役員(従業員50人以上)	27.6%	7 . 無職	5.5%
4 . 公務員	5.4%	8 . その他〔具体的に： 〕	9.2%
		無回答	2.3%

F 4 世帯についておたずねします。

あなたと同居*している方はどなたですか。(いくつでも)

*2世帯住宅は同居としてお答えください。

*配偶者の親族を含めてお答えください。

(N=1,636)

1 . ひとり暮らし(自分のみ)	11.4%	5 . 祖父、祖母	2.1%
2 . 配偶者(夫または妻)	65.3%	6 . 兄弟・姉妹	7.8%
3 . 息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)	49.1%	7 . その他〔具体的に： 〕	4.0%
4 . 父、母	21.3%	無回答	1.9%

F 4-1 F 4で「2 . 配偶者(夫または妻)」～「7 . その他」と答えた方におたずねします。世帯の人数はあなたを含めて何人ですか。(1つに)

(n=1,418)

1 . 2人	24.1%	4 . 5人	8.8%
2 . 3人	25.1%	5 . 6人以上	6.0%
3 . 4人	26.5%	無回答	9.4%

F 5 現在、あなた自身、もしくは同居や市内にお住まいの家族の中に、次のような方はいますか。(いくつでも)

(N=1,636)

1. 乳児(1歳未満)	4.3%	5. 65歳以上の方	24.7%
2. 乳児を除く小学校入学前の幼児	18.9%	6. 身体・知的・精神などの障害のある方	7.2%
3. 小学生	17.4%	7. 介護・介助を必要とする方	6.5%
4. 中学生・高校生	13.1%	8. いずれもない	37.5%
		無回答	3.9%

F 6 あなたはどちらにお住まいですか。 内に記入してください。

町 丁目

(N=1,636)

第一地区	20.5%	第三地区	16.0%	第五地区	11.4%	無回答	2.2%
第二地区	19.8%	第四地区	11.6%	第六地区	18.5%		

第一地区：多磨町、朝日町、紅葉丘、白糸台(1～3丁目)、若松町、浅間町、緑町
第二地区：白糸台(4～6丁目)、押立町、小柳町、八幡町、清水が丘、是政
第三地区：天神町、幸町、府中町、寿町、晴見町、栄町、新町
第四地区：宮町、日吉町、矢崎町、南町、本町、片町、宮西町)
第五地区：日綱町、武蔵台、北山町、西原町、美好町(1～2丁目)、本宿町(3～4丁目)、西府町(3～4丁目)、東芝町
第六地区：美好町(3丁目)、分梅町、住吉町、四谷、日新町、本宿町(1～2丁目)、西府町(1～2、5丁目)

F 7 あなたは府中市にお住まいになってから何年になりますか。(1つに)

(N=1,636)

1. 1年未満	4.8%	5. 10年以上20年未満	17.6%
2. 1年以上3年未満	10.9%	6. 20年以上30年未満	18.1%
3. 3年以上5年未満	8.1%	7. 30年以上	25.7%
4. 5年以上10年未満	13.9%	無回答	0.9%

F 8 あなたのお住まいについて、次の(ア)～(ウ)についておたずねします。

(ア) お住まいの所有は次のうちどれですか。(1つに)

(N=1,636)

1. 持ち家	61.2%
2. 民間賃貸住宅	27.0%
3. 公的賃貸住宅	7.0%
4. その他〔具体的に： <input type="text"/> 〕	4.0%
無回答	0.7%

(イ) お住まいの形態は次のうちどれですか。(1つに)

(N=1,636)

1. 集合住宅(エレベーターなし)	24.6%
2. 集合住宅(エレベーターあり)	30.9%
3. 戸建て住宅・2階建てタウンハウス	42.1%
4. その他〔具体的に： <input type="text"/> 〕	1.6%
無回答	0.8%

(ウ)(イ)で「1.集合住宅(エレベーターなし)」と答えた方におたずねします。
お住まいは何階ですか。(1つに)

(n=403)

1. 1階	27.3%	4. 4階	6.5%
2. 2階	45.7%	5. 5階以上	3.0%
3. 3階	16.4%	無回答	1.2%

日ごろの地域活動*やボランティア活動*についておたずねします

問1 あなたは、地域活動やボランティア活動、お住まいの地域の行事にどの程度参加していますか。(1つに)

(N=1,636)

1. よく参加している	5.0%	3. あまり参加していない	22.2%
2. 時々参加している	19.6%	4. まったく参加していない	52.6%
		無回答	0.6%

問1-1 問1で「1.よく参加している」または「2.時々参加している」と答えた方におたずねします。

どのような活動や行事に参加していますか。(いくつでも)

(n=401)

1. 町内会・自治会などの活動	56.9%
2. 子ども会やPTAの活動	28.2%
3. 老人クラブの活動	3.0%
4. 婦人会の活動	1.7%
5. 地域でのボランティア活動	24.4%
6. 防災訓練や交通安全運動	17.7%
7. お祭りや運動会などのレクリエーション活動	49.4%
8. その他〔具体的に:]	12.0%
無回答	0.2%

問1-2 問1-1で「5.地域でのボランティア活動」と答えた方におたずねします。
参加しているボランティア活動の分野は何ですか。(いくつでも)

(n=98)

1. 高齢者に関する分野	15.3%
2. 障害のある人に関する分野	20.4%
3. 子育てに関する分野	21.4%
4. 保健に関する分野	4.1%
5. 環境美化に関する分野	40.8%
6. まちづくりに関する分野	18.4%
7. 防犯、防災や交通安全の分野	24.5%
8. 国際交流に関する分野	6.1%
9. 人権・男女共同参画に関する分野	1.0%
10. その他〔具体的に:]	10.2%
無回答	0.0%

地域活動

地域の社会的諸問題の解決や福祉向上のために、住民が主体となって地域を拠点として行われる活動。

ボランティア活動

自発的に、他者や社会のために行い、金銭的な利益を第一に求めない活動。また、誰もが暮らしやすい豊かな社会をめざして、人や団体とつながり、社会の課題の解決に取り組む活動。「自発性・主体性」「社会性・連帯性」「無給性・無償性」「創造性・先駆性・開拓性」がボランティアの4原則といわれる。

問2 あなたが今後、お住まいの地域で活動する場合、どのような活動に参加したいと思いますか。(いくつでも)

(N=1,636)

1. 自分の楽しみが得られる活動	38.7%	7. 隣近所の人と協力しあえる活動	23.1%
2. 興味ある知識や教養が得られる活動	41.9%	8. 家庭生活を豊かにする家族ぐるみの活動	13.0%
3. 自分の知識や経験をいかせる活動	25.5%	9. 地域や社会に役立つ活動	32.0%
4. 生きがいや健康づくりができる活動	30.1%	10. 行政への協力や地域自治に関わる活動	6.5%
5. 余暇時間を充実させる活動	20.0%	11. その他〔具体的に：	1.0%
6. 仲間づくりや親しい友人ができる活動	29.1%	12. 特にな	11.1%
		無回答	1.9%

問3 近所に、高齢者や障害のある方の介助・介護、子育てなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けをしたいと思いますか。(いくつでも)

(N=1,636)

1. 安否確認の声かけ	52.9%
2. ちょっとした買い物やゴミ出し	24.6%
3. 食事や掃除・洗濯の手伝い	5.0%
4. 通院の送迎や外出の手助け	7.8%
5. 子どもの預かり	13.6%
6. 話し相手や相談相手	29.2%
7. 災害時の避難の手助け	39.7%
8. 具合がよくないときに、病院等に連絡する	36.0%
9. その他〔具体的に：	1.7%
10. 特にない・わからない	14.6%
無回答	1.7%

問4 あなたは、お住まいの地域で活動する場合、どのような環境や条件が必要だと思えますか。(3つまで)

(N=1,636)

1. 身近なところや便利なところに活動の場があること	56.7%
2. 夜間や休日または平日昼間など、自分にあった時間帯に参加できること	55.0%
3. 子どもの世話や介護・介助を代わってもらえること	9.2%
4. 友人や家族と一緒に参加できること	20.2%
5. 家族や職場の理解・協力が得られること	22.2%
6. 自分の所属する学校や職場で活動が行われていること	5.5%
7. 身近な団体や活動内容に関する情報が手に入る	21.9%
8. 活動資金の補助・援助があること	11.0%
9. 活動に参加することでメリットが得られること(報酬など)	7.7%
10. その他〔具体的に：	1.4%
11. 条件によらず参加したくない	5.6%
無回答	2.4%

問5 あなたは、地域で安心して生活していくために、住民相互の協力関係が必要だと思えますか。(1つに)

(N=1,636)

1. 必要だと思う	38.8%
2. ある程度必要だと思う	52.3%
3. あまり必要だとは思わない	3.1%
4. 必要だとは思わない	0.9%
5. わからない	3.6%
無回答	1.4%

問5-1 問5で「1. 必要だと思う」または「2. ある程度必要だと思う」と答えた方におたずねします。住民の協力関係を築くためにはどのようなことが必要だと思えますか。(3つまで)

(n=1,489)

1. 自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること	39.5%
2. 町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること	32.0%
3. ボランティア団体やNPO(民間非営利組織)の活動を活発にすること	7.9%
4. 地域の人気が軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること	42.5%
5. 地域の企業や団体などに地域活動への参加を呼びかけること	9.3%
6. 地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること	38.2%
7. 地域活動を担う、リーダーとなる人材を育成すること	13.8%
8. 行政や社会福祉協議会が地域活動への支援やコーディネートをすること	14.8%
9. その他〔具体的に:]	2.2%
10. わからない	5.7%
無回答	0.7%

問6 高齢者や障害のある方の介助・介護、子育てなどで困りごとがあった場合、あなたは、地域住民の方による協力を受けたいと思えますか。(1つに)

(N=1,636)

1. 受けたい	18.3%
2. どちらかといえば受けたい	25.7%
3. どちらともいえない	39.7%
4. どちらかといえば受けたくない	10.6%
5. 受けたくない	3.9%
無回答	1.8%

問6-1 問6で「4. どちらかといえば受けたくない」または「5. 受けたくない」と答えた方におたずねします。

あなたが受けたくないと思う理由は何ですか。(いくつでも)

(n=237)

1. プライバシーが守られるかどうか不安だから	56.1%
2. 地域の人に気をつかうことが嫌だから	61.2%
3. 他人の世話にはなりたくないから	30.4%
4. 必要性を感じないから	16.0%
5. その他〔具体的に:]	10.1%
無回答	0.0%

日頃のお悩みと相談についておたずねします

問7 あなた、あるいはご家族は現在、日常生活においてどのような悩みや不安を感じていますか。(3つまで)

(N=1,636)

1. 自分や家族の健康のこと	44.9%	8. 住宅のこと	13.4%
2. 自分や家族の老後のこと	39.5%	9. 地域の治安のこと	16.9%
3. 生きがいに関すること	8.1%	10. 災害時の備えに関すること	21.8%
4. 子育てに関すること	13.4%	11. 差別や偏見、人権侵害に関すること	1.5%
5. 介護の問題	12.0%	12. その他〔具体的に: 〕	1.3%
6. 経済的な問題	27.8%	13. 特になし	11.1%
7. 隣近所との関係	5.4%	無回答	1.3%

問8 災害時を想定した場合、あなたご自身やご家族について、どのような点に不安を感じますか。(3つまで)

(N=1,636)

1. 所在、安否の確認	69.3%
2. 救助、避難誘導	14.9%
3. 避難経路、避難方法	13.6%
4. 避難生活	52.7%
5. 正確な情報の入手	32.0%
6. 生活物資、乳幼児・高齢者等向けの物資	23.0%
7. 医療機関、診療、薬の入手	22.5%
8. 精神的なストレス	21.2%
9. 家屋の強度や家具の転倒防止	16.9%
10. その他〔具体的に: 〕	1.3%
無回答	0.9%

問9 あなたやご家族が、介助・介護など福祉に関することや病気で困ったときに、地域で相談したり頼ったりできる場所はありますか。(いくつでも)

(N=1,636)

1. 近隣住民・町内会・自治会の人	8.3%	7. 保育所、幼稚園、学校の先生や保護者	6.7%
2. 近所(市内在住)の親族	20.2%	8. ケアマネージャーや福祉施設の関係者	8.6%
3. 近所(市内在住)の友人	25.4%	9. かかりつけ医や保健師など医療関係者	22.9%
4. 民生委員・児童委員	2.0%	10. その他〔具体的に: 〕	3.4%
5. 行政の相談窓口*	25.7%	11. 相談できる相手がいない	22.9%
6. 社会福祉協議会	4.3%	無回答	1.7%

* 行政の相談窓口は、市役所、保健センター、女性センター、児童相談所、保健所等の窓口を示します。

問10 市や都などには、福祉についての相談窓口が設置されています。次の相談事業についてご存知ですか。(いくつでも)

(N=1,636)

1. 市役所の相談窓口	67.5%	11. 地域生活支援センター「み～な」「あけぼの」「プラザ」	6.4%
2. 民生委員・児童委員	33.1%	12. 子ども家庭支援センター「たち」「しらとり」	27.2%
3. オンブズパーソン制度	7.9%	13. スクエア21・女性センター	27.1%
4. 地域包括支援センター	6.2%	14. 社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)	18.8%
5. 在宅介護支援センター	24.9%	15. 府中ボランティアセンター、 府中 NPO・ボランティア活動センター	13.1%
6. 権利擁護センターふちゅう	3.1%	16. 人材育成センター	6.4%
7. 心身障害者福祉センター	20.9%	17. 消費生活相談室	18.3%
8. 発達支援センター「あゆの子」	4.0%	18. 知っているものはない	13.2%
9. 児童相談所	28.4%	無回答	1.5%
10. 保健センター	39.6%		

問11 保育や子育て支援、高齢者や障害のある方への福祉サービス、健康づくり、ボランティア活動など、市の福祉に関する情報についておたずねします。

(ア) 日ごろの情報の入手先はどこですか。(3つまで)

(N=1,636)

1. 家族や親族	22.2%	8. 民生委員・児童委員、ケアマネージャー、保育士など	2.8%
2. 近隣の人、友人、知人	22.1%	9. NPO 等の民間団体	0.7%
3. 町内の回覧板	24.6%	10. テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	20.5%
4. 広報ふちゅうや市のパンフレット	63.9%	11. インターネット(市のホームページ以外)	10.0%
5. 市のホームページ	15.6%	12. その他〔具体的に:]	1.7%
6. 行政の相談窓口	3.8%	13. 情報を得たことはない	11.0%
7. 社会福祉協議会	1.6%	無回答	1.2%

(イ) 今後、希望する情報の入手先はどこですか。(3つまで)

(N=1,636)

1. 家族や親族	10.7%	8. 民生委員・児童委員、ケアマネージャー、保育士など	4.5%
2. 近隣の人、友人、知人	12.0%	9. NPO 等の民間団体	1.5%
3. 町内の回覧板	25.0%	10. テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	25.6%
4. 広報ふちゅうや市のパンフレット	59.2%	11. インターネット(市のホームページ以外)	17.8%
5. 市のホームページ	35.3%	12. その他〔具体的に:]	2.4%
6. 行政の相談窓口	13.5%	13. 情報を得たことはない	3.4%
7. 社会福祉協議会	2.4%	無回答	2.4%

問14 現在、府中市の建築物や公共交通機関、情報案内、公園や道路などについて、障害のある人や妊婦、子どもづれ、高齢者等が利用しやすいように整備されていると思いますか。(1)~(11)のそれぞれの項目について、あてはまるものに1つつをつけてください。

(N=1,636)

		整備されている	やや整備されている	あまり整備されていない	整備されていない	整備の必要を感じない	無回答
建築物	(1)車いすの方やだれもが安全に通れる建物の出入口や通路(段差をなくす、幅を広げる)	9.7%	47.6%	27.6%	8.6%	0.2%	6.2%
	(2)公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター	19.6%	54.7%	15.8%	3.5%	0.2%	6.1%
	(3)車いすの方、乳幼児を連れた方などだれもが使いやすいトイレ	11.6%	44.4%	29.9%	7.2%	0.1%	6.7%
道路・交通機関等	(4)歩きやすいように、障害物(商品や看板、放置自転車、電柱等)が取り除かれた歩道や道路	5.1%	27.3%	39.4%	22.6%	0.2%	5.4%
	(5)点字ブロックや視覚障害者用の信号機	9.0%	42.5%	31.7%	9.8%	0.2%	6.8%
	(6)車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス	11.0%	45.5%	28.3%	7.3%	0.3%	7.6%
	(7)障害者用の駐車場	11.9%	40.8%	28.9%	9.2%	1.0%	8.3%
情報案内など	(8)大きな文字、絵、複数の言語を用いた誰もがわかりやすい案内標示	4.3%	27.6%	45.0%	13.9%	1.0%	8.1%
	(9)手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設	1.4%	12.9%	47.9%	23.5%	1.8%	12.4%
	(10)補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど	1.3%	10.0%	42.8%	31.7%	2.8%	11.4%
全体	(11) (1)~(10)や公園、道路などを含むまち全体のユニバーサルデザイン*	3.3%	28.1%	41.4%	18.1%	0.9%	8.3%

ユニバーサルデザイン

道路・住宅・製品などを設計製造する場合に、障害のある人用という区分けをなくし、だれでもが使えるものを作るという考え方

問15 あなたは、街や近所で、障害のある人や高齢者、妊婦、乳幼児を連れた方などに、次のようなお手伝いをしたことがありますか。(いくつでも)

(N=1,636)

1. 乗り物で席を譲った	82.2%
2. 荷物を持った	17.9%
3. 階段の上り下りや道路の横断、電車・バスの乗り降りに手を貸した	26.6%
4. 車いすやベビーカーを押したり、持ち上げたりするのを手伝った	27.9%
5. 道を教えた	42.8%
6. 扉を開けた	54.4%
7. 話しかけたり、声をかけたりした	17.9%
8. 車で送り迎えをするなど、外出の手助けをした	3.4%
9. その他〔具体的に： 〕	1.2%
10. 何もしたことがない	5.2%
無回答	2.8%

問 15-1 問 15 で「10. 何もしたことがない」と答えた方におたずねします。

何もしたことがない理由は何ですか。(いくつでも)

(n=85)

1. 忙しく、急いでいたから	7.1%
2. 手伝いをするに、気恥ずかしさを感じたから	10.6%
3. おせっかいのような気がしたから	18.8%
4. どのように手助けしてよいか、わからなかったから	12.9%
5. 専門の人や関係者にまかせた方がよいと思ったから	3.5%
6. 困っているのを見かけたり、出会ったりしたことがなかったから	63.5%
7. その他〔具体的に： 〕	7.1%
無回答	0.0%

問16 人にやさしいまちづくりをすすめるためには、高齢者や障害者の方々が利用しやすい建物等の整備をすすめるだけでなく、市民一人ひとりの理解と協力、いわゆる「心のバリアフリー」を実現していくことが課題となっています。そのためにどのようなことが必要だと思いますか。(3つまで)

(N=1,636)

1. 広報紙、テレビ等を通じて、多くの人が多様な情報にふれる機会が増えること	48.0%
2. 学校で障害者とともに学習すること等により、子どもたちから自然に接する環境で過ごすこと	62.6%
3. 地域の行事等により、市民が障害者と直接交流する機会が増えること	30.8%
4. 障害者等へのボランティア活動に多くの人に参加できるようになること	17.1%
5. 学校で、車いす体験をしたり、手話や介助方法等を覚える授業が活発に行われるようになること	43.2%
6. 職場で、車いす体験をしたり、手話や介助方法等を覚える研修が活発に行われるようになること	19.9%
7. その他〔具体的に： 〕	2.9%
無回答	4.4%

バリアフリー 障害のある人が社会生活をしていくうえで妨げとなる障壁を除去するという意味で、建物や道路などの段差など、生活環境上の物理的障壁の除去のこと。「心のバリアフリー」といった表現で、より広く社会参加を困難にしている社会的・制度的・心理的な全ての障壁の除去という意味でも用いる。

福祉に対する考え方についておたずねします

問19 あなたは「福祉」について、どのようなイメージをお持ちですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(1つに)

(N=1,636)

- | | |
|--|-------|
| 1. 所得が少ないなどの事情から生活することが困難な人を国、都、あるいは市が救済すること | 10.9% |
| 2. 高齢者、障害者、児童などのために、国、都、あるいは市が必要な施設を整備して支援すること | 41.6% |
| 3. 日常生活を過ごすのに、困っている人がいたら、みんなの善意で助けること | 7.2% |
| 4. 誰もが利用する可能性がある、市民の生活の質の向上をめざした社会サービスのこと | 21.5% |
| 5. 利用者本人が主体的に選択・決定するサービスによって、自立を支援すること | 8.7% |
| 6. わからない | 2.8% |
| 7. その他〔具体的に： 〕 | 0.8% |
| 無回答 | 6.6% |

問20 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。(1)～(7)のそれぞれの項目について、あなたの考えに最も近いものに1つずつをつけてください。

(N=1,636)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない	無回答
(1) 障害のある人とない人が、地域社会の中できるとともに生活するのが当然の姿である	56.8%	27.8%	7.3%	1.4%	0.3%	6.3%
(2) ホームレスの問題は、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる	19.1%	25.5%	27.4%	15.8%	5.9%	6.3%
(3) 生活保護受給者に対する偏見や差別があると感じる	10.4%	22.1%	34.8%	21.1%	4.9%	6.7%
(4) ひきこもりやニートは、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる	13.4%	22.1%	28.8%	20.2%	9.3%	6.3%
(5) 児童や高齢者の虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である	42.2%	36.7%	12.2%	2.3%	0.4%	6.3%
(6) DV*被害を防ぎ、被害者を支援するために、地域でのつながりが重要である	26.9%	37.3%	22.8%	5.0%	1.5%	6.5%
(7) ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である	24.6%	39.8%	23.4%	5.1%	0.8%	6.4%

DV (ドメスティック・バイオレンス)

夫や恋人など親密な関係にある(またはあった)男性から女性に対して振るわれる暴力。身体的な暴力だけでなく、精神的、経済的、性的な暴力などあらゆる暴力が含まれる。

問24 市では、健康管理や介護予防のためにさまざまな事業を行っています。将来に向けて、どのような健康づくりの事業に参加してみたいと思いますか。(3つまで)

(N=1,636)

1. 交流(趣味、レクリエーションなど)	44.9%
2. 骨折予防などの寝たきり予防生活機能の維持・向上	14.5%
3. 運動・スポーツ活動	50.5%
4. 筋力トレーニング	18.5%
5. 生活習慣病の予防	37.7%
6. 認知症の予防、ケア	25.7%
7. 歯科・口腔ケア	13.0%
8. 栄養や食事の指導	22.2%
9. その他〔具体的に： 〕	0.9%
10. 特にない	6.9%
無回答	1.8%

問25 「利用者本位の福祉」を実現するために、府中市ではどのような施策に優先して取り組むべきだと思いますか。あなたの考えに近いものをお答えください。(3つまで)

(N=1,636)

1. 福祉サービスに関する情報提供を充実すること	51.7%
2. 団塊世代など退職後の人々が地域活動で力を生かせる機会を増やすこと	39.7%
3. ボランティアの育成や活動への支援を充実すること	16.7%
4. 的確な相談が受けられるようにすること	48.0%
5. 苦情に対して、適切な対応ができるようにすること	19.1%
6. サービスの内容を評価し、改善する仕組みを充実すること	23.1%
7. 行政やサービス事業者の情報公開を進めること	21.6%
8. 市民が、福祉に関わる法律や制度について、学習できる機会や場を提供すること	17.1%
9. 利用者の権利を保護する仕組みをつくること	9.2%
10. その他〔具体的に： 〕	1.2%
11. わからない	2.8%
無回答	2.1%

問26 最後に、府中市の福祉やまちづくりへのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

府中市
福祉計画（地域福祉）調査報告書
平成20年3月

発行：府中市 福祉保健部 地域福祉推進課
〒183-8703 府中市宮西町2丁目24番地
TEL 042(335)4182 (直通)

調査：株式会社生活構造研究所
〒102-0083 千代田区麴町2丁目5番地4
TEL 03(5275)7861

